

神宗ハ良心ヲ進ム一歩ヲ進ム「ストア」ノ良心ハ大ナヘツツアリ

故ニ表現ナリ根柢ガ大切

律學ニ於テ殊ニ然リ。故ニ直チニ後ニ現ハルル懷疑派ハ知識ハ當テニナラズトセリ。良心義務ハ法律學道德學ノ大切ナル點ナリ。神宗モ同ジ點ガアル。「ストア」ニイハスレバ何故トイハバ爲サナケレバナラヌ故爲ス良心ノ命ナリトイフ。良心トハ何ゾ。神ナリ神ノ命ナリ「ロゴス」ノ命ナリ、心ノ命ナリ。基督教モ此ノ精神ヲ採用セリ。唯基督教ニテハ自殺ハ自分ノ希望ヲ捨テテシマウ故意氣地ガナイガ、他ノ爲ニ殺サルコトハ辭スベキニ非ズトナス。自分信仰弘通ノ爲ニ死スルハ名譽トセリ。故ニ無間ニ殺サルコトヲ喜ビテ、弊害多カリシガ弊害ヨリモ其ノ貢獻ハ非常ノモノナリキ。歐人ノ強キ魂ハ此ノ精神ニテ鍛ヘラレタルニ由ル。日本人モ之ト同ジク古神道ノ信仰ニヨリテ生活スルヲ以テ、例ヘバ戰爭ニモ強イ。天草ノ亂ノ如キ日本人ガ此ノ基督ノ精神ニ結ビ付キシヲ以テ、中中強カリシナリ。

第六 義務絕對的實行

義務ナルガ故ニ義務ヲ實行シ、義務ナルガ故ニ人格ヲ完成スベシ是レ良心ノ命令ニシテ理性ノ指示ナリ、即チ一神ノ目的ナリ。抑モ人間ハ根本的ナル良心ノ命令ヲ聞キ、理性ノ指示ヲ受クルトキハ、徒ラニ生ヲ欲シ快樂ヲ求ムルモノニ非ズ。然レドモ此ノ純粹ナル命令及ビ此ノ指示ヲ識別スルコト難シ。人間ハ一神ノ目的ニ歸一シ、佳境ニ入レバ又苦痛ヲ厭ヒ死ヲ怖ルルモノニ非ズ、然レドモ此ノ境遇ニ入ルコト難シ。先ヅ此ノ境遇ニ己ヲ置カシメ、此ノ命令ヲ感得セ

シメントセシ先人ハ「ブラトーン」ナリ、此ノ地位ニ立テテ其ノ目的ノ爲ニ利用スベキ道具ヲ用意シタル者ハ「アリストテレイ」スナリ、之ヲ斷行スルノ勇氣ヲ修養セシメタル者ハ「ストア」ナリ、即チ「ソクラテイス」ノ斷行方面ナリ。此ノ仔細ノ吟味ト緻密ナル發達トハ後代ニ遺サレタル事業ナリトス。「ストア」ハ此ノ佳境ニ必要トセリ。

各人ハ其ノ境遇ニ當テハマルコトガ大切ナリ、自己ノ適所ヲ求メ、分擔ヲ明ラカニシテ其ノ權限ヲ守ラザルベカラズ。「ストア」ガ斷行スル方面ニツキテ明ラカニセシハ「ソクラテイス」ガ平然毒ヲ仰ギテ死セシ所ヲ發揚セシニ在リ。

「ストア」學徒ハ各自ニ適應スル境遇ヲ求ムルニ焦慮スベキコトヲ要求セザルノミナラズ之ガ爲ニ心ヲ動かサルコトヲ惡事ト認メタリ。故ニ彼等ニ從ヘバ自己ニ適應セル境遇ニ在ルガ故ニ喜ンデ其ノ義務ヲ行フガ如キハ尙模範トナスニ足ラズ、逆遇ニ處シ失意ノ境遇ニ居リナガラ毫亂ルルコトナク其ノ良心ノ指揮ニ違ハザルヲ主義トナス。但シ後期ノ「ストア」學徒ハ此ノ境遇ヲ識別シ、又心ヲ奪ハレザル範圍ニ於テ境遇ヲ擇ミ求ムルコトハ必ズシモ惡事トナサザルコトハ曩ニ述ベタルガ如シ。

第七 同情及ビ正義

「ストア」ハ個人主義ナリ。併シ之ヲ統括スル宇宙ヲ認め、其ノ中間ニ存スル家族國家等ヲ是認セリ。故ニ其ノ他人ニ對スル關係ハ詭辯論者ト異ナレリ。先ヅ各個人間ニ於テハ正義ヲ重ンジ、普遍的同情即チ惻隱ノ心ヲ主義トセザルベカラズ。而シテ其ノ正義トイフハ、自ラ其ノ本性ニ違ハザルガ如ク、他ノ各個人ノ本性ヲ損ヒ其ノ意思ヲ輕蔑セザルヲイフ、其ノ權限ヲ謬ラシメザルヲイフ、其ハ得ベキモノヲ與フルヲイフナリ。（アリストテレース）ノ分與的正義參照（Symnum unique tribuere）トハ爾後現今ニ至ルマデ常ニ歐洲ヲ支配シツツアル思想ナリ。斯ノ如ク「ストア」ハ同情ト正義トヲ主義トシテ、人格ノ完成ヲ説ケドモ、愛情ノ點ハ尙比較的背後ニ存スルガ故ニ、其ノ人格ノ完成モ主トシテ自己ノ人格ニツキテイヒシモノニシテ、他人ニツキテハ之ヲ害セザレバ足レリトスルモノナリ。（消極的ナリ）是レ愛情ヲ主トシ、我ヲ忘レ、一意君父主人其ノ他ノ人格者ノ完成ヲ目的トシツツ生活スル日本古神道及ビ武士道ニ及バザル要點ナリ。

「ストア」學派ノ分與的正義參照  
テアリス  
トノ分與的正義參照  
テアリス  
トノ分與的正義參照

「ストア」學派ノ分與的正義參照  
テアリス  
トノ分與的正義參照

「ストア」學派ノ分與的正義參照  
テアリス  
トノ分與的正義參照

日本古神道  
及ビ其ノ根  
據ニ存スル  
武士道  
古神道ハ神  
ナガラ言舉  
セラレズ

人間到處在  
青山

トセシト同時ニ宇宙ヲ認め、中間ノ國家ヲ認め、正シキ同情ヲ標榜シ、各人ノ關係ヲ圓滿ニセントセリ。正義トハ他人ノ人格ヲ傷ツクベカラズトイフコトナリ、客觀的ニハ Symnum unique tribuere トイフナリ。各人ニ各人ノモノヲ分與スルト云フコトヲ重ンジタリ。「アロイセン」國ノ勳章ニハ Symnum unique ト書キアル。「ストア」ノ考ハ自己ノ人格完成ノミナラズ、他人ヲ害シテハ相成ラントセリ。但シ日本ノ武士道ニ比スルトキハ尙大ニ個人的ナリ。日本ニテハ他人ヲ害スル勿レノ程度ニ非ズ。和魂ヲ奉ジツツ自己ノ人格ノ完成ハ棚ニ上ゲテ、君ノ爲メ、主人ノ爲メ、親ノ爲メ、子ノ爲メ、其ノ人格ノ完成ヲ主トセリ。之レ日本古神道及ビ武士道ノ特色ナリ。一步進ンテ自己ニ執着セヌ所ガ美ナリ。但シ日本ノ古神道武士道ハ理窟ニ非ズシテ信仰ナリ習慣ナリ。「ストア」ノハ慣習ニ非ズシテ哲理ノ上ニ立ツ點ガ實ニ異ナル所ナリ。自己ノ人格ノミニ拘泥セヌコトハ人ノ爲メシ行動ニツキテ責任ヲ負フニテ解カレ。之ヲ除ク爲メ自身ヲ殺ストイフガ如シ。袈裟御前ノ如キ人ノ行爲ヲ自己ガ責任ヲ負フテ、惡シキ原因ヲ消滅ス、斯ノ如キ考ハ少クモ「ストア」ニ於テハ見ルコトヲ得ズ。

第八 國家

次ニ「ストア」ハ公共心ヲ重ンジ、國家生活ヲ必要トセシガ「プラトーン」「アリストテレース」ノ如ク、國家ヲ以テ「小市國」ニ限界スルノ愚ヲ笑ヒ、人類ヲ包容スル大國ヲ以テ其ノ理想トセリ。何トナレバ吾人ハ唯一ノ神ノ發現ニシテ、唯一ノ神ノ法ニヨリ支配セラルルコトヲ理想トスベケレバナリ。人間ハ皆同一ノ大道ヲ

踏ムベキモノナレバ、國家ノ存在ノミガ目的ニ非ズ、各人ハ又直接ニ神ノ顯現者トシテ、尙獨立ノ性質ヲ有シ、相互ニ交通スベキモノナリトセリ。但シ此ノ爲ニ自由ノ權利ヲ主張スルコトニ至ラザリシハ、尙一面ニ於テハ部分ハ全部ヨリ絕對ニ定メラルトイフ思想ヲ有セシ影響ニ外ナラズ。此ノ故ニ、ストア「ハ」キニコス學派ノ世界主義ヲ收容シ改善シタルモノナリ。羅馬帝國ノ擴張ニ「ストア」ノ淺カラザル關係ヲ有スルコトハ、何人モ已ニ之ヲ知ルコトヲ得ベシ。（特ニ「ヘーラクライトス」ノ道德論參照）  
「ストア」ハ國家法律論ニツキキ性法說即チ自然法說ヲ唱ヘ法制ノ發達ニ著シキ效果ヲ與ヘタルモノナリ。

性法ト自然法トハ必ズシモ同ジカラズ。タダ「ストア」カライヘバ自然法ハ即チ性法ナリ。日本ハ鎖國シテ居タコトモアルガ其ノ根柢ニハ汎神論並ビニ自由觀念論ノ精神在ルヲ以テ、何處マデモ已ヲ擴張スルコトヲ主義トス。是レ古神道ノ要求ナリ。

第九 結論

「ストア」ノ學說ハ其ノ動カザル義務心竝ビニ人格完成ノ主義ニヨリ次ギノ如ク驚クベキ反對ノ要素ヲ包容セリ。例ヘバ、一 認識ニツキテハ感覺ヲ主トシナガラ、尙理性及ビ有意ヲ要件トスル判斷ヲ必要トシ。二 知識ノ役立ツコト

ヲ説キナガラ、尙連結スルニヨリテ生ズル高等ノ知識ナルモノハ各自ノ人格ニヨリテ支配セラルルコトヲ論結シ。三 唯物論的物質ヲ採用シナガラ、却ツテ益、精神ヲ重ンジ。四 汎神論ヲ採用シツツ、汎理論ヲ採リ、汎理論カト思ヘバ汎意識ニ似タル點アリ、汎意識カト思ヘバ又同情ヲ説ク。五 唯物論カト思ヘバ機械論ヲ採ラズシテ、目的論ヲ採リ。六 客觀的自然ヲ主トシツツ、之ガタメ反ツテ其ノ發現者タル個人ノ主觀ヲ神聖ニ見。七 人格ノ完成ヲ期スルト共ニ、其ノ爲ニ反ツテ没我ニ近キ寡慾ヲ理想トシ。八 個人ノ幸福ヲ是認シツツ、反ツテ不幸ヲ願ミズ。九 個人ノ生存其ノ自衛ヲ最小限度ノ義務トシツツ、自殺ヲ正當ト看做シタリ。十 其ノ他理體ヲ以テ神夫自身ト認メ、各自ノ理性ヲ其ノ顯現ト認メタレドモ、之ト對立スル個人ノ物欲アリ。十一 吾人ハ又理法ノ顯現者デアリナガラ、同時ニ目的ヲ以テ充タサレ且意思ヲ有シ。十二 又吾人ハ自然界ニ於テ嚴格ナル必然ヲ免レザレドモ、道德界ニ於テハ意思ノ自由ヲ失ハズ。十三 終リニ「ストア」ハ個人主義ヨリシテ、國家主義、世界主義ヲ唱ヘ、克己ヨリ修練シテ、世界ニ克己自ラ己自身ノ主人タルコトヲ學ビ之ヲ擴張シテ世

界的國家ヲ建設セシメタリ。(此ノ點ハ殊ニヘーラクライトスノ國家論佛敎哲  
理大人本位論參照) 此ノ學派ガ「アリストテレイス」ノ二元的對立ヲ排斥シ汎神  
論ヲ唱ヘタルモ實ハ此ノ克己ノ要求ニ基ヅクモノナリ。

斯ノ如ク「ストア」ハ有ラユル思潮ヲ其ノ學說ニ採用セシガ哲理トシテハ人生  
ニ重ク且寧ロ卑近實際的ナリシガ故ニ各種ノ反對矛盾ハ之ヲ統一シ悉クスコ  
トナク折衷的ノ色彩ヲ帶ベリ。其ノ主要ナル點ハ最モ根本的ノ原理ニ高メラ  
レタル物活論ニ在リ、單純ニ精神ヲ有スル物質ヲ認メタル點ニ存ス。然レドモ  
「ストア」ノ學說ハ單純ナル折衷編纂又ハ混合ヲ事トスルモノニ非ズシテ、其ノ道  
德論ノ活キタル精神ニヨリ實行上必要ナル各方面ヲ連結シタルモノナリ。是  
レ此ノ學派ノ哲理ガ實行ト離ルルコトナク大ナル羅馬ノ建設ニ貢獻シ且在來  
ハ希臘哲學ニ對シテ特色アル所以ナリ。「ストア」學派モ亦偉大ナル哉。

### 第四節 懷疑學派

#### 目次

- 第一款 總說
- 第二款 前懷疑學徒
- 第三款 第二第三「アカデミー」學徒
- 第四款 後懷疑學徒

### 第一款 總說

懷疑學派ハ在來唱導セラレタル各種ノ哲理ガ相互ニ矛盾反對セルヲ見且當  
時ノ政治生活ニ於ケル動搖ニ影響セラレ、哲學上消極的論結ヲ主張セリ。知識  
ハ凡テ感性知覺ヨリ生ズルモノナリ、然ルニ感性知覺ハ外界ノ實有、其ノ儘ニ非  
ズシテ主觀的ノモノナリ。吾人ハ如何ニシテ知識ノ眞ト妄トヲ辨ジ得ルカ之  
ヲ判斷スルモノハ皆吾人ノ外ニ出デザレバ、吾人ノ觀念ガ外界ノ實有ニ合一ス  
ルト否トヲ知り得ベキ筈ナシ。知覺ハ元判斷ニ非ズ、知覺ヲ材料トシテ推理シ、  
判斷ヲ下スニハ主觀的ナル公理 Axiom 並、前提 Premise ヲ用キザルベカラズ。  
是故ニ吾人ガ外界其ノ儘ヲ眞ニ知り得ベシトスルハ誤レリ。是レ此ノ學派ガ

「プラトーン」アリストテレイス以下ニ對スル攻撃ナリ。

此ノ學派モ大切ナリ。是ナクバ羅馬中世近世ノ思想ト連絡ヲ有セズ。佛教モ空論ヲ通リテ、眞空論唯識論ガ發達シ活キテ來タノト同様ナリ。

第一 此ノ懷疑ハ希臘ニ於テ、已ニ古ヨリ次第ニ發達シタルモノナリ。先ヅ「エレア」學派ノ「ツエーノーン」及ビ詭辯論者ニヨリテ著シク意識ニ高メラレタルガ、「ソークラテース」學徒中ニ於テモ「アンチステネース」ハ個個ノ知覺ヲ認ムレドモ、一般ニ概念ヲ認ムルコトヲ拒ミ、其ノ結果知識ヲ輕ンジテ實行ヲ貴ビタリ。「アンチステネース」ト反對ノ地位ニ立テル「プラトーン」モ知覺ヲ以テ主觀的ノモノトシ、概念ヲ以テ實有ニ合スルモノトセリ。然ルニ概念ハ元主觀的ノモノナレバ、概念ノ客觀的實有ヨリモ其ノ主觀的方面ニ重キヲ置クニ至ルト共ニ「プラトーン」ノ學說ガ懷疑說ニ轉化スベキハ又自然ノ勢ナリ。

大袈裟ニ疑ヒシハ此ノ學派ナレドモ、「エレア」學徒、パルメニデースモ皆懷疑的ノ分子ヲ有ス。「ソークラテース」プロタゴラスニヨリテ感性知覺ノ當テニナラヌコトヲイヒタリ。「ソークラテース」デサヘ不識トイヘリ「プラトーン」モ個個ノ現象ハ當テニナラヌ、概念デナクテハナラヌトセリ。概念ト主觀ト離レタルモノデナク又實在トモ離レタルモノニ非ズ。疑フテミレバ概

念トハ主觀的ニ存在スルモノナリ。

第二 懷疑學派ハ「客觀的實有ガ思惟ニ映ズルモノナリトナス、總ベテノ獨斷」ヲ打破セント試ミタル者ナリ。在來ハ大體人ノ精神ガ實在ヲ認識シ得ベキコトヲ前提シテ知識ノ總ベテヲ集メテ宇宙ノ存在ヲ認メタリ。之ニ反シテ吾人ノ理性ト雖モ、元來主觀的ノモノ故其ノモノニヨリ外界其ノ儘ヲ知り得ベシトスルコトハ信用シ難ク、知覺モ亦信賴シ難キコトヲ斷定シタル者ハ即チ懷疑學徒ナリ。

今日モ一般ノ人士ガ吾人ノ知識ハ人間ノ精神ニ外界ガ映ルモノト思ヘリ、故ニ知識ハ良キ鏡ノ如シトイフ。懷疑派ハ此ノ說ヲ打破セシガ未ダ時代ガ許サズ消極的ニシテ積極的ニ哲理ヲ構成スルニハ至ラザリキ。

第三 然レドモ是等ノ懷疑學徒モ尙一方ニハ人間ガ論理的ニ思惟スル能力アルコトヲ前提セシモノナリ。之ニモ拘ハラズ其ノ思惟ト外界トノ關係ヲ批判セザリシハ缺點ニシテ此ノ點ハ「カント」ニ至リ初メテ成功ヲ以テ試ミラレタルモノナリ。「ソークラテース」タル「プロタゴラス」ハ外物ト吾人ノ意識ニ浮ベル對象トヲ區別セシガ希臘ニ於テハ終始外界ニ何等カノ實在アリテ吾人ヲ刺激ス

外部ノ實在ニ提ハルルガ故ニ反ツテ懷疑トナリ

ルコトヲ疑ハズ。是レ懷疑學派ニヨリテスラ拒マレザリシ所トス。「フキヒテノ  
唱ヘタルガ如キ主觀的觀念論ハ希臘人ノ決シテ想像シ得ザリシ所トス。(バル  
メニデイスノ所ニ舉ゲタル起信論ノ文句參照) 且、懷疑學派ハ人智ノ眞ナルコ  
トヲ疑ヒ之ニ關シテ種種ノ法則ヲ立テタルガ何故ニ是等ノ法則ノ眞正ナル  
カラ討究スルコトナカリキ。是等ハ皆古代懷疑派ノ制限ナリトス。

「プロロータゴラス」ハ知覺ノ對象ハ外物夫自身ニ非ズ、何カ分ラヌ、吾人ノ意識ニ浮ベルモノニ  
過ギズトセリ。意識ニ於テ存スルモノヲ對象トシテ考ヘ又知覺スルノミトセリ。

第四 懷疑學派ハ自ラ積極的ニ知識ノ根柢ヲ確立セザリシガ在來知識ガ外  
部ノ實有ニ相應スルモノト考ヘ其ノ萬能ヲ認メタルコトヲ排除スルノ功績ア  
リシ者ナリ。之ニヨリ一ツニハ知識ト竝ビテ認定ヲ是認シ、羅馬人ノ大ナル認  
定生活ヲ認メ且助成セシムル扶ケトナリ、ストアノ知識ヲ打破シツツ其ノ實修  
論ニ勝利ヲ得セシメタリ。又一ツニハ思潮ヲシテ宗教時代ニ變遷セシムル緣  
トナリ、殊ニ基督教ノ勝利ニツキ有力ナル土臺ヲ附與シタリ。

人智ガ外界其ノママヲ見分ケ得ルナラバ知識萬能ナリ。今迄希臘ニテ知識ガ貴バレシハ、  
主觀以外ニ外物在リ之ガ實有實存ナリ、本體ナリトセリ。之ヲ見分ケルカラ最高力ノモノト

見タリシガ外物ハ在レドモ實ハ知識ニヨリテ外物ガ分ルノデハナク、知識ハ價值アルモノニ  
非ズトナシドウカ仕ナケレバナラヌトテ、別ニ異ナリタル方面ニ向ヒ來レリ。故ニ羅馬人認  
定即チ意思ニ重キヲ置クニ至リシガ此ノ認定モ安心ガナラヌ故遂ニ信仰ニ依ルニ至レリ。

### 第二款 前懷疑學徒

「アレクサンドロス」大王時代ニ於ケル「ピルロイン」Pyrrhon 約360—及ビ其ノ徒ヲ  
前懷疑學徒トナス。「ピルロン」ノ懷疑論トアレクサンドロスノ東征ト共ニ希臘  
人ノ眼界ノ擴ガリタルコトト離ルベカラザル關係アリ。「ピルロイン」自身ハア  
レクサンドロスノ東征ニ從ヒ諸國ヲ巡歴シ到ル處思想ヲ異ニシ知識ヲ別ニス  
ルヲ感ズルコト切ニシテ在來ノ希臘哲學ノミヲ是認スル能ハザルヲ知リタリ。  
恰モ當時ハ印度ノ佛教空宗ノ起リシ頃ナレバ恐ラクハ又其ノ影響ヲ受ケシモ  
ノナルベシ。(佛教ノ一説部 Ekanyaharikah 説參照) 此ノ頃ハ一般ニ彼我ノ思  
想ノ混亂セシ時代ニシテ恰モ中世十字軍ノ遠征ニヨリ基督教スコラ哲學ノ世  
界ニ亞刺比亞ノ思想ガ注ギ來リ東西ノ文化基督教及ビ回回教ノ教義ガ錯綜ス  
ルニ至リタル時代ニ酷似セリ。

「ピルロロン」ハ「エリス」Erisノ出ニシテ、夙ニ「エレア」派ノ「ツエーノロン」Zeiron 竝ビニ詭辯論者ノ説ヲ知リシガ、諸國ヲ踏破シテ其ノ懷疑ノ念ヲ確證セシメ、又「ソークラテース」ノ性格ヲ貴ビ、彼ノ不識ノ結論ヲ信ジタリ。彼ハ先ヅ「アンチステネイス」及ビ詭辯論者「プロイタゴラス」ノ知識論ヲ利用シテ曰ク、知識トハ元感性知覺ニヨリテ得タル材料ニ基ヅキ、唯思惟ニヨリ秩序立テラレタルモノナリ。然ルニ感性知覺ハ、實在夫自身ヲ示スモノニ非ズシテ、各人各別ナル主觀的ノ意識ニ外ナラズ。外物夫自身ノ如何ナルモノナルカ、之ト知覺トガ如何ナル關係ニ立ツカハ正確ニ意識シ得ザルノミナラズ、知覺ハ一トシテ誤ナラザルモノナシ。人間ノ思惟モ各自ノ見ル所ヲ根據トシテ以上ノ不完全ナル知覺ヲ組成スルモノナルガ故ニ、信用シ得ベキ理由ハ毫モ之ヲ見出スコト能ハズト。

然レドモ彼ハ此ノ結論ニヨリ知識ヲ輕視スルト共ニ、「ソークラテース」ノ傾向ヲ帶ビ人生ノ目的ヲ以テ善福 Eudaimonia (eúdaímonia) ニ在リトシ、善福ヲ達スルガ

「アリストテレス」ノ善福参照

創設セラレタル法  
自然法ヲ認メズ

至道無難唯  
餘種擇

爲ニ、實修竝ビニ實行上ノ規則ヲ必要トスト考ヘタリ。吾人ノ職分ハ實在ノ如何ナル者ナルカヲ知ルニ在ラズ。理法ガ如何ニ吾人ニ行動ヲ指示スルカヲ知ルニ存セズ。又吾人ノ行動ガ實在ニ與フル影響ヲ知ルニモ在ラズ。サレバ吾人ハ如何ナル判斷ヲモ下スコト無ク、總ベテノ主張ヲナスヲ控ヘザルベカラズ。偶然ナル判斷主張ヲ真ナリトスルガ故ニ、之ニ執着スルコトトナリ、是等ニ執着スルガ故ニ、其ノ自由自在ヲ失ヒ、反ツテ外界ニ支配セラレ、自己ノ平靜不動ノ心ヲ失フニ至ルベシ。賢人タルノ要義ハ難キニ非ズ、唯 Epoché (ἐποχή)「決定セル判斷ヲナスコトヲ避クルコト」ニ在リ。而シテ、實修上ニ必要ナル規則、竝ビニ習慣ノ如キモ、吾人が創設シタルモノニシテ、客觀的ニ存スル實在ニ非ズ、總ベテ、自身普遍ヲ有スル自然法ニ非ズシテ、認定法ナリ。 nomos (νόμος) ナリ。到ル處矛盾反對シツツアルモノナリト。茲ニ至リテ知識ニ對スル認定ガ漸ク重キヲ爲スニ至リタルモノナリ。最小限度ニ於ケル知識ノ前提ヲ除キ認定ヲ踏ム

結局知識ト認定ト異ナルガ、吾人ノ知識中ニハ認定ガ澤山入りオル。認定ヲ主トシテ見レバ必シモ各一致スルモノニ非ズ、各異ナル認定ヲ下シ得ル故ナリ。

吾人ハ是非ノ判斷ヲ止メザルベカラズ。各人ニ對シテモ或人ヲ是トシ或人

第一門 第三章 希臘文化散布時代 第四節 懷疑學派 第二第三「アカデミー」學徒 三八二

ヲ非トスベカラズ。人ヲ是非スルコトハ誤ナレドモ、人格ノ平靜ナルハ眞ノ善福ニシテ吾人ノ期スベキ所ナラザルベカラズ。即ソークラテイス及ピ、アンチステネーヌノ影響ノ下ニ在ルコト疑ナク、又佛教空宗ノ目的トスル寂靜ナル涅槃ノ大安樂ト異ナルコトナシ。唯異ナル所ハ、ピルロインハ尙全クハ吾人ノ生活活動ヲ廢止スルコト能ハザルモノトシ、止ムヲ得ズ、社會ノ風俗習慣ニ從フベキモノトナシ、此ノ種ノ法則 *Forms* ヲ尊重スベキコトヲ説キタル點ニ在ルノミ。

### 第三款 第二第三「アカデミー」學徒

「プラトーン」ノ「アカデミー」*Academia* 學派ノ懷疑論ハ、第二「アカデミー」ノ「アルケジラオス」*Arkesilaos* 315ノ始ムル所ニ係ル。彼ハ「ストア」ガ感性知覺ノ上ニ得タル觀念ヲ眞ナリトスルニ反對シ、且「プラトーン」ガ思惟ニヨリ、普遍的ノ知識ヲ得ベシトシタルコトヲ排斥シタレドモ、ピルロインノ如ク、全然知識ヲ否定シ、一切ノ判斷ヲ止ムベキコトヲ説キタル者ニ非ズシテ、知識ノ蓋然性ヲ主張セリ。彼ニ後ルルコト百年ニシテ、「カルネアデイス」*Karneades* 313アリ。「カルネアデイス」

ハ第三「アカデミー」ノ創立者ニシテ、此ノ世紀ノ最モ著名ナル學者ノ一人ナリ。彼ハ「アルケジラオス」ノ蓋然論ヲ祖述シテ曰ク、知識ハ總ベテ感性知覺ヲ材料トシテ、其ノ背後ニ存スルモノヲ判斷スルモノナルガ之ニヨリテ得ベキ概念ハ種種アリテ、絶對ニ其ノ眞僞ヲ判定スベキ標準ハ何處ニモ之ヲ求メ得ベキナシ。何トナレバ總ベテノ證明ハ、其ノ前提ノ確實ナルコトヲ要スレドモ、是等ノ前提ノ根據ハ、何時モ眞僞ノ疑ハシキ感性知覺ニ在ルガ故ナリト。〔ヒューム、Hume 參照〕

第一 知識ノ蓋然性。「カルネアデイス」ハ知識ノ蓋然性ヲ主張シ、且概念ノ階級ヲ三段ニ別テリ。其ノ形式ハ龍樹ノ深般若波羅密多 *Prajñā Paramitā* ヲ行ズルノ段階ニ似タリ。但シ龍樹ガ懷疑ニモ亦執着セズ、但空ノ域ヲ脱シテ真空ヲ求メタルモノトハ異ナリテ、「カルネアデイス」ハ尙懷疑論者タルヲ失ハズ。彼ノ説ケル知識概念ノ程度ハ次ノ如シ。

一 各觀念ハ獨立シテモ、尙夫自身蓋然性ヲ有ス。若シ一觀念ヲ關係アル他ハ、數多ノ獨立セル觀念ニ比較シタル場合ニ眞ラシク思ハルルモノナルトキハ、



道慧(智)

其ノ觀念ハ、夫自身獨立シテモ最モ低度ノ蓋然性ヲ有ス。是レ龍樹ノ所謂個個ノ差別ヲ識別スル道智ニ比スベシ。

二 此ノ觀念ガ之ト關係アル他ノ眞ラシキ觀念ト矛盾反對スルコトナク、相互ニ調和スルトキハ、其ノ觀念ハ一層高度ノ蓋然性ヲ有ス。是レ龍樹ノ道種智ト較ブベシ。此ノ道種智トハ、個個ノ差別智ノ根據トナル差別洞察ノ智慧ナリ。

「カルネアデイス」ハ調和的ニ連結セラレタル個個ノ知識ニツキ、高度ノ蓋然性ヲ認メ、龍樹ハ此ノ連絡ニヨリ、又此ノ連絡ヲ可能ナラシムル根據タル知識ヲ道種智ト名ヅケタルモノナリ。

三 若シ相互ニ關係ヲ有スル總ベテノ眞ラシキ觀念ガ相互ニ調和シツツアリ、且初メノ一觀念ト是等トモ調和スルトキハ、是等ノ知識ハ最高度ノ眞ラシサヲ有ス。即チ一團ヲ成セル觀念ガ揃フテ相互ニ他ノ觀念ノ根據ヲ爲シ、之ヲ保證シツツアル場合ナリ。龍樹ハ此ノ種ノ場合ニツキ、以上一切ノ知識ノ基礎ニ存在シ、其ノ總ベテヲ統括スル其ノ根本ノ無差別普遍ヲ達觀セシムル智慧ヲ一切智ト名ヅケタリ。

一切智

眞ラシキニモ程度アリ、一ツヲ取り他ニ比シテ眞ラシキト關係アル知識ノ總ベテヲ取りテ見ルモ調和セバ、最モ眞ラシキモノナリ。龍樹ハ、見方ガ異ナルモ雙方ノ段階ハ能ク適合ヘリ。

「カルネアデイス」ガ差別ヲ主トシ、感性知覺ヨリ歸納セラルベキ概念ノ段階ヲ列舉セシハ、經驗哲學上頗ル見ルベキモノナリ。之ト比較シタル龍樹ノ各知識ハ形式上似タル所アレドモ、實ハ重大ナル差異アリ。龍樹ハ感性知覺ニヨリ得ラルル差別ノ知識ヲ是認スレドモ、是ノミヲ出發點ト爲サズシテ、理性ニヨリ無差別ヲ洞察スルコトニモ重キヲ置キ、是等各方面ハ、最少限度ニ於テモ相待タザルベカラザルコトヲ説キ、一切一時得ヲ以テ頓トイ本領トナシ、總ベテ此無執着ノ智ヲ一切種智ト名ヅケタリ。故ニ彼ハ懷疑ヲ説キ知識ノ蓋然性ヲ唱フルモノニ非ズシテ、一切種智ニ本ヅク各階級ノ知識ガ皆知識トシテ眞ナルコトヲ説ケルモノナリ。知識ガ意思感情ヲ排斥シテ、獨リ絕對ニ有效ナリトカ、又サレバ此ノ所ニ龍樹ノ般若ト比較シタルハ、其ノ形式ノ一端ノ似タル所以ヲ示シ、龍樹ノ真空論ト「カルネアデイス」ノ懷疑論トガ、大ニ異ナル所アルヲ示サント欲シタルガ故ナリ。

知識ノ絕對  
ヲ提シテ  
カナル故  
カカル性  
ノ蓋然性  
主張スル  
リ  
外界自身  
對モ在ラ  
ズ知識亦  
夫自身對  
非ズトセ  
バ何ゾ其  
蓋然性ヲ  
云スルヤ  
セシヤ

第一門 第三章 希臘文化散佈時代 第四節 懷疑學派 第二節「アカデミー」學徒、三八六  
外物夫自體ガ外部ニ在ルト思フガ故ニ知識ノ蓋然性ヲ唱フルモノナリ、  
龍樹ハ外部ニ絕對ニ實在スル物夫自體ヲ認メズ。故ニ知識ハ知識トシテ  
有效ナリ、眞ナリト説ケドモ、其ノ蓋然性ヲ説カズシテ、只一切一時得ナル知  
識ノ眞ナルコトニ統括階級アルヲ唱フルノミ。サレバ是レ尙知識ノ絕對  
性ヲ認メ知識ノミノ萬能ヲ認ムルコトトハナラザルモノナリ。(六波羅密  
參照)

第二「カルネアデイス」ハ形而上學ヲ批難シテ、其ノ全然不可能ナルベキコト  
ヲ主張シ、殊ニストア學徒ノ説竝ビニ神ノ存在論ヲ打破セント試ミタリ。

一 神ノ存在ヲ疑フテ曰ク、世界ノ目的ニ依ル存在ヲ説クガ故ニ、其ノ目的ノ  
主體ヲ神ト認ムルモノナルガ少クモ、此ノ世界ニ劣惡ノ充滿セルコトヨリ考フ  
レバ、其ノ目的論ノ眞ナルコトハ證明セラレ難シ。(アリストテレースノ一神ニ  
於ケル矛盾ノ第七參照) 然ノミナラズ神ノ概念自身中ニ矛盾ヲ包含ス。若シ  
神ヲ圓滿完全ノモノナリトセバ、必ズ無邊ノモノナラザルベカラズ。從ツテ有  
限ノ權限ヲ有シ、定マレル性質ニ拘束セララルモノナルベカラズ。然ルニ定マ

レル性質モ無ク、特定ノ權限モ無キモノハ、何等ノ内容モ無キモノニシテ、其ノ存  
在ヲ認メ得ベカラズ。サレバ一般ニ認ムルガ如ク、神ハ生活ストカ、道德的ナリ  
トカイフガ如キ特定ノ内容アリテ神ト吾人トノ間ニ或ル特別ノ關係ヲ生ジ得  
ベキモノトセバ、又圓滿完全無限ナルモノトイフコト能ハズト。

之ヲ以テ直チニ汎神論ノ神ヲ打ち消ス根據トナラズ、唯世間卑近ノ神ヲ打ち消スニハ十分  
ナリ。當時正當ノ神計リテナク、不都合ナル神モ澤山混在セシガ故ニ之ヲ破ルニハ有效ナリ  
キ。

二 「カルネアデイス」ハ又正義ノ觀念ヲ批評シ、其ノ當否ニ就キテハ、知識上確  
實ナル判斷ヲ下ス能ハザルモノトセリ。故ニ彼ノ使シテ羅馬ニ在ルヤ、或日ハ  
正義ノ重要ナルコトヲ演説シ、他日ハ正義ノ用ユベカラザルコトヲ論辯セリ。

「正義正義トシカツメラシク言ヘドモ、羅馬人ニシテ、眞ニ正義ヲ實行セント欲ス  
ルナラバ、其ノ戰勝ノ結果ヲ抛擲シテ、原始ノ小屋ニ立チ返ラザルベカラズト。

第三 結論。要スルニ活働ヲ認ムルニ及ビ、始メテ其ノ爲ニ夫ヲ通シテ、其ノ  
内ニ蓋然的知識ヲ認メ得ベキノミ。サレバ此ノ意味ニヨリ、彼ハ知識ノ蓋然ノ  
程度ヲ明ラカニスルコトニヨリテ、人ノ生活活働ヲ可能ナラシムルニ必要ナル

「カルネア  
デイス」ハ  
當時重キヲ  
ナシタル道  
達學派  
Platonians  
「ストア」學  
派ノ「デイ  
オゲネイ  
ス」ト共ニ  
羅馬ニ使シ  
タル者ナリ  
(155 B.C.)

決定ノ標準ヲ得ベキモノトナシ、彼自ラ人生ヲ中心トシテ之ニ用キラルル蓋然  
 的知識及ビ其ノ階級ヲ明ラカニセント企テタリ。此ノ種ノ研究ハ知識ノ濫用  
 竝ビニ獨斷ヲ破リツツ尙知識ヲ拋擲セザラシメシモノニシテ、ピルロインノ懷  
 疑論ニ比スレバ大ニ穩カナレドモ尙懷疑ニ執着シ、懷疑夫自身ヲ疑ハズ、知識ノ  
 蓋然性ヲ知ルコトヲ以テ確實ノ知識ナリトシ、蓋然ニ一定ノ階級アルコトヲ獨  
 斷スルハ尙此ノ論ノ貫徹セザリシ所ナリトス。此ノ弱點ニ着眼セシハ其ノ弟  
 子「アスカロン」Askalonノ「アンチオコス」Antiochosナリ。「アンチオコス」ハ「ラリッサ」  
 Larissa 出ノ「フクロン」Philonト共ニ「アカデミー」派ヨリ出デ折衷說ニ轉ジタル者  
 ニシテ、何レモ「キケロ」(シセロ) Ciceroノ師ナリ。之ヲ第四第五ノ「アカデミー」學  
 徒トナス。

### 第四款 後懷疑學徒

「アカデミー」派ノ懷疑論ガ「フクロン」Philon 竝ビニ「アンチオコス」Antiochosニヨ  
 リ折衷說ヲ探ルニ至リタルニ對シ、ピルロインノ前懷疑論ヲ復興シタル者ヲ後

結局「アル  
 キメ」アル  
 ス「メ」アル  
 要ス「メ」アル  
 仰ニ歸ス

○ Ainesidemus  
 「アイネシデ  
 ーモス」  
 Tropos

表現ノ城ニ  
 達セントス  
 ル要求益々  
 切ナルヲ致  
 ス

元ヨリ此ノ  
 意味ハ未ダ  
 心理學的認  
 識論的ニ非  
 ズ、懷疑ニモ  
 着セズシテ  
 分析ヲ始ム

ノ懷疑派トナス。「エネシデムス」Ainesidemus 之ニ屬ス。一紀元前。彼ハ十個ノ句  
 Troposヲ立テ、句ニ約セラレ五現象ノ背後ニ存スル客觀的ノ本質ハ到底知識ヲ  
 以テ證明シ得ベキモノニ非ザルヲ論ジ、吾人ノ思惟ハ何時ニテモ下シタル斷定  
 ニ對シ、正反對ヲ主張シ得ベシト説キ、各自ノ無知ナルコトニモ偏執セズ、無執着  
 ハ、生活ヲ以テ平靜不動ノ根據トナスベシト論セリ。(禪宗ノ出發點參照)

アラユル知識ヲ集メテ矛盾セザル程確カラシサガ高シ。從ツテ終ニ「アンチオコス」ヤ「フク  
 ロイン」ニ至リテ折衷ニナリタリ。何レニモ執着スル勿レ、一先ヅ今迄ニ出來タモノハ卻ケテ、  
 更ニ始メヨトナセシガ直ニ善キモノハ出來ズ、終ニ折衷說トナリタリ。折衷說ハ平面ノミヲ  
 取リテ並ベルモノ故不可ナリ。偶然ノ標準ニテ並ベルモノナリ。故ニ根本的ニ非ズ。併シ  
 常ニ根本的ナルヲ望ム能ハザル故折衷モ又一法ニシテ、必ズシモ惡事ニハ非ズ。羅馬ハ折衷  
 的ナリシガ此ノ哲理的根據ヲナシタルモノハ懷疑論ナリキ。

前懷疑學徒ハ、知覺及ビ思惟ハ吾人ヲ欺クモノニシテ、之ニ信用ヲ措クコト能  
 ハズト論ジタリ。後ノ懷疑派ノ「セクストス」エムピリロス、Sextus Empiricosハ人  
 智ノ重要ナル二大源ヲ試験シタリ。「セクストス」Sextusハ醫師ニシテ經驗ニヨ  
 リテ得タル治療法ニ限ラザルベカラザルコトヲ唱導シタルガ故ニ「エムピリコ

ス、Empirikus ノ名ヲ得タルモノナリ。紀元後二世

後ノ懷疑派ハ前ト異ナリ、無知ニモ執着スル勿レトシ凡テ捉ヘ所ナカリシガ、アイネシデー  
モスヨリ二百年後ノ「エムピリコス」ハ實驗以外ニハ何モイフ能ハズトナセリ。從ツテ知覺思  
惟ヲ分析シテ經驗ヨリ確カメントセリ。近世ニ至リテ研究ヲナシ大發達ヲナセシ端緒ナリ。

第一 感性知覺。先ヅ感性知覺ガ知識ニ於ケル價值ヲ吟味セリ、但シ此ノ點  
ニ就キテハ新機軸ヲ出セシモノニアラズ。

曰ク總ベテノ感性知覺ハ外物ノ刺激ニヨリ意識ノ上ニ起サシメラレタ  
ル影象ニ外ナラザレバ其ノ影象ト外物自身トノ關係ハ知ラレ得ベキ筈ナ  
ク影象ト外物自身トハ決シテ同一物ニ非ズ。而シテ知覺ハ元來吾人ノ主  
觀的狀態ニ支配セラレテ成立スルモノ故感官ノ狀態ニヨリ又ハ吾人ノ心  
持ニヨリテ異ナラザルヲ得ズ。故ニ一物ヲ採ルモ其ノ形體ハ遠近ニ從ヒ  
異ナリテ見エ又見ルト聞クトニヨリテ異ナル。小ナルモノ必ズシモ小ニ  
見エズ大ナルモノ必ズシモ大ニ見エズ。是等ニ對シテ主觀ト外界自身ト  
ヲ結合スベキ標準在ルコトナシ。何トナレバ此ノ標準ハ常ニ吾人ノ主觀  
的ハモノナレバナリ。要スルニ吾人ノ知覺ハ夫自身獨立シテ絶對ニ有效

ナルモノニモ非ズ、又絶對ニ外物自身ニ符合スルモノニモ非ズ。知覺ハ一  
外物外部ニ存在ニ中間物三感官ノ影響ヲ受ケテ成立スルモノナリト。

「セックストス」ガ始メテイヒシコトニハ非ズ。感官ノ狀態、中間物ニテ常ニ異ナリ、又外物自身  
ニテ異ナル。實ハ唯漠然ト外物トイフモノナシ、然シ懷疑派ハ外物夫自身ガ存スト認メタリ。  
此ノ學派ハ不要ノ如キモ決シテ然ラズ。知覺ガ當テニナルナラバ法律ハ知覺ノ附屬物ナリ。  
然ルニ當テニナラザレバ、コンナ知識モ其ノ儘デハ役ニ立タズシテ認定ガ大切トナル。知覺  
ノ價值ニ應ジテ或ハ法律萬能トモナリ、或ハ知識萬能トモナリ、或ハ種種ノ論トナルナリ。

第二 悟性。

悟性ニヨル思惟ノ吟味ニツキテハ、刮目シテ視ルベキモノ在リ。

一 三段推理及ビ歸納推理ノ眞妄ヲ疑フ。

イ 三段推理法。總ベテノ三段推理ハ前提ヨリ來リ、是等ノ前提ハ或ハ直接  
判斷タリ、或ハ間接判斷タリ。直接判斷タル場合ニハ、或ハ經驗ヨリ得ラレタル  
モノアリ、或ハ人間ノ心ノ働キヨリ取り出サレタル定義、公理、根本概念、竝ビニ形  
而上學ノ原則タルコトアリ。是等ハ何レモ主觀的ノ性質ヲ帶ビ正確ナリトイ  
フコト能ハズ。間接判斷ハ二以上ノ直接又ハ間接判斷ヲ結合セシメテ得タル

結論ナレバ、又此ノ範圍外ニ正確ナルコト能ハズ。

是レ價值アル意見ナリ、是等ハ主觀的ノモノニ相違ナク、知覺ヲ土臺トシテ、材料ヲ元トシテ  
三段論法ヲ行フ、是等ノ材料ハ皆主觀的ノモノナリ。ソノ客觀的ニ存在スルコトハ如何ニシ  
テ知り得ルカ、主觀的同志ノ間ニ分ルノミデ、主觀ヲ離レテ客觀的ニ有ルヤ無キヤ、證明シ得ラ  
ルル限リニ非ズ。外物モ主觀ノ土臺ヲ擴張セシニ過ギズ。主觀ヲ離レテ一物モナシ。故ニ  
純客觀的ニ絕對ノモノ無シトハ動カスベカラザル眞理ナリ。

人心ノ働キヨリ取出ス言語、定義、公理、根本觀念、形而上學ノ原則ハ、何故ニ外物  
自身ヲ言ヒ表ハスモノナリト主張セラレ得ルカ。論ヨリ證據、是等ノ定義、公理、  
形而上學ノ原則ハ、學者毎ニ異ナルニ非ズヤ。或ハ人間ハ神ノ顯現者ナルガ故  
ニ、又神ノ保護ヲ受ケツツアルガ故ニ、外界其ノ儘ヲ其ノ心ノ中ヨリ取出スコト  
ヲ得ベク、斯クシテ下シタル定義、公理ハ、絕對ニ眞ナリトナス者アルベシ。然  
レドモ、斯ノ如キコトハ、證明ヲ要スル假定ニシテ、永久何人モ絕對ニハ之ヲ證明  
シ得ザルベシ。宛モ未ダ見ザル人ノ肖像ヲ見テ、夫ガ實物ノ本人ニ似タルト否  
トヲ判斷スルガ如ク、何程熱情誠心ヲ以テ考フルモ、決シテ確實ナル答ヲナシ得  
ベカラザルガ如シ。心ノ内部ニ在ルモノト外部ニ在ル實在トガ合スルモノト

故ニ眞面目  
ナル普遍的  
信仰ニ歸ス

佛敎ニテモ  
空論ヨリ眞  
空論ニ入リ  
唯識論ヲ通  
過セネバ眞  
ノ奧ニ達ス  
ルヲ得ズ

「キケロ」ノ  
自由意思說  
參照  
羅馬時代ノ  
精神ノ影響  
ヲ受ク  
吾人ヲ通シ  
吾人ノ爲ニ  
吾人ノ中ニ  
智アルノミ

ハ到底斷言シ得ザルナリ。

誰モ實在夫自身ヲ見タルコトナク、吾人ノ眼ニ映ルモノハ唯肖像ナルニ、之ガ實在ニ似テ居  
ルトカ居ラヌトカ言ヒ争フモ、決着スベキ管ナシ。一度此ノ懷疑ニ達シ之ノ根據ノ上ニ立ツ  
ニ及ンデ我トイフコトガ眞ニ分カル。佛敎ニテ空論ヲ經テ龍樹ノ眞空論ヲ通ラネバ、又無看  
及ビ世親ノ唯識論ヲ通ラネバ、談ズルノ資格ノナイトヨク暗合シテ居ル。古來ノ論ヲ飾ヒ  
分ケル飾ナリ。

歸納推理法。完全歸納法ハ誤ナカルベキモ、爲ニ些少ノ新知識ヲモ得セ  
シムルモノニ非ズ。不完全歸納法ハ正シキ結論ヲ與フベキコトヲ想像シ得ベ  
カラズ。

二 因果律ノ眞妄ヲ疑フ。

因果律ガ眞ニ存在スルト思フハ、大ナル誤ナリ。蓋シ一事物ノ原因トイヒ結  
果トイフモノハ、吾人ノ目的ニ從ヒ、任意ニ事物ヲ連結シテ考フルモノナリ。吾  
人ノ見ル事物ハ決シテ夫自身ガ因果ノ結晶ニハ非ズシテ常ニ偶然ナル事實ナ  
リ。然ルニ事物ノ存在ニハ原因アリ、又其ノ原因アリトナスガ如キハ何故ニ正  
當ナリヤ。人人ハ嘗ニ其ノ正當ナルヲ獨斷スルノミニシテ之ヲ明證シ得ザル

ニアラズヤト。是等ノ疑ハ、知覺及ビ推理法ニ關スル根本的ノ疑問ト相待チテ、古代ニ於テハ終ニ解決シ得ラレザリシモノニシテ、後代ノ研究ニ委セラレタルモノトス。而シテ近世ニ至リ再ビ是等ノ疑問ヲ此ノ儘提出シタル者ハ、*バークレー*、*バークレー* 及 *「ハートム」*、*Hume* ナリ。

因果律ヲ疑ヒシハ尤モニシテ、初メヨリ因果ヲ絕對ト思フハ間違ナリ。懷疑派ハ「プラトーン」ノ實在論ヲ大ニ批難スルガ「プラトーン」ガ直グ後ニ出テ來ル所ヲ見テモ、「イデア」ノ偉大ナル所以ガ分カル。但シ次ギテ起リタルハ「プラトーン」ノ復興ニ非ズシテ羅馬ノ意思ノ世界ナリ。

### 第四章 羅馬人ノ思想

#### 目次

- 第一節 總論
- 第二節 羅馬固有ノ思想
- 第三節 希臘哲學ト羅馬思想トノ結合
- 第四節 羅馬哲學

#### 第五節 羅馬法學

### 第一節 總論

羅馬哲學ハ一般ノ人生觀ヲ開展シタリ。希臘人ノ性格理想ニ適シタル希臘哲學ノ大體ノ特徴ハ美的且學問的ナルコトニ在リ。羅馬哲學ノ特色ハ意思的、活動的、武人的ナルコトニ存ス。而シテ此ハ兩者ト東ヨリ來リタル宗教思想トヲ根據トシテ、大規模ニ人心ヲ支配セントセシハ、次期ノ宗教時代トナス。古代ノ思潮ハ是ニテ完結シ今日ノ歐羅巴人ノ思想ノ根據ヲ成シ且無盡ノ淵源ヲナシツツアルモノナリ。是等ヲ臨濟ノ四料棟ニ照ラセバ希臘哲學ハ奪人不奪境ニシテ羅馬哲學ハ奪境不奪人ナリ、宗教時代ハ人境俱奪及ビ人境不俱奪ニ當ル。又臨濟ノ三句ニ照ラセバ甲ハ第二句乙ハ第三句丙ハ第一句ニ當ル。

羅馬哲學ハ吾人が意識シツツ目的ヲ設定シテ行動スルコト即テ活動ヲ其ノ中心點トナシ吾人ノ意識中ニ活躍セル良心理性自由義務人格神ノ道(大道)ヲアルキメデイス、Archimedesノ點トシテ之ニ依リ活動世界ノ知識ヲ組成シ且之ヲ

實行セント企テタリ。是等ノ概念ハ元神ノ顯現者タル吾人ガ漏レナク有スルモノニシテ是等ヲ有セザル者ハ人間ニ非ズ。神ノ顯現者タル吾人ガ生レナクテ一般ニ心ノ底ニ是等ノ意識ヲ固有スルハ則チ神ノ心靈ニ淵源スルモノナリ。故ニ是等ノ知識ニ本ヅキテ構成セラレタル法道並ビニ制度ハ畢竟神ノ立法セルトコロナリ神ノ建設セルトコロナリ。人法モ亦根源ニ於テハ神法ナルガ故ニ神聖ナルモノナリ。

羅馬人ノ政治的、法律的氣質、即チ主觀主義ハ支那古代ノ政治的、法律的氣質ニ似タル所アリ。此ノ氣質ニヨリ補ハレタル希臘ノ學理ハ是ノミニテ満足スルヲ得ズ、直接ニ東方ヨリ入り來リタル思辨ト結合シテ、次ギノ宗教時代ヲ生ゼリ。其ノ中心點ハアレクサンドリア、Alexandriaニシテ「フキロン」Philon「ラリ」ラリ「サ」出ノ「フキ」派ノ學者ヲ以テ前驅トナシ、「ローマ」ニ於テハ新ブラトーン學徒ノ學校ヲ起ス。在リ其ノ首腦ハ「プロテュス」Plotinusナリ。而シテ此ノ間次第ニ頭ヲ擡ゲ來リシモノハ基督教ナリ。「ストア」學派ト新ブラトーン派ト基督教トハ當時並ビテ「ローマ」人心ヲ支配セシガ、遂ニハ宗教一點張リノ基督教ノ全盛時代ニ轉化ス

ルニ至レリ。

「プロテュス」ハ惟ヘラク。不生不滅ニシテ理性ヲ具ヘ、絶對最高ノ意思ノ主體タル神アリトスレバ、此ノ世界ヲ存セシムルモノハ此ノ神ナラザルベカラズト。然レドモ世界創造説ヲ採用セズシテ發出説Emanatismus(來現關係ノ中ニ屬ス、發出ハ「ブラトーン」ノ來現ト兄弟ナリ發出トハ唯一ノ神ガ各種ノ程度ニ於テ夫自身現ハレツツアル關係ライフヲ用キ、神トシテ存シツツ、尙無限ニ各階級ニ於テ己ヲ發出シツツアルヲ説ケリ。

### 第二節 羅馬固有ノ思想

自然科學ニ心醉セル自然論者竝ビニ實證論者ハ羅馬思想ノ價值ヲ認ムルコト少キニ失シ、ストア哲學ト之トヲ淺薄ナル獨斷的思想ト見做シ、且常識ヲ逸失スルモノトナス。此ノ説ニ從ヘバ、先ヅ羅馬ノ哲學政治學及ビ法學ノ根柢ハ皆希臘ノ思想ヲ採用シ、其ノ上ニ建設セラレタルモノニシテ、羅馬ニ於テ最モ聞コエシ「キケロ」Ciceroノ如キモ「エビク」Epicurus「ストア」及ビ「カルネア」Carneades學徒ノ哲理ヲ折衷シタルモノニ外ナラズ。從ツテ何等ノ獨創ナシ。次ギニ羅馬ノ國人ハ思想上劣等ナリシガ故ニ希臘文明ノ襲來ニヨリテ征服セラレタル

Stoicノ如キストアノ人ハ如何等ノ哲學ニ法學ニ對シテハ、羅馬ノ思想ハ如何等ノ影響ヲ與ヘザリトシテ、希臘ノ思想ハ如何等ノ影響ヲ與ヘザリトス

羅馬人ハ武力ヲ以テ外見上希臘人ニ勝チシガ内面ニ於テハ全然希臘人ノ思想ニヨリテ打勝タレ羅馬人ノ面貌ヲ有シツツ希臘人化シタリト。是等ハ羅馬ノ思想ヲ輕視スル者ノ主トシテ述ブル所ノ論點ナリ。

然レドモ羅馬思想ハ希臘ト異ナリタル特色ニヨリテ貫通セラレ希臘思想ノ缺陷ヲ填補シ之ニ次ギテ古代ノ一大思潮タルヲ失ハズ。固ヨリ希臘ト羅馬トノ間ニハ古ヨリ交通アリ羅馬ハ絶エズ希臘ノ進歩セル影響ヲ蒙リタレドモ、銅表法(紀元前第五世紀ノ半)ストラギリシ初メヨリ認定ノ精神ニ富ミ、法治行政ニヤノ影響ヲ受ケタル點在リト稱セラル。必要ナル特殊ノ主義ガ其ノ思潮ノ重要ナル地位ヲ占メタリ。詳言セバ羅馬ノ思想ハ哲學的トイハンヨリモ羅馬人ノ性格ノ顯現ナリ。其ノ氣質ハ單純ナル言ヒ顯ハシナリ。故ニ支配竝ビニ責任ノ意識ガ根據タル精神ニシテ意思ノ強固自信竝ビニ自國擴張ノ主義ガ其ノ思想ニ殊特ノ發達ト形式トヲ附與シ外來ノ思想ヲ吸收シ之ヲ統括シテ愈々其ノ善ヲ長ジ得タルモノナリ。

第一 羅馬人ノ思想ノ根柢ハ支配竝ビニ責任ノ意識ナリ。

羅馬人ノ精神ノ中心ハ單純ナル知識ニ非ズシテ意思ニ在リ。單ニ意思ニ在

ラズシテ義務心ニ在リ責任心ニ在リ。希臘人ノ得ントスル知識ハ羅馬人ニ取リテハ意思活動ノ爲ニ必要ニシテ意思活動ハ各自ノ責任心ヲ満足セシムルガ爲ニ要求セラル。而シテ其ノ義務トシテ其ノ責任ヲ全フスルコトニ缺クベカラザルモノヲ自己竝ビニ其ノ分擔スル範圍ニ於ケル支配トナス。サレバ羅馬人ノ精神ノ中心ハ、法政上ノ主義ニシテ元羅馬ノ家族制度ト離ルベカラズニ發達セルモノナリ。羅馬法ノ骨子ハ實ニ以上ノ精神ト羅馬ノ特殊ナル親族法ノ擴張トニ因リテ成レルモノナリ。

羅馬ノ統一的團體及ビ其ノ支配權ハ元家及ビ家父ノ支配權竝ビニ其ノ者ノ自由ト責任トガ擴張セラレタルモノナレバ其ニ同一ノ形式ヲ有ス。團體ノ支配權ヲ有スル者ハ其ノ分子ノ活動ノ範圍ヲ定メ之ニ對シテ絕對ノ權力ヲ行フ。是等ノ分子ハ絕對ニ其ノ全部ニ服從スレドモ尙其ノ範圍ニ於テハ更ニ自由責任ノ主體トシテ又絕對ニ其ノ下ヲ支配ス。斯ノ如ク下ハ家長竝ビニ家人ニ至ルマデ數多ノ統括階級ヲナシツ各々皆自由責任ノ主體ナリ支配者ナリ。サレバ物ニ對スル占有所有サヘモ尙物ニ對スル支配ノ觀念ヲ脱セズ。最下級ノ



人格者ハ少クモ自己竝ビニ其ノ有スル奴隸動物竝ビニ器具ニ對スル絕對ノ支配者ナリ。羅馬人ニ征服セラレシ團體サヘモ原則トシテ自治權ヲ與ヘラレ、自己ノ支配權ヲ有スルヲ常トセリ。故ニ羅馬ノ社會ハ支配竝ビニ責任心ト共ニ存在シ、人格者ハ即チ支配者ノ義ニシテ目的意思責任竝ビニ自由ノ意識ト共ニ社會組成ノ經緯タリ。羅馬ニ於テ目的論的精神ガ榮エ機械的社會組織ヲ容レザリシハ、ストアノ哲理ニ合スルモノニシテ、又我ガ日本ノ古神道ノ精神ニ適ヒ著シク我ガ封建時代ノ社會組織ニ似タリ。

國家ハ其ノ分子ニ對シテ絕對ノ服從ヲ要求ス。國家ノ官廳及ビ其ノ他ノ表現人ハ、尤モ官吏ト表現人トシ、其ノ權限ニツキテハ自由責任ヲ以テ下級表現人ヲ支配シ、上ヨリ下ニ至ルマデ、自由人ノ責任ノ觀念ヨリ離レタルコトナシ。羅馬ノ支配的統括制度ノ嚴重ナリシコトガ、即チ其ノ長所トナリシハ、全ク上下ヲ通ジ、自由責任ノ思想ガ溢レ下ト雖モ單純ナル設備又ハ道具タラザルコトヲ意識セシガタメナリ。(カントノ「責任ヲヒテ」ノ自由參照)

人格者ハ即チ法律上ノ觀念トシテ支配者ナリ。自治者ナリ。各人ガ現世ニ

古神道參照

「ストア」ト「現關」ト共ニ發見ノ域ニ在リ

論辯學者トノ差

於テ分擔スル特色ハ、最モ神聖ナリ。然レドモ人格者ハ支配ニツキ統括制ヲ爲シテ存在シ、其ノ政治上ノ言ヒ傳ヘニ於テハ、王ノ人格ニヨリテ統括セラル。元リ獨立人ト表現人トノ區別ナク、國權ノ主體ハ之ヲ王ニ歸セシメタリ。羅馬ノ制度ハ對立的統括制ヲ根據トナシ、一體ハ之心同體ヲ本來ノ分ニヨリテ發揚スルモノニ非ズ、換言スレバ獨立相對關係ニ重ク是等ノ支配權ハ其ノ最高ナル國權ククシテ表現關係ヲ中心トスルモノニ非ズ。自由モ法則モ元來共ニ神ニ淵源ス。Imperium スラ責任ヲ重シ、法則ニ遵フテ働クベキモノトナシ、法則ハ神聖ナレ共爲ニ人格者ノ自由ヲ害スルコトヲ得ズ。自由モ法則モ元來共ニ神ニ淵源ス。神ハ其ノ法則ヲ總ベテノ人格者ニ告知スルモノニシテ、各人格者ノ其ノ動カザル良心竝ビニ根本意識トシテ有スルモノハ神ノ告知ニ外ナラズ。自由責任ノ意識ハ其ノ重要ナルモノナリ。此ノ根本意識ハ後ノ基督教ノ精髓ト合致スルモノニシテ、萬人一様其ノ心ニ記サレタル其ノ責任心之ト離レズニ存在スル此ノ法則ヲ前提トシツ、其ノ自由支配者タルコトヲ認ムルガ故ニ、其ノ自由ナル支配ハ相互ニ調和シ、且ニ道理ニ濫用セラレザルコトヲ得タルモノナリ。是レ羅馬ノ思想ガ支配權及ビ認定ヲ重シズルコトニツキ、論辯學者ノ論法ニ似タレドモ、其ノ實之ト大ニ其ノ性質ヲ異ニスル所以ナリ。而シテ又實ニ羅馬主義ガ

希臘哲學ヲ利用シ得之ニ依リテ益、其ノ法律制度ヲ發達セシメ得タル根柢ナリトス。

羅馬人ガ權力ヲ重ンズルノ點ハ大ニ詭辯論者 Sophistaeニ似タレドモ、其ノ根本ハ大ニ異ナル。羅馬ノ重ンズル所ハ道理ヲ遺憾ナク用キルヲ得ル權力ナレドモ、「ソフキスト」ノ輩ハ道理ヲ容レザル權力ナリ。詭辯論者ノ權力ハ自由責任ヲ根柢トシテ存スル權力ニ非ズ。羅馬人ノ權力ハ各人ガ神ヨリ與ヘラレ、各人ノ義務トシテ重ンズベキ、自由責任ト根本的ニ離ルベカラザル權力ナリ。

第二 羅馬人ノ思想ハ其ハ強固ナル意思ニヨリ、其ハ特殊ノ發達並ビニ其ノ形式ヲ得タリ。

羅馬人ハ其ノ建國ノ當初ヨリ其ノ強固ナル意思ニヨリテ其ノ統一ヲ完成セシガ、嚴格眞面目ニシテ柔弱ノ風ナク、頑強ニシテ精力勇氣ニ富ミ、俗生活ヲ尊重シ、人事ニ熟練シ居レリ。サレバ、歴史上ノ必要ガ羅馬人ニ法政ノ發達ヲ分擔セシメタルノミナラズ、彼等ハ其ノ性格ニ於テ支配者タルニ適シ、又法律制度ヲ發達セシムルニ適シタリ。彼等ハ希臘人ノ如ク天真爛漫ニ非ズ、無邪氣ニ非ズ、又自然ヲ樂ミ優美高雅ヲ喜ブ者ニ非ズ。從ツテ文學美術ニ熟達シ、幽玄ナル想像

日本武士ト  
「ベテロ」ト  
寺院

基督教ノ  
Saviour

「エビク」  
「ロス」  
「メテ」  
ノ機械觀參照

ヲ逞フスルモノト異ナレリ。然レドモ彼等ハ意思生活ヲ尊重シ一度認定セシ目的ハ萬難ヲ排シテ之ヲ貫徹セザレバ息ムコトナク、百折シテ撓ムコトナシ。失望ト躊躇ト恐怖トハ彼等ノ賤ミシ所ナリ。彼等ハ認定ヲ重ンゼリ故ニ一度定メタル人爲ノ形式ハ如何ナル理由アルモ之ニ違フコトヲ好マズ、形式的認定ノ法則ハ認定ナルガ故ニ之ヲ遵守スベキモツトシ、其ノ理由ノ如何其ノ各自ノ内部ノ要求如何ヲ問ハザルモノトス。彼等ハ冷靜ナル熱セザル頭腦ヲ以テ定義格言及ビ規則ヲ分析シ己ノ需要欲望ヲ制馭シ、其ノ認定法ノ命ズル所ヲ利用シテ自由活動ヲナスニ在リ。故ニ其ノ行動ハ自由ナレドモ著シク機械的ナリ。

以上ノ如クナルヲ以テ希臘ニ於テ社會教育ノ中心ト爲リシモノハ哲學ナリ。羅馬ニ於テ一般ノ道德的教育ノ材料ト爲リシモノハ認定法ナリ。希臘人ノ外國ヲ征服スルニ用キシ道具ハ其ノ哲學思想ナリ。羅馬人ノ世界統一ニツキテハ先ヅ其ノ武力ニ依テシ、次ギテ認定法ヲ以テ之ヲ完成シ、其ノ政略ノ如キモ遙ニ法術ノ後ニ隠レタリ。希臘ニ於ケルト異ナリ、後ノ羅馬社會ニ於テハ、哲學者

文學者技藝家ニ對シ遙ニ法律學者ノ尊敬セラレシモ亦之ガ爲ナリ。日本武士道ノ法度  
證義即チ認定的形式ヲ尊重スルコト、私ノ愛憎等ニ拘泥セズ、平然トシテ此ノ形  
式ニ從フコトハ羅馬人ノ此ノ精神ト相等シ。此ノ場合ニ自然ノ事實ハ人間ノ自  
由ニ創設シタル  
事實ニ及バズ。

羅馬ノ認定ノ勢ハ非常ノモノナリ。自然ヨリ人間ノ作りシ形式ノ方ガ價值アリ、人間ノ要  
求ハ何ニテモ、一度定メシ規則ニ從フノ精神ガ最モ大切ナリトセリ。是レ武士道ニ於テ最モ  
能ク見ル所ナリ。自然ノ生ミノ親ヨリモ養子トナリシ時ノ親ノ方ヲ重キ親トシ、認定ノ方ヲ  
常ニ中心トナセリ。自由ノ精神ノ發達ハ基督教ニモアリシガ、大袈裟ニナリシハ羅馬人ノ氣  
質ニ由レリ。基督教ノ強ミハ羅馬人ノ氣質ノ影響ヲ受ケテ確定セラレタリ。

羅馬人ハ個人トシテモ、社會全般トシテモ、強固ナル意思ヲ有シ、統括的秩序的  
組成的ニシテ且實際的應用的ノ才ニ長ゼリ。其ノ行動ノ規律標準トナセルモ  
ノハ、想像知識意見加之覺信ニ非ズシテ規律意思ナリ。一定不動ノ意思ヲ尺度  
トシ之ヲ解釋シテ無限ノ行動ヲ規律セントセリ。故ニ彼等ノ間ニハ、勢ヒ、銳利  
ナル分析ノ能力ヲ發達セシメ、希臘人ヲシテ公理ノ統一の根據ヲ探求セシメタ  
ルコトトハ、異ナレル方向ヲ採ラシメタリ。

社會一般ヲ拘束スル此ノ種ノ規律意思ノ制定方法モ亦頗ル見ルベキモノア

リ。羅馬ハ他國ニ優リテ社會ノ意思ノ統一ヲナスニ必要ナル外部的組成ヲ有  
シ、其ノ外部的組成ハ社會各般ノ元素ヲ網羅シ、自ら認定的普遍意思ヲ確定セシ  
ムルニ適シタリ。元來保守的ナレドモ、尙其ノ中ニ保守ト改進ト自由ト道理、及  
ビ需要ノ各方面ハ、貴族平民ノ等ニ因リ、反ツテ相待ツテ發達セリ。既ニ強固ナ  
ル意思ヲ有スル個人及ビ社會ガ又確實ニ定マリ得ベキ規律普遍意思ヲ設定ス、  
故ニ一旦成立セル以上ハ、容易ニ之ヲ改ムルコトヲ欲セズシテ、飽クマデ之ヲ貫  
徹セントス。而シテ此ノ一貫主義此ノ保守主義ハ認定法及ビ其ノ學問ノ發達  
スル重要ナル一元素タリシナリ。此ノ元素ニ於テ缺クル所無カリシガ故ニ雄  
大高雅ナル希臘ノ理想善美ニシテ且自然ナル希臘ノ學問ノ侵入ヲ利用シテ、古  
代無比ナル法律并ビ其ノ學問ヲ發生シ得セシメタルナリ。自然并ビニ理性  
ノミニテハ哲學ヲ生ジ得ベシ、決シテ認定法ヲ生ムコトヲ得ザルモノトス。

羅馬人ハ規律意思ヲ最モ重ンジタリ。朝令暮改ハ羅馬人ノ最モ惡ム所ナリキ。都合惡シ  
ケレバ都合ヨク之ヲ解釋シ、之ヲ運用シテ行クガ故ニ、認定法ノ解釋ガ大ニ發達シタルナリ。  
法律ヲ作りシト思ヘバ、又直ニ更ヘルナラバ熱心ニ守ルコトヲ充分ニ望ム能ハズ。定メシ以  
上ハ善クモ惡シクモ必ズ守ル。認定法ニ準ジテ生活及ビ社會情態ノ方ヲ變ヘテ行クベキモ

ノナリ、法ハ神聖ニシテ犯ス能ハズトナセリ。是レ即チ羅馬人ノ精神ナリ。

羅馬人ノ氣質習慣ハ確定セル認定法ノ除外ナキ遂行ヲ要求セリ。自然ハ認定法ノ道具ニシテ認定法ヲ動かスベキカアルモノニ非ズ。論理ハ意思ノ活働ヲ實現スル道具ニシテ考フル爲ノ形式ニ非ズ。故ニ自然ヲ參考シテ認定法ヲ解釋シ、論理ニ由リ認定法ヲ分析シ之ヲ運用スルコトヲ要スレドモ、自然ニ反スルヲ名トシ、論理ニ矛盾スルヲ口實トシテ認定法ヲ無視スルコトヲ許サズ。立法論ト解釋論トハ、彼等ニ取リテハ、嚴然タル區別アリ。知識ヲ以テ認定ヲ排スルガ如キハ、無氣力ナル者薄志弱行ノ徒ニ外ナラザリシナリ。ソノキスト輩ハ曩ニ「プラトーン」ニ「アリストテレイ」スニヨリ哲理的ニ退治セラレタルガ、羅馬ニ至リテ羅馬人ノ性格ニヨリ意志ノ權威ヲ以テ破碎セラレタリ。

羅馬人ノ性格性質ハ確定セル認定法ノ永久ナル存續ヲ要求セリ。一度決シタル主義規律ヲ再ビ變廢スルコトハ、彼等ノ欲シ得ザリシ所ナリ。故ニ著シク保守ナレドモ、其ノ保守的ナルハ無氣力ニシテ進歩ノ氣象ニ乏シキヨリ來リシモノニ非ズシテ、其ノ意思ノ強固ナルヨリ來リシモノナリ。利己心ノ爲ニ無事

ヲ祈ルモノニ非ズ。事新ラシキコトヲ爲シテ、心配ヲ求メンヨリハ、舊套ヲ墨守スルノ安全ナルニ若カズトナスモノニ非ズ。又ハ先見ノ明ナク茫然トシテ方向ニ迷ヒ、舊地ニ停滯スルガ如キモノニ非ズ。生活活働ノ標準タル認定法ハ繼續的普遍的ナルコトヲ性質トスベキモノナレバ、此ノ真正ナル決定ヲ變ズルコトヲ忌ムガ爲ナリ。人間ノ此ノ種類ノ決定ハ最モ能ク宇宙ノ真正ナル標準秩序ヲ表現シ、又神ノ命令ヲ表現スルモノナレバ、之ヨリ劣等ナル表現者タル外界ノ如何小智慧ノ要求等ニヨリ、之ヲ傷ツクルコトヲ輕蔑スルガ爲ナリ。

何ガ一番眞正カトイヘバ認定法ナリ。知識ガ宇宙ノ眞理ヲ表現スルトイフハ宜シカラズ認定法コソ眞實ナリ。實在中ノ實在ナリ。頭ノ先キヤ眼先キノモノガ實在ニ非ズ、眞實ハ意思ナリ其ノ創設セル認定法ナリトセバ、其ノ主觀的ナルコトハ實ニ眞ナリ。「フキヒテ」Fichteノ主觀觀念論自由觀念論ノ義ハ此ノ精神ヲ學理的ニセシモノナリ。懷疑派ハ羅馬ノ主觀觀念論ヲ哲理的ニ證明セル消極的ノ方面ナリ。「プラトーン」モ元ヨリ又懷疑派ノ精神ヲ容レザル狭キモノニ非ズシテ、尙主觀論ノ精神ヲ統括スル「イデア」論ノ卓見ナルガ如ク、羅馬人ノ主觀觀念論モ亦卓見ナリ。然シ「イデア」論ハ哲學ナレドモ、羅馬人ノハ意思ノ論ニシテ知識ノ論ニ非ズ。

羅馬人ノ性質歴史ハ動ヲ賤シ、ミ不動ヲ貴ビタリ、活働ヲ輕ンズルノ意ニ非ズ

シテ、知識、感情、ニ從ツテ其ノ意思ヲ變ズルヲ欲セザルノ意ナリ、個個特定ニ蔽ハレテ普遍ヨリ逸出スルヲ好マザルヲイフ。故ニ其ノ生活活動ノ標準トスル規律普遍意思ハ各自主觀ノ一時ノ状態ヨリ出ヅルモノナルニ拘ハラズ之ヲ超エテ客觀的形式ノカトシテ外部ニ存在シ、純形式ナル文字ニヨリテ保證セラレ。社會秩序ノ骨子タル普遍的責任心普遍的制裁力ハ、各個人ノ内部ヨリ發スルモノナレドモ之ヲ離レテ客觀的形式ノカトシテ外部ニ存在シ。純形式ナル肉體的個人即チ王者又ハ僧侶役人議員等ニヨリテ保障セラル。而シテ之ト同時ニ羅馬人ハ其ノ個個特定ノ存在ヲ以テ普遍ナル國家ノ存在ニ讓ラザルベカラザルモノトナシ個人ノ自由ヲ認ムルニモ關ハラズ尙「ストア」學派ノ哲理ノ如ク部分ハ本來全部ニヨリテ定命セラルベキモノトナセリ。

何デモ羅馬人ノ考ノ底ニ横ハレルモノハ國家の普遍ナリ。國家の普遍ノ觀念ハ種々ノ形ニ於テ存在セリ。各個人ハ進モ全部ニ及バズ全部ニテ自己ノ權限運命ヲ定メラルトセリ。此ノ點ハ「ストア」ニ似タリ「ストア」ハ個人ノ自由ハ好マシキガ全部ニヨリテ定命セラルトナレ、又各自ノ特定ノ行動ハ自由ナレドモ規律意思ノ範圍ヲ超ユルコトヲ許サズ此ノ規律意思ハ各個人ノ意識ノ結晶ニ外ナラズ。但シ各個人ノ意思ヲ超越シテ客觀的ニ存在スルモノト見タリ。

是レ古神遺  
リノ大精神ナ

即チ各人以外ニ存在スルモノト見タリ。換言セバ客觀的形式的ニ存在スルモノト見タリ。更ニ之ヲ客觀的形式的ニ保障スルモノハ文字ナリ。故ニ肉體ヲ有ツ王者等ノ客觀的形式的ノモノト同一ニ之ヲ考フレバ機關トカ役人トカガ是等ヲ離レテ超越シテ存ス。元來之ヨリ出デタルモノナリ。客觀的形式的ニ動カザル固定シタルモノト見タリ。即チ文字文章等ト離レザルモノト見ル。客觀的ニ見ルコトハ極メテ必要ニシテ發達ノ一大段階ナリ。然シ勿論更ニ元ニ復歸スルコトガ緊要ナリ往來ガ必要ナリ。西洋ニ赴クモ其ノ儘心醉シテ永久止ツテ居ルハ不可ナリ戻リ來ラザルベカラズ。羅馬ハ何レカトイヘバ只往キ切リナリキ。

第三 羅馬人ノ思想ハ自國擴張主義ニヨリ其特殊ノ發達并ニ形式ヲ得タリ。

羅馬人ハ支配ノ方面ニツキ國家ノ擴張ヲ以テ主義トセリ。之ヲ世界主義トイヒ得ベシトセバ單純ナル世界主義ニハ非ズシテ國家主義ニヨリテ統括セラレタル特殊ノ世界主義ナリ。之ヲ利己主義トイヒ得ベシトセバ單純ナル利己主義ニ非ズシテ國家的利己主義ナリ。故ニ適當ニイヘバ「ストア」學徒ノ說ノ如ク自己及ビ羅馬ノ支配ヲ擴張シテ羅馬ヲ中心トセル世界の國家ヲ建設セントスルモノ即チ支配ニツキテ國家ノ擴張ナリ。羅馬人ノ道德及ビ法律制度ハ一ツトシテ此ノ主義ニヨリテ影響セラレザルモノナシ。

自己ガ支配ノ中心トナリ自己ノ支配ヲ世界ニ推シ及ボサント思フ。故ニ他ノ國家ヨリ見

「イエス」ノ神モ此ノ羅馬ニテ發達セシハ偶然ニ非ズ

羅馬人ハ意識シテ此ノ大目的ヲ設定シ、永久之ヲ變ズルコトナク、終始一徹、其ハ外交ノ主義モ亦驚クベク一貫シ、内治モ亦之ニヨリテ不動ノ根據ヲ得タリ。此ノ大目的ヲ達センガ爲ニ、再ビ數多ノ段階ニ於ケル各小目的ヲ設定シ、嚴格ニ之ヲ實行セントセリ。此ノ點ハ希臘人ガ宇宙ノ目的ヲ識別シ、之ニヨリテ活動セントシ、自然ノ美ヲ感得シ、之ト調和セル生活ヲ營マントスルモノト異ナレリ。サレバ羅馬人ハ事物ヲ自然ノ成行ニ拋棄スルコトナク、綿密ナル統括制ヲナセル目的ヲ標準トシテ苦闘スルモノナリ。神サヘモ羅馬ニ於テハ希臘ニ於ケルト異ナレリ。目的ヲ主トシ、自然無爲ニ存在スル神ハ、羅馬人ノ想像シ、信仰シ得ザリシ所ナリ。〔アリストテレイス〕「エビクテロス」ノ神參照、羅馬人ノ神ハ必ズ其ノ實行上ノ權限ヲ有シ、全部ノ活動ヲ分掌スルモノニシテ、權限ノ權化ナリ。大目的ノ人格化シタルモノナリ。羅馬ノ國家主義ノ遂行ニツキ、冥加加護利益アルヲ信ズルガ故ニ、尊信セラルルモノナリ。唯神タルガ故ニ、神トシテ尊敬ス

ルニ非ズ。蓋シ羅馬人ノ神ハ羅馬人ノ氣質ヲ信仰上客觀的ニ結晶セシメタルモノトイフベシ。〔基督ノ神參照〕

冥加ノ加ハ神ト合一スルヲイフ。加持ノコトナリ。羅馬ノ神ハ希臘ノ〔アリストテレイス〕ノ神ト大ニ異ナル。〔エビクテロス〕ノ神モ此ノ點ニ於テハ〔アリストテレイス〕ノ神ニ似タリ。〔アリストテレイス〕ノ神ハ何モ爲スコトナク、他ヲ動かストイフナリ。即チ意思ナキニ反シ、羅馬ノ神ハ意思ノカタマリナリ。自ら進んで自己ノ目的ヲ遂行スル大ナル力アルモノトセリ。故ニ基督ノ神ト大ニ近シ。今日ノ基督教ハ羅馬ニテ鍛ヘラレタルモノナリ。人格ノ固マリタルモノガ神ナルノ點、耶穌ノ神ト同一ナリ。故ニ羅馬ノ神ニハ賽錢ヲ上ゲテ國家ノ爲ニ御利益ヲ祈ル、是レ日本ト似タル所ナリ。

羅馬人ハ其ノ國家ニヨリ、世界ヲ征服セント企テ、之ヲ中心トシテ有ラユル目的ヲ設定セリ。此ハ目的ヲ實行スレバ、スル程愈、羅馬人ノ特質ヲ保存スルコトヲ要シ、他國ヲ同化シ、異人種ヲ濟度シ、外國ノ文化ヲ輸入シ、一切ヲ支配セント企ツル程、益々羅馬人ノ自性ヲ保持シテ動かザルヲ要セリ。此ノ困難ニ打テ勝テ得テ特殊ノ政治ヲ確定シ、法律制度ヲ建テタルコトハ、忘ルベカラザル羅馬人ノ偉業ニシテ、ソノ之ヲ全フシタル所以ハ、其ノ進歩シタル開化ニモ學問ニモ非ズシテ、全く彼等ノ性格ニ在リテ存ス。

外國思想ノミ宜シト思ヒ其ノ奴隸トナルハ今日ト雖モ不可ナリ我國民的第一事實民族普遍我ノ本性我國體ハ永久之ヲ保持シ益之ヲ擴張セザルベカラズ。「永久ノ日本人」タル覺悟ヲ要ス。

羅馬市ノ如キ小ナルモノニテ外國ヲ化セントシテモ、兎角外國ニ化セラレテ仕舞フ。人間モ禪ナド學ブモ、單體ニナツテ仕舞ヒガチナリ。人モ分外ニ大キクナラント欲シテ、反ツテ何ニモ役ニ立タヌ者ニナツテ仕舞フコトアリ。然ルニ羅馬人ハ此ノ點ニツキ立派ニ成功セリ。自性自己ノ性質自己ノ特色ハ決シテ失ハズシテ擴張セリ。就中法律制度ニテ成功セリ。羅馬法ハ羅馬人ノ性格ニ基ツキテ發達セルモノナリ、故ニ何トシテモ自己ノ性格ヲ忘ルベカラズ。半歐半亞半米トナリテハ、日本人ガ世界救済ハ覺束ナシ、日本人ノ特色ハ、愈々外國ノ精神物質ヲ採用スルト共ニ、制度上ニモ思想上ニモドコマデモ保存スル様ニ考フベシ。

羅馬人ハ其ノ自我ノ支配ヲ擴張シテ國家ノ支配ニ及ボシ之ヲ擴張シテ世界ノ支配ノ目的ヲ設定シ、只考ヘタル之ヲ遂行シタルガ、其ノ國家ノ特性ヲ失ハズ、己ノ權限ヲ世界ノ總攬者ノ範圍ニ擴メントセリ。併シ此ノ國家ト世界トノ關係ハ羅馬個人ト羅馬國家ノ關係ト異ナレリ。羅馬ノ個人トシテハ名譽心ニ富ミ信心ナリシノミナラズ、最モ愛國心ニ富ミ國法ヲ嚴守シ、勇敢ニシテ自己ヲ犧牲トシ、其ノ國家ニ對スル義務ヲ行フベキモノト心得タリ。各人ハ國家ノ全部

基督教ノ侵略主義

ニ於テ各、其ノ分ニ應ジテ支配スルコトヲ主義トシタルモ、羅馬國ハ卒先シテ他ノ民族ヲ征服シ是等ヲ支配スベキ義務ヲ有スルモノト認定セラレタルナリ。此ノ精神ハ最モ極端ニ基督教ニヨリ現ハサレ博愛ヲ標榜シナガラ自己ノ教ヲ以テ一切ノ信仰ヲ征服セント企圖シツツアリ。基督教徒ハ信仰ノ爲ニ其ノ身命ヲ捨ツルコトヲ屑トスレドモ、終始一貫基督教ノ獨斷並ビニ形式ヲ動かサズ。此ノ特色ヲ以テ世界ニ強ヒ、一切ノ教ヲ總攬セント欲スルモノナリ。中世ノ「ロ」トマノ教會ハ此ノ意味ニ於テ西方世界ノ統一ヲ實行シ、今日ノ羅馬教モ此ノ意味ニ於テ殊ニ超國民的ナルモノトス。

羅馬人ハ其ノ自分ノ國ヲ世界ニ擴ゲントス。基督教ハ其ノ儘此ノ精神ヲ受ケタリ。元來ハ今日ノ如キ世界的ノモノニハ非ザリキ。其ノ教ノ今日アルハ羅馬ノ精神ヲ受ケタルニ由ル、基督教徒ハ其ノ教ノ爲ノ死ハ無上ノ名譽ナリトシ、個人ヲ捨テテカカレリ。故ニ基督教ヲ捨テテ人ヲ救ハントスルニ非ズ、世界ヲ此ノ教ニテ總攬シヨウ、又獨斷ニテ他ノ教ヲ叩キ付ケヨウ、此ノ教ニ降服セヌ教ハ打テ破ルト云フノ主義ナリ。日本ノ基督教ハ和カニ出來テアルガ、實ハ博愛ヲ標榜スレドモ殺氣ノアルモノナリ。但シ其ノ意氣ハ實ニ盛ンニシテ、範圍ヲ萬國ニ垂ルルニ足ル。

保へ上ルハ及バズ

力ノ感ジ  
アリテ、活  
リ、人、ア  
リ、我、ア  
物アリ  
テ、アリス  
ノ、理論ニ  
ハ、意思ノ  
求、充、タ  
能、ハ、ズ  
要、テ

論辯學者ト  
異ナル點

第四 羅馬人ノ思想ハ自信ニヨリ其ノ特殊ノ發達ヲナスヲ得タリ。

羅馬人ハ強固ナル意思ヲ有シ、又其ノ國家擴張ヲ遂行セント期シタルガ、又著シク自信ノ心ニ富ミタルガ故ニ、宏量ニシテ喜ンデ其ノ反對矛盾ヲ迎ヘ之ヲ統括スルコトヲ樂シミトセリ。強固ナル意思ヲ有シ其ノ目的ヲ貫カントスル者モ其ノ自信ヲ缺カンカ、往往反對力ヲ嫌惡疾視シ、自己ノ專制ノミヲ冀フモノナルガ、自信ヲ強メ其ノ性格ニヨリ益々矛盾反對ヲ統括スルヲ以テ却ツテ其ノ誇リトセリ。各種ノ矛盾反對ヲ活キタル人格ニ統一セントスル「ストア」學說ガ羅馬人ノ心肝ニ徹セシハ故ナキニ非ザルナリ。

意思ノ強キ人ニ惜イト思フ缺點アリ、自分ノ目的ヲ貫クガ爲ニ反對ヲ大ニ嫌フトイフコトアレドモ、羅馬人ノ強キハ自信ガ伴フ故宏量ナリ。反對矛盾ハ何デモナイ、來タラヤツツケテ仕舞フ故ナリ。是レ羅馬人ノ大切ノ點ナリ。

羅馬ニ於テハ夙ニ君權政治ト共和政治トノ爭アリ。貴族平民ノ息ムナキ反對アリ。貴族側ヨリ成立セシムル官廳及ビ其ノ役人「マデストラーツス」magistratusト平民側ノ「トリブニス」tribuni plebis「護民官」ト貴族側ノ「ゼナーツス」senatus

ト平民側ノ「コミティア」comitia tributa「民會」トハ相對抗シ居レリ。人民ハ著シク其ノ自由ヲ貴ビナガラ、又格外ニ官職ヲ重ンジ、民權主義ナルト共ニ官廳ノ權威強ク、「ディクタートル」dictator「總統」ガ羅馬内部ニ於ケル自由行動、將官ガ外部ニ於ケル行動ノ自由ノ如キハ特ニ著大ナルモノナリ。家ハ自治的性質ヲ有スル團體ニシテ、自由ヲ有スレドモ「ケンゾル」censor「人民ノ財產調査」ハ家ノ如何ナル秘密ヲモ之ヲ法廷ニ發クコトヲ得タル者ナリ。而シテ羅馬人ガ甚ダシク個人的ナルト共ニ、又強ク全部ニヨリ拘束セラレツツアルハ、終始替ラザリシ所ニシテ、後益々其ノ版圖ヲ擴ムルト共ニ、國內ト外國トノ對立ハ著大トナリ、實行的道德的ノ二元的對立ガ劇烈トナリ、應テ「ユース」gens「萬民」ユス「チツァレ」ius civile「市民」ノ如キ認定法ノ大規模ナル對立ヲ生ズルニ至レリ。而シテ有名ナル羅馬法ハ、是等ノ反對矛盾ヲバ彼等ノ氣質ニヨリテ統一セシメタルニヨリ確定セラレタルモノナリ。平和ノ賜ニ非ズ皆惡戰苦闘ノ結果ナリ。「ヘーラクライトス」「ヘーゲル」ノ矛盾觀參照「アウグスチヌス」Augustinus參照)



基督ハ汝ノ  
敵ヲ愛セヨ  
トイヘリ

古神道及  
之ニ基テ  
武士道ヲ  
長トスル  
民注カス  
所ナカス  
カヲラズ  
武士道ヲ  
徴シテモ  
ノナリ

「平和ヲ欲スルナラバ、先ツ戰鬪準備ヲナセム」[Si vis pacem, para b. illum. トイフ格言ヲ參照スベシ。]「アリストテレス」ハ矛盾ヲ嫌ヒシ故、少シニテモ矛盾スル所アラバ咎メネバナラス。「ストア」ハ矛盾ハドウデモヨイトイフ顔ヲシテ居ル故咎メテモ咎メヌモヨイ。「ヘーラクライトス」ハ矛盾製造所ノ看板ヲ掲ゲテオルユエ、矛盾ガナケレバ矛盾ノ催促ヲセネバナラス。

### 第三節 希臘哲學ト羅馬思想トノ結合

羅馬人ノ思想ハ彼等ノ性格ノ溢出ニシテ、其ノ性格ハ其ノ支配心責任心ニ富ム強固ナル意思ト、國家擴張主義トニヨリ、社會ノ勢力秩序及ビ統一ヲ保持セリ。而シテ此ノ勢力秩序統一ハ、彼等ノ奮闘ニヨリテ益發達セリ。羅馬人ニ貴ムベキハ、重要ナル人類ノ根本意識タル責任心ノ上ニ有スル強固ナル意思ニアレドモ、之ヨリ尙貴ブベキハ、其ノ宏量ニシテ己ニ矛盾反對スル元素ヲ歡迎セシ羅馬魂ニ在リ。而シテ其ノ最モ模範トスベキハ、意思ニ非ザル正理公道ヲ思フ存分ニ採用シ、彼等ノ根本意識及ビ意思ニヨリテ之ヲ統括シ得タル事實ニ存ス。責任支配等ノ意識ニ長ジ、強固ナル意思ヲ有セシ民族ハ、獨リ羅馬人ノミニ限ラズ。善ク奮闘セシモノモ亦彼等ノミニ非ズシテ、尙羅馬人ノ是等ノ精神ガ世界ニ卓越

セシ所以ノモノハ、實ニ古代ノ精華タリシ希臘哲學ヲ包容シ得タルガ故ナリ。而シテ羅馬人ノ固有ノ思想ト相協ヒ最モ卑近ニ之ニ哲理的根據ヲ與ヘ、永ク羅馬人ヲ支配セシモノハ、ストア哲學ニシテ、之ヲ緣トシテ羅馬人ハ次第ニ他ノ高尚ナル希臘哲學ニ接近スルコトヲ得タリシモノナリ。

紀元前第二世紀ノ中葉、希臘ガ羅馬ノ武力ニ服スルト共ニ希臘哲學ハ抵抗スベカラザル勢ヲ以テ羅馬ニ侵入シ、羅馬ノ文化ト融合スルニ至レリ。希臘思潮ノ襲來ハ羅馬固有ノ思想ヲ崩潰セシメタルコトナク、之ヲ擴張シツツ益、其ノ發達ヲ助ケ、之ニ必要ナル材料ヲ供給シタルモノナリ。羅馬人ハ希臘哲學ニ於テ發達シタル宇宙ノ概念、規則正シキコトノ意識等ヲ容ルルノ素地アリ。又自己ニ矛盾反對スル原素ヲ統括スルノ度量、並ビニ精力アリタルノミナラズ、此ノ國家的支配權ヲ擴張シ、其ノ活動ヲ大規模ナラシムル爲ニハ、勢ヒ偶然ナル權力、任意ナル自由等ノ概念ニ執着スルコトヲ許サズ、愈々益々是等ノ公道理法善美ヲ許容セザルヲ得ザリシモノナリ。而シテ自ら進ミ、此ノ大義務ヲ遂行シ得タルニトハ、羅馬人ノ性格ノ偉大ナルヲ證明スルモノニシテ、其ノ世界ヲ統一シ、又永ク

將來ヲ支配スルコトヲ得タル最モ大切ナル理由ナリ。是レ明瞭ニ詭辯論者ト羅馬人トヲ區別シ得セシムル所トナス。

第一 羅馬人ハ其ノ支配ノ範圍ヲ擴張シ伊太利ノ境ヲ越エタル頃ヨリ切ニ統一ノ必要ヲ感ジ次第ニ希臘人ノ思想ヲ採用セザルヲ得ザリキ。特ニ其ノ自信ト宏量ト強固ナル意思トヲ以テ其ノ支配ヲ地中海沿岸一帶ノ地ニ擴張シ眼ヲ其ノ頃ノ全世界ニ注グニ至リタルト共ニ宇宙ノ支配者宇宙ノ組成如何ニ想到スベキハ理ノ踏易キ所ナリ、然ルニ希臘人ハ已ニ業ニ此ノ知識ニツキ自己ノ精神理想ヲ宇宙ニ擴張シ道理即チ妙法ヲ中心トシテ人ト神ト個物ト宇宙トノ合一ヲ企テシモノナリ。サレバ人格ノ完成擴張ニツキ羅馬人ノ意思ト希臘人ノ知識トガ結合スルニ至リシハ決シテ偶然トイフコト能ハズ。羅馬人ハ程ナク本國語ト併セテ希臘語ヲ必修スルコトトナリ羅馬ノ支配心責任心其ノ意思主義ヲ尊重シナガラ盛ニ希臘ノ幽遠ナル哲理ヲ學ビ羅馬本國ノ莊重嚴格ナル態度ヲ失ハズシテ頻リニ希臘ノ優美莊嚴ナル理想ヲ容レ高雅輕妙ナル風ヲ採用セント努メ羅馬人ノ主觀主義個人主義及ビ特色ノ神聖ナルコトヲ保持

シツツ希臘人ノ客觀主義普遍主義ヲ模範トシ各個人ニ生ジ易キ偏僻ヲ遠離セシコトヲ努メタリ。羅馬人ノ矛盾ノ統一參照

古代ノ異ナレル矛盾ノ要素ガ羅馬人ニ於テ融合ヲ試ミラレタリ。反對アルハ元ヨリナレドモ終リニハ反對ハ消失セリ。日本人モ西洋ヨリ優美ノ方ヲ輸入スルトイフモ學問イ所ヲ入レタルノ傾キアリ。西洋人ノ敗ケヌ毎ハ大ニ重ンゼラレテ居ル西洋人ノ性質トイフモノハ羅馬ヨリ大ニ影響シテアル羅馬人ニ鞭撻セラレタル野蠻人ナリ。

第二 希臘哲學中ニテ知識論的ニ羅馬固有ノ思想ノ貴ムベキ所以ヲ認メシメタルモノハ懷疑論ナリ。懷疑論ハ知識學問モ亦各人ノ知覺思ヒ付キ感想ヲ離レテ其ノ以外ニ存スルコトナク主觀的ノ意識ナキモノニハ知覺モ思ヒ付キモ感想モ是在ルヲ得ザルヲ論ジ却ツテ公平ニ萬般ノ主觀狀態ヲ是認シ主觀生活即チ活働ニ復歸スベキコトヲ勸ムルモノニシテ羅馬人ノ支配心責任心即チ主觀的觀念ヲ是認シ其ノ不動ノ意思生活ニ賛成セシモノナリ。風俗習慣認定法ノ重ンズベキコトヲ唱ヘタルモノナリ。

第三 此ノ懷疑論ト共ニ實修ヲ主トスレドモ尙此ノ學派ノ反對ニ知覺知識ノ眞ナルコトヲ唱フルエビクトロス學派ノ說ストア學派ノ說モ直接ニ羅馬人

ヲ支配セリ、而シテ實修ノ目的ニ付キテハ、エビクローヌ派ト正反對ノ見解ヲ採リタル「ストア」ハ、最モ羅馬人固有ノ思想ト一致シツツ、又最モ異ナリツツアル學說ナリシカバ、至大ノ影響ヲ羅馬ノ人心ニ附與シタリ。

「ストア」學說ノ羅馬固有ノ思想ニ似タル點トハ、人格者ノ良心責任心ヲ中心トシ、其ノ不動ノ意思ヲ重ンジ各自ノ自衛並ビニ支配ヲ認め相互ニ他人ノ權限ヲ尊重シ、全部ガ部分ニ對スル統括力ヲ絕對トシ、更ニ各自ノ支配ヲ擴張シテ國家ヲ世界ニ擴張セシムベキモノト説キ、此ノ主義此ノ目的ヲ貫徹セシガ爲ニハ、擇リ嫌ヒナク善シト認めラルル有ラユル理論及ビ手段ヲ採用セントシ、從ツテ共ニ著シク折衷的ノ性質ヲ帶ビタルコトニ在リ。

「ストア」學說ノ羅馬固有ノ思想ト異ナリタル點トハ、羅馬人ハ道理ヨリモ認定ヲ重ンジ、公道ヨリモ人爲ノ形式ヲ貴ビ大體ニ於テ客觀的觀念ヲ否定シテ主觀的觀念ノミニ偏執スルノ傾向ヲ有シタルニ、ストア學派ニ於テハ、神即チ大道即チ理法即チ理性ナリトシ、自然ノ事物ハ皆此ノ神、此ノ大道、此ノ理法理性ノ顯現ニ外ナラズトシ、人爲ノ偶然ナル形式ヲ去リテ自然ニ復歸スベキヲ唱へ、主觀的

學理ノ創設  
カハナシ

觀念ニ加フルニ客觀的觀念ノ根據ヲ以テセント努メタルコトニ在リ。

希臘哲學  
學中ニ

於ケル「ストア」學派ノ地位ハ極メテ主觀的ナレドモ羅馬人ニ對シテハ尙客觀的ノ性質ヲ有ス。

物ガ全然異ナリテハ採用サレザルモ、大體ガ同一ナレバ、其ノ正反對ハ宏量ト相待ツテ善ク採用サルモノナリ。貝殼ハ大體ガ同ジナレバ凸凹アルモ相合スルガ如シ。

此ノ故ニ「ストア」學說ノ羅馬ニ入ルヤ、公道理法ヲ以テ次第ニ羅馬人ノ窮屈偶然ナル形式ヲ補ヒ、其ノ責任心支配心ヲ保障スルニ哲理ヲ以テシ、益之ヲ助成セシメタリ。羅馬ノ思想並ビニ法則ガ圓滿ニ融合スル形式ト、良心責任心正義心トヲ併セ得タリシハ、全ク之ガ爲ナリ。後世羅馬ニ於テ、認定法解釋ノ學問ヲ發達セシメ、一方ニハ嚴格ナル形式ヲ固守シツツ、他方ニハ活キタル良心責任心正義心ノ満足ヲナシ得ルニ至リタルハ、「ストア」學徒ノ哲理ノ與ヘタル效果ナルヲ謂フ。羅馬人ハ飽クマデ其ノ認定法ヲ貫徹セントシ、又極メテ保守的ナリ。故ニ此ノ形式ヲ嚴守シツツ、尙「ストア」ノ要求ノ如ク、日進月歩ノ事情ニ應ジ、人心内部ノ深キ意識ヲ満足セシメ、公道理法ニ適スルガ如ク、認定法ヲ解釋適用セントスルニハ、認定法、法術、遂ニ法學ノ發達ヲ必要トセシメタルモノナリ。窮屈ナル

凝然不動ノ認定法ヲソノ儘存在セシメツツ迂回又ハ擬制ヲ用キ其ノ性質ヲシテ伸縮自在廣狹無礙ナラシムルノ術及ビ學問ヲ發達セシムルコトハ政治ヨリモ政策ヨリモ認定法ヲ重大ナルモノトナセシ時代ニ至リテハ益々大切トナリタルモノナリ。而シテ卒先シテ之ヲ助ケタルモノハ羅馬ノストア學徒ナリ。羅馬法ノ生命タル其ノ世界的ナル點其ノ伸縮自在ナルコトハ實ニストアノ公道理法及ビ世界主義竝ビニ客觀主義ニ根據セル活キタル主觀觀念責任心等正ニ負フ所莫大ニシテ急劇ノ改正ヲ許サレザリシ羅馬法律ガ大成セラレ結集セラルルニ至リシマデハ多大ノ日月ヲ要セシモノニシテ決シテ一朝一夕ノ事業ニハ非ザリシナリ。

羅馬人の氣質ハ英人ニ似、又羅馬法ハ英法ニ似タル所多ク、朝令暮改ヲ許サザリキ。其ノ法ハ飽クマデ存在セシメザルベカラザルガ、世情ニ應ジテ法ニ伸縮力ヲ與ヘシナリ。急激ノ變化ナク、古キモノヲ次第ニ伸縮セシメテ行キタルコトナレバ、其ノ完成ニ永キ時日ヲ要シタルハ明ラカナリ。

第四 管ニストア學派ノ哲理ノミナラズ羅馬人ハ一般ニ希臘人ノ主理的思想ヲ採納セシガ、結局スルトコロ尙羅馬人トシテ其ノ支配ノ意識ヲ最高ナル統

古神道ノ神格  
的ハ皆人格

統人治權ヨリテ各部ヲ離  
シテ全部ヲ離  
通シテ全部ヲ離  
見テハ可シテ  
レドモハシテ  
結果表モ之  
結立現セシ  
ト立現セシ  
ハ尙未ダ至  
ラザル所ナ

括方面ニ置キタリ。羅馬人ニ較ブルニ希臘人ハ宇宙ヲ支配スル神ノ意識ヲ認メザリシニ非ザレドモ宇宙ノ客觀的觀念ニ熱心ナリシ結果ハ常ニ道理竝ビニ理法ヲ重ンジ或ハ神ヲ以テ道理トナシ或ハ神ノ傍ラニ又ハ神ノ代リニ「ヌイス」Ζηνοςトカ「ロゴス」Λογοςトカヲ認メ寧ロ神ノ自由ナル支配者タルコトヲ輕視セリ。希臘思想ノ羅馬ニ入ルヤ羅馬人ハ希臘人ノ宇宙ヲ以テ人格者ト同一視シ道理ノ概念ト統括力ノ概念トヲ結合セシメ統治權及ビ統治者ノ概念ト規律意思ノ概念トヲ結合セシメ著シク權力ニ普遍力ノ性質ヲ與ヘ規律意思ニ理タル意思ノ性質ヲ與ヘタリ。然モ羅馬人ハ尙此ノ普遍的強力規律力ヲ之ニヨリテ支配セラルル個人ノ人格ヨリ分離シ超越シ超越シテ見做スコトニ傾キ居リシモノニシテ羅馬人ガ形式的ナル丈ケ此ノ點ハ希臘人ニ於ケルヨリモ一層明白ニ現ハル。サレバ羅馬人ハ遂ニ統治者トシテハ神ヲ見レドモ世界自身ヲ見ズ君主ヲ見レドモ團體夫自身ヲ見ズ國權ト其ノ表現者ノ主權トハ尙之ヲ混同シツツアリキ。後代羅馬皇帝ガ代其ノ權力ヲ私スルノ傾アリシモ亦之ガ爲ナリ。

此ノ思想ハ近世ニ至リ此ノママ復活セラレ、專制國時代ノ國法ノ旗幟ト爲リタルモノナリ。

### 第四節 羅馬哲學

#### 目次

- 第一款 折衷的傾向
- 第二款 羅馬ニ於ケル希臘人
  - 第一項 「バネチウス」
  - 第二項 「ポリビウス」
  - 第三款 「カールス」
  - 第四款 「キケロ」
  - 第五款 帝國時代ノ羅馬思想

#### 第一款 折衷的傾向

希臘哲學思想ノ侵入ニヨリテ大成セラレタル羅馬ノ思想ハ實際的折衷的ナリ。其ノ應用ニツキテ見ルベキモノハ政治論殊ニ法律學ナリ。此ノ政治論法律論ハ現今ノ歐羅巴各國アルヲ致シタル原因ニシテ多大ナル參考トナスベキモノナレドモ夫自身ハ又現今ノ學說以上ニ優越シタルモノニ非ズ。是等ノ學說ノ基礎タル羅馬哲學ハ健全雄偉ナル精神ノ存セザルニハ非ザレドモ創造力ト一貫シタル體系トヲ具備セズ、折衷編纂的ノ謗ヲ免レズ。學問ノ組成トシテハ直チニ萬世ノ模範ト爲スベキモノニ非ズ。羅馬哲學ガ永久人間思想ノ標準トナレル希臘哲學自身ニ及バザル所以羅馬思潮ガ不當ニ輕ンゼラルル所以ハ實ニ此ノ點ニ在リ。

羅馬人ガ希臘思想ノ取次者タルコトハ異論ナシ。羅馬人無クンバ希臘哲學ハ今日ノ歐羅巴ニ傳ハラザリシコトハ疑ナシ。

尙當時羅馬哲學一般ノ情況ヲ顧ミルニ羅馬ニ入りタル希臘哲學各派ハ皆申シ合セタルガ如ク實際ノ生活活働ヲ中心トシ且大概折衷主義ノ色彩ヲ帶ブルニ至レリ。第五「アカデミー」Academie學派「ストア」Stoa學派及「逍遙學派」ハ其ノ

重ナルモノナリ。曩ニ羅馬ニ來リシ第三「アカデミー」ノ「カルネアデイス」(Karnae-Des)ハ活働ヲ中心トセルガ故ニ初メテ知識ノ蓋然性ヲ是認シ得ベシトナシ蓋然ノ階級ヲ擇リ分ケタリ。第四「アカデミー」ノ「フロロン」(Philon)「紀元前八十八年來ル」モ亦之ヲ敷衍セリ。「アテイーネ」ニテ「キケロ」(Cicero)ノ師タリシ第五「アカデミー」ノ「アンチオコス」(Antiochos)ハ「カルネアデイス」ガ知識ノ蓋然性ヲ斷定シ其ノ階級ヲ判別スル爲ニ原則ヲ立テタルヲ駁シ知識ノ眞ト妄トモ蓋然ト否トモ同様ニ之ヲ斷定シ難キモノトシ感覺ハ吾人ノ主觀内部ニ於ケル變化ノ徵ニ外ナラズトシ寧ロ各派ノ哲學ヲ比較シ其ノ間ノ用語及ビ説明ノ形式ノ異ナレル所ヲ捨テ相互ノ精神ノ合一スル處ヲ採リ生活活働ニ對スル客觀的ノ外部的ノ標準トナサントセリ。宛モ當時ハ獨斷的哲學各派ガ相互ニ其ノ矛盾ヲ和ゲ優勢ナリシ懷疑論ニ對抗スルノ必要アリシガ故ニ次第ニ合同スルノ傾向ヲ生ゼリ。羅馬「ストア」(Stoa)學派ノ「バネチウス」(Panätius)及「ポシドニウス」(Posidonius)ノ如キハ特ニ「アンチオコス」(Antiochos)ノ主義ニ接近シ來リクル者ナリ。

「カルネアデイス」ノ蓋然性ハ眞ト妄トハ分ラヌガ蓋然タルコトノモハ分ルトセリ。

折衷主義ノ一種

現今日本ニ於ケル折衷主義及ビ歸一要求ニ對スル要ヲ參照

斯クノ如クシテ成立シタル學說ニハ自己ノ統一セル根據及ビ其上ニ存スベキ一貫セル系統ヲ缺キタリ。又創見アルモノニモ非ズシテ根本的ノ差異善惡ヲ擇バズ主トシテプラトーン「アリストテレス」及「ストア」ニ共通ナル結論ノミヲ採リテ細工セシモノナリ。此ハ試ミハ之ヲ善意ニ考フレバ實ニ懷疑論ヨリ出發シ主觀觀念ヲ擴張シテ客觀觀念ヲ認メントスル萌芽ナレドモ此ノ研究ノ尙未ダ進マザリシト諸學說ノ根本的融合ヲ缺キタルトノ故ヲ以テ僅カニ折衷ニ移リタルモノトス。

翻ツテ羅馬社會ノ要求ヲ觀レバ其ノ頃向上ニ志アル羅馬ノ青年學徒ハ思潮混亂ノ裡ニアリ何レモ安心シテ生活活働ヲナシ得ベキ確實不動ノ覺信ヲ求ムルニ急ナリケレバ先ヅ各學派ニ共通ナル長所ヲ採擇スルハ其ノ最モ捷徑ナリシナリ。特ニ一方ニハ古來ノ窮屈保守ナル羅馬宗教ガ其ノ眞面目ナル權威ヲ失ヒ他方ニハ國家ノ支配ヲ世界ニ擴張シタルガ故ニ確實ニ全國ニ貫通シ之ヲ統一スベキ新ナル活精神ヲ求メザルヲ得ザリシモノニシテ先ヅ之ヲ哲學中ニ求メント試ミタリ。「キケロ」ノ如キハ此ノ要求ヲ充タサント苦心セシ大立物ナ

徒ラニ外ニ  
者ハ危ムル

リ。然レドモ如何ニ各哲學ノ共通ノ點ヲ拔萃抽象スルモ、引<sup>○</sup>抽<sup>○</sup>キ<sup>○</sup>的<sup>○</sup>哲<sup>○</sup>理<sup>○</sup>ヲ以テシテハ已ニ此ノ大要求大目的ニ副フコト能ハザリキ。此ノ際自ラ進ミテ此ノ使命ヲ敢テシ終ニハ羅馬帝國自身サヘモ押シ除ケテ西方世界方人心ヲ奪ヒ其ノ悉皆ニ牢乎タル信仰心ヲ叩キ込ミタル者ハ基督教ナリ。

此ノ頃ノ思潮ハ日本現代ノ思潮ニ似今日ノ青年學徒ノ要求ト羅馬ノ當時ト相似タリ。然シ「ローマ」人ノ如クキヨロキヨロ外部ヲ見テ求ムルノミニテハ不可ナリ。先づ古神道ノ何タルカラ反省スルヲ要ス。

## 第二款 羅馬ニ於ケル希臘人

### 第一項 「パネチウス」

「パネチウス」Panaetius 紀元前一八八年頃「ロードス」Rhodos 出ノ「ストア」學徒ニシテ永ク羅馬ニ在住セリ。「ストア」學說ガ之ト親和力ヲ有セシ羅馬古來ノ思想ト結合シ甚ダシク世界的且折衷的性質ヲ帶ブルニ至リシハ「パネチウス」ノ羅馬「ストア」學徒ニ始マル。「パネチウス」ハ羅馬ニ於テハ羅馬固有ノ思想ニ動カサ

Panaetios

レ新「アカデミー」派ノ「カルネアデイス」Karneadosノ影響ヲ受ケ益認定ト意思及ビ人格ニ其ノ主力ヲ傾注スルニ至レリ。「パネチウス」ハ「ストア」學派ノ開祖「ツエーノン」ノ如ク「ソークラテイス」ノ精神ヲ中心トセシガ實習ニ差支ヘナキ限リ「ストア」學說ニ「プラトーン」及ビ「アリストテレース」竝ビニ彼等ノ學徒ノ說ヲ折衷シ同時ニ「ストア」ノ極端過劇ナル種種ノ點ヲ和ゲタリ。斯ノ如クシテ成レル彼ノ學說人生觀ノ根柢ハ性格ニ在リテ羅馬ノ法律學及ビ國家學ニ其ノ基礎觀念ヲ供給シタルモノナリ。カノ人ノ性格ノ核ヲ以テ正義及ビ神ノ意識ヲ統括スル良心 Conscientia ニ在リトシ此ノ良心ノ概念ヲ明ラカニシ羅馬學者ノ自覺ニ高メタル者ハ「パネチウス」ナリ。良心ハ元羅馬人ニ滿チメルトコロナリシガ哲理上之ヲ羅馬人ノ自覺ニ高メタルモノハ此「ストア」學徒ナリシヲ謂フ。後ノ教父ガ基督教ノ獨斷ニ關スル諸種ノ概念ヲ發達セシメシモ羅馬人ノ此ノ自覺ヲ根據トセルモノナリ。羅馬人ハ希臘人ノ原子的機械觀ヲ輸入スルノ機會ナカリシニ非ズ又全ク之ヲ採用セザリシニモ非ザレドモ寧ロ「ストア」學徒ヲ介シテ堂堂ト其ノ目的的汎神論ニ親シミ之ヲ其ノ公然ノ教ト爲シタルモノナリ。

161 A.D. 哲  
學者及ビ  
羅馬在  
住ヲ  
禁  
ゼリ

羅馬人ハ其ノ生活上ノ特色トシテ實際主觀觀念ヲ中心トシ來レリ。然ルニ「ストア」ガ來リテ此ノ主觀ヲ哲理的ニ是認シテ動カスコトノナキモノトセリ。  
「パネチウス」時代即チ「スキピオ」Scipio 時代ノ羅馬人ノ活精神ハ「キケロ」ノ對話篇ニ存シ、歐洲人ニ對スル歴史的精神教育ノ缺クベカラザル材料トナレリ。現今ニ至ルマデ歐羅巴國土ノ魂ハ「キケロ」ノ此等ノ著書ニヨリテ養成セラレツツアルコト、司馬遷ノ史記ガ東洋ニ於ケル勞力ヨリモ偉大ナリ。

### 第二項 「ポリビウス」

「ポリビウス」Polybius 205<sup>年</sup>ノ頃「カト」Cato ノ保守政策其ノ效ヲ奏セズ、希臘思想侵入ノ防壓ニ關ハラズ、希臘哲學ガ大ナル勢力ヲ以テ羅馬ノ精神界ヲ支配シ始メタル時代ニシテ、以後僅カノ間ガ羅馬精神ノ最高度ナリ。而シテ法律學發達ノ基礎ヲ完成シタルハ此ノ時期ナリ。希臘ノ美的學問的思潮ガ羅馬固有ノ意思生活ト結合セシ結果ハ多少希臘在來ノ學說ニ變化ヲ與ヘタリ。併シ羅馬人ノ主腦トスルトコロハ常ニ雄大ナル實際生活ニ在リ、政治、法律上ノ活動ニ在リテ存ス。是故ニ彼等ハ美的學問的ノ哲理ノ完成ヲ以テ其ノ任務トセズ、活

働ニ必要ナルコト、ハ何學派ノ説タルヲ問ハズ之ヲ採用シタルガ故ニ、益、折衷的ナルニ至レリ。故ニ羅馬思想ノ隆盛ナル時代ハ、又折衷時代ノ稱アリ。

「ポリビウス」Polybius ハ有名ナル歴史家ナリ。當時ノ懷疑的思潮ニ顧ミル所アリ、人智ヨリモ歴史的事實ヲ重シ、國家ヲ以テ人智ノ淺薄ナル製作ニ非ズシテ、歴史ニ由リテ發達セルモノトシ、羅馬國ノ成立發達ヲ研究シテ其ノ良キ證據トナセリ。彼ハ羅馬ニ在リテ此ノ精神ト制度トニ同情ヲ表シ、己ニ希臘ニ於テ發達シタル國家公法ノ議論ヲ應用シ、世界國タラントスル羅馬ノ制度ヲ論述セリ。殊ニ「ダイカイアルコス」(Dikaiarchos) 比較研究ニヨリ益々擴張セラレタル「アリストテレイ」ノ混合政體論ヲ採リ、羅馬ニ照ラシツツ之ヲ論ジ、後代此ノ種ノ思想ノ興起ヲ援ケタリ。「キケロ」Cicero ノ國家論ノ如キモ論ズルマデモナク、彼ノ此ノ説ヲ根據ト爲セシモノナリ。

「ポリビウス」モ亦「ストア」學徒ノ「パネチウス」ト交通シテ其ノ影響ヲ受ケ、「ストア」ノ循環説ト「プラトーン」アリストテレイ「ノ政體循環説トヲ結合セシメ、歴史的事實ヲ證據トシテ、政體循環ノ形式ヲ説キ、且之ニ對シテ存シ得ル節制ノ道ヲ述



ベタリ。元ヨリ政體ト國體トノ區別ヲナサズ。

第一 政體ハ專擅君權政體ノ強力的君權政治ヨリ、專制的君權政體ノ道德的君權政治ニ轉ジ、次ギテ暴君ノ出ヅルニ及ビ、轉ジテ貴族政體ト爲リ、道德的小數政治ヲ行ヒ、之ヨリ次第二寡頭政體ノ不道德小數政治ニ移リ、更ニ民權政體ト爲リ、多數政治ヲ行ハシメ、終ニ亂民政體ヲ生ジ、其ノ中ヨリ再ビ初メノ專制君權政體ヲ造ラシム。此ノ如ク循環シテ無窮ニ息ムコトナシ。而シテ彼ガ國家ノ形相ト政治トヲ峻別セズ、又第一事實ガ國家ノ形相ニ必要ナル所以ヲ説カズ、且大體此ノ單純ナル循環ニ換ヘテ發達ノ形式ヲ以テセザリシハ、皆希臘哲學自身ノ制限アル所トス。

第二 彼ハ國家ニハ、動カスベカラザル最高ノ第一事實最小限度ニ於テ循環ノ理法等ト前後ナキ第一事實ノ存スルコトニ留意セザリキ。併シ此ノ頻繁ナル政治政體ノ循環ヲ節制スル道ヲ混合政體ニ求メ、各政體ノ長所ヲ折衷混合スルコトニヨリ、相互ニ其ノ短所ヲ補ヒ得ベク、羅馬法制ノ完備シ、繼續性ヲ有シ、且其ノ活動ノ雄大ナル所以ハ、此ノ制度ガ折衷主義ニヨリ成立シツツアルガ故ナリトセリ。

彼ガ歴史上國家ノ成立存在ニ必要ナリシ最小限度ノ表現人ノ形相ヨリ、國家ノ完全ナル存在ニ必要ナル折衷的形相ヲ意識スルニ至リシハ、國內ノ各元素各方面各主義ノ一ニノミ偏執セズ、中道ヲ踏ムノ必要ヲ悟リタルモノニシテ、尙在來ノ單純ナル政體循環説以外ニ發達ノ方面ニ一歩ヲ進メントシタル者トモイフコトヲ得ベシ。

「ポリビウス」ノ説ニヨレバ、折衷政體トテ終ニハ大洪水大饑饉等ニヨリテ破レ、再ビ最モ簡ナル專擅君權制ニ復歸スベシト。

但シ國家ノ最高不動ノ第一事實ト共ニ此ノ各要素ノ統括關係ヲ明ラカニセザリシハ、尙彼ノ折衷政體ト、所謂立憲政體トノ異ナレルヲ示ス一要点ナリ。

「ポリビウス」ハ羅馬ノ折衷政體ハ、其ノ生活活動ノ實驗、其ノ歴史ニ基ヅキ、第一ニ發達シタルモノナレバ、特ニ價值アルヲ説キ、*Stabilitas*ノ折衷政體ガ、一立法者、*Licurgos*ノ理性ニヨリテ作ラレタルモノトハ異ナルコトヲ述ベタリ。羅馬當時ノ制度ハ、*Comitia*ニヨリ君權的要素ヲ現ハサシメ、*Senatus*ニヨリ貴族的要素ヲ含マシメ、*Comitia*ニヨリ民權的要素ヲ認メシメツツアリシガ故ニ。「ポリビウス」ハ羅馬國ノ組成ガ、君權貴族民

權各要素ノ折衷ニ於テ成リ、各要素ハ各別ノ機關ヲ通シテ相對立牽制シ、其ノ矛盾反對ニヨリ却ツテ圓滿ナル調和ヲ生ジツツアル點ニ重キヲ置キテ、之ヲ羅馬人ノ自覺ニ上ボサシメントセリ。

### 第三款 「ルクレチウス、カールス」

羅馬モ亦希臘ニ於ケルガ如ク、思想ノ二大分流ヲ生ズルニ至レリ。其一ハ安樂本位ノ説ニシテ、ルクレチウス、カールス、Lucretius Carus之ガ首長タリ。其二ハ良心本位ノ説ニシテ、ツリウス、キケロ、Tullius Cicero之ガ首唱者ナリ。前者ハ機械的唯物的原子の實在原理ヲ唱へ、後者ハ目的の觀念の人性哲理ヲ旗幟トシ、根源的理法ニヨリ宇宙觀社會觀竝ビニ人生觀ヲ明ラカニシタル者ナリ。

ルクレチウス、カールス、Lucretius Carus、紀元前九八年ヨ、エビクローヌ學派ノ原子論ヲ採リ、羅馬人ノ行動ノ自由ガ雄大トナルニ從ヒ之ヲ妨グ、其ノ生活ガ益、圓滿トナルニ連レテ、之ヲ害スル迷信竝ビニ宗教上ノ弊害ヲ排除シ、之ニ換フルニ冷靜ナル原子論ヲ以テシ、主觀主義ニヨリテ缺點ヲ生ジツツアル羅馬社會ニ

對シ、補フニ純客觀的精神ヲ以テセントセシ者ナリ。

#### 第一 迷信ノ驅除

不動ナル羅馬人ハ元來信神家ニシテ、共和政治ノ終リ頃マデハ宗教ガ重要ノ地位ニ在リ。宗教ハ如何ナル人事ニモ關與スルコトガ習慣ナリキ。併シ羅馬ハ、宗教國ニ非ズ。羅馬人ハ、宗教ノ爲ニ存在シ、甘ンジテ其ノ奴隸ト爲リタルモノニ非ズ。宗教ガ反ツテ、其ノ團體的ノ一致、活動ノ道具トナリシモノナリ。神從ヒ移轉セラレ、故ニ此ノ種類ノ神聖ナル道具ト爲シ得ザル宗教ハ之ヲ嚴禁セリ。神（耶蘇教初期ノ運命參照）殊ニ共和時代ニハ、既ニ宗教ガ國家ノ構成上ニ至大ノ影響ヲ與フルコト能ハズ、全ク政治行武ノ手段ト爲リ、無意義ナル形式ノミト爲リ、神主ハ反ツテ眞ノ信仰心ヲ缺キ、教理ヲモ研究セズ、創設力等ハ更ニコレ無ク、全ク其ノ感化力ヲ失ヒ、唯神ニ奉仕シ供物ヲナシ、賽錢ヲ集メテ喜ブ計リナリキ。教理ヲ知り純粹ノ信仰心ヲ有スル者ハ、却ツテ俗人ニ多クシテ、神主ノ地位ハ只習慣力ニヨリ維持セラレ、偶、爲ス行動ハ却ツテ迷信者ヲ害シタリ。サレバ、此ノ頃以後、道德、教理、教育ノ中心點トナリシモノハ、ケンゾル、Censorニシテ、神

迷信的形式  
的宗教ニ陷  
ル  
神ハ人ヲ待  
ツテ其ノ光  
ヲ増ス

日ノ吉田方  
角等ニ歸ス  
ル現代日本  
人ノ迷信參  
照

主ニ非ズ。宗教及ビ神主ハ迷信ヲ頒布シ陰ニ公明正大自由自在ナル活動ヲ繫縛スル障礙物ナリシナリ。嚴格ナル宗教上ノ儀式ニハ迂回擬制ヲ用キテ之ヲ和ゲ之ヲ伸縮セシメタレドモ理由ナク活動ヲ困難ニ爲サシメタリ。「イリエ」  
クンゲ」Theing」ハ詳シ

共和ノ終リ頃ハ宗教ハ無味ノモノトナリ神主ハ迷信ヲ振リ撒キタリ。迷信ハ活動ヲ束縛スルモノナリ。例ヘバ現在ノ日本デイヘバ此ノ方角ハ鬼門ニ當ルトカ何ノ日デアルトカイフテ活動ヲ妨グルト同ジ。高尚ナル信仰ナクンベ迷信ガ來ルコソ當然ナレ。白木ノ板ハ陰ルカサモナクバフキ込マザレバ雨風ニ晒スト共ニ穢クナルハ見易キトコロナリ。活キタ信仰心ニテ充タサレザレバ迷信ノ染ミ込ミ來ルハ明ラカナリ。

希臘哲學ノ輸入ハ此ノ種ノ弊害ニ對シ宗教的開明時代ヲ生ゼシメタルガ根本的ノ駁撃ヲ試ミタルモノハ「カールス」Carrus ナリ。「カールス」ハ先ヅ羅馬ニ於テ餘リニ萬事ヲ人格視スルニ過ギ神ノ如キモノサヘ又人間ニ擬セラルルコトヲ不可トシ物質以外ニ之ト離レテ存在スル理性的ノ神アリテ世界ノ秩序ヲ維持スルノ說ヲ打消シ宇宙ハ唯原子ノ機械的離合集散ニヨリ組成セラレテ存在スルモノハ外ナラズトセリ。「エピグーロス」Epikuros 學徒ノ神ノ論參照) 彼ハ

此ノ點ニ於  
テ「エビク  
テ」ロスニ  
同ジ方面ニ  
努力セリ

宗教的開明  
ノ先驅ニハ  
Augustusアリ

又靈魂不滅ノ說ヲ打消シ死後幽冥界ニ於ケル苛責ヲ信ジテ冥福ヲ祈ルノ愚ヲ指摘シ人ノ死ト共ニ之ヲ組成セル精神の原子モ亦離散スベキモノナルガ故ニ不滅ナル靈魂ノ存スベキ謂レナシ。元來生活ノ手段タル宗教ヲ以テ反ツテ生活ヲ苦シムルハ愚ノ極ナリト唱ヘタリ。何レモ至當ナル說ナリ。(猶太教總論及ビ「アウグスチヌス」Augustinusノ神ノ論參照)

「カールス」ハ機械的原子論ヨリ見タルカラナリ。故ニ靈魂ノ不滅ヲ不合理トナセリ。佛教ニテハ卑近通俗ノ意味ノ靈魂ノ不滅ナドヲ常見斷見等トイフ迷ヒノ一ツトセリ、只方便トシテ地獄極樂ヲイフテ死後ノ冥福ヲ說ケルノミ。

第二 安心立命

「カールス」Carrus ハ冷靜ナル悟性ヲ中心トシツツ羅馬人ガ主觀ニ執着スル弊害ヲ匡シ其ノ迷信等ヲ捨テシメ精神ヲ客觀的ノ地位ニ置カシメントセリ。其ノ目的其ノ感想ヲ以テ機械的世界觀原子論ヲ詩歌トシテ舒述シ安心立命ノ根據ヲ與ヘタルハ「カールス」ノ功績ナリ。宇宙ハ此ノ原子ト此ノ運動トニヨリ、一大全部ヲ成シ、絶エズ秩序ヲ保チテ運動シツツアリ。各自ノ人生ハ其ノ大秩序大變換大運動ノ一部分ニシテ暫ク全部ハ無限ナル出來事ノ成行ヲ傍觀スルモ

ハニ外ナラズ。夢ノ間ハ此ハ見物ハ歸スル所全部ガ自ラ全般ヲ觀察シツツアルコトハ表現ナリ。今若シ之ヲ悟リ得バ全然己ヲ客觀的ノ地位ニ置クコトヲ得ルモノニシテ又憂慮苦悶懊惱ヨリ脱シ平靜不動ノ位置ニ於テ安樂ナル生活ヲ送ルコトヲ得ベシ。要スルニ主觀ニ執着セシ羅馬人ニ客觀的思想ヲ注入セシハ彼ノ長所ナレドモ其ノ客觀論ノ基礎ガ哲理的原子ニ在ルハ彼ノ大ナル制限ナリ。(第十八世紀ノ唯物論ノ功績ニ似タル點參照。「スピノザ」Spinoza「フーテ」Goethe等參照。佛教有部宗參照)

佛教有部宗參照

佛教眞言宗參照

#### 第四款 「キケロ」

「カールス」並ビニ其ノ徒ハ在來ノ思想ヲ採リテ羅馬人ノ迷信ヲ打破シ其ノ主觀主義ニ適スルニヨリ生ズル憂苦ヲ掃蕩シ羅馬人ノ平靜不動ナル心ヲ養ハン

トセシガ更ニ大ナル効力ヲ以テ希臘哲學ヲ用キ羅馬固有ノ思想ヲ開發シ積極的ニ羅馬人ハ良心ヲ自覺セシメ之ト大自然即チ宇宙ノ組成トヲ結び付ケ道德政治法律ノ生活ヲ説明シ之ニ確實ナル根據ヲ與ヘ各人ヲシテ此ノ所ニ安立シツツ泰然自若ノ行動ヲ爲サシメントセシ者ハ「キケロ」ナリ。

「カールス」ニモ「キケロ」ニモ缺ケタルトコロアリ。是レ次ギノ宗教時代ノ重要ナル所以ナリ。主觀ナクバ悟リニ非ズ又悟リニ執着スルモ悟リニ非ズ。主觀ハ重要ノモノニテ著シク主觀ノ根柢ニ立テタルハ羅馬ノ思想ナリ。希臘ノ思想ハ大體客觀的ノモノナリ。今日ノ歐羅巴ハ主觀客觀及ビ神ノ信仰ノ三ヲ結び付ケタルモノナレバ複雜且偉大ナルモノナリ。

#### 第一 學說ノ系統及ビ著作

「キケロ」 Marcus Tullius Cicero 106-43 已ニ羅馬ニ於テ「アカデミー」派ノ溫和ナル懷疑論者「フロロン」ノ教ヲ受ケシガ二十七八歳ノ頃「アテーネ」ニ赴キ「アンチオコス」ニ學ベリ。「アンチオコス」ノ折衷主義ハ彼ノ一生涯ヲ支配セシモノナリ。彼ハ程ナク「アテーネ」ヨリ「ロードス」島ニ轉學シ「ポシドニウス」 Posidonius ノ「ストア」哲學ヲ修メ其ノ後熱心ニ希臘哲學ニ志セリ。彼ノ法學ノ師「スケイヴァラ」 Caecilia 亦「バネチウス」ノ弟子ナリシカバ「ストア」學說ガ彼ニ及ボシタル影響ノ甚大ナリシコ

日佛カ活佛日  
本教カ活佛日  
ニ哲ス活佛日  
テモトコトモ  
ハ非偶非偶  
事治家ズシ  
仕治家ズシ  
法事治家ズシ  
事治家ズシ  
太事治家ズシ  
例示先王

トハ之ヲ認メザルベカラズ。

第一門 第四章 羅馬人ノ思想 第四節 羅馬哲學「キケロ」

四四〇

「キケロ」ハ羅馬ニテノ大哲學者ナレドモ、演說家政治家ヲ本職ト爲セシコトハ、羅馬哲學ノ特色ヲ表現シタル者ナリ。彼ノ著作ノ多クハ政治的活動ノ間ニ成サレタルモノニシテ、名著 de oratore, de republica, de legibus 等ノ如キモ亦然リ。就中 de republica ハ「プラトーン」ノ理想國ノ向フヲ張リ、羅馬ノミノ歴史ニヨリ、羅馬國ニツキテノ理想ヲ論ジタルモノニシテ、羅馬ノ歴史自身ガ理想國ノ何タルカヲ説明シ、結晶セシメツツアルモノトナシ、羅馬ノ共和政治ヲ以テ最上ノ政體ト爲セリ。 de legibus ハ此ノ理想的立法ヲ論ジテ認定法ト自然法トノ調和ヲ其ノ現行制度ニツキテ試ミントセシモノナリ。根本原理ヲ論ジタル哲學的著作ハ、老年ノ作ナレドモ餘リ有名ニ非ズ。日本古神道ハ理窟ハ空シキモノナレドモ、昔ヨリノ歴史ハ最モ貴キ實在ナリトナスガ「キケロ」モ羅馬ノ歴史及ビ制度ヲ大ニ重ンゼリ。希臘ト大ニ異ナレルハ社會上ノ活動ヲ主トセル所ニ在リ。希臘ニ於テハ只哲理ヲ分擔セルモノトセリ。 de legibus ハ其ノ頃ノ認定法ノ解釋ヲ主タル内容トシ、哲理的ノ價アルモノニ非ズ。

## 第二 學問並ビニ生活ノ根柢タル人類ノ共通意識

彼ハ希臘人ノ主知的傾向ヨリ遠ザカリ、其ノ形而上學的研究ヲ輕視シ、唯僅カニ自然ノ理法並ビニ目的觀ヲ採用シ、個人並ビニ社會ノ内的歴史の經驗ニ根據シ、良心ヲ重要ノ地位ニ高メ、以テ人生觀ヲ定メントセリ。即チ實際生活此ノ議論ハ羅馬人ニ共通ナルガ如ク精緻ヲ缺クノ誹リアレドモ、其ノ流暢ナル時文體ハ稀ニ見ル所ナリトノ定評アリ。

希臘人ノモノト比セバ、論ガ危クシテ根本的ニ非ズ。司馬遷ガ史記ヲ書クモ、人生觀ハ深ク活キテハ居ラヌ、文章軌範ハ文章ハ善キモ、其ノ思想ヲ纏メルモ感服シ難シ。是レ思想ニ價ガナク只文章ヲ飾リテ、既ノ様ナ事ヲ長ク云ヘルノミナレバナリ。羅馬亦似タル所アリ。哲理ヲ重ンゼズ活動ヲ重ンジダレバナリ。人ノ贊成スル様ニ言ヒマワスノミニテ根本的ノ議論ニ非ズ。希臘人ハ人ニハ分ラヌモ、大切ナル根本ヲ纏メヨウトシテ居ル「プラトーン」モ名文家トイハルルガ、古代ノ時文ノ良キモノハ「アウグステイヌス」ト共ニ「キケロ」ガ筆頭ナリトイフ。

彼ハ「ストア」學徒ノ知識論ヲ採用シ、自然ガ人間内部ノ隠レタル意識トシテ、種種ノ根本的的主觀觀念ヲ與ヘタルコトヲ是認シ、notiæ parvae 著是等ノ主觀觀念ハ終局スルトコロ、各國各時代ノ人間ガ生活活動セル實際ノ歴史中ニ於テ一致シ得ベキモノトナシ、此ノ一致ニヨリ明確ニ意識シ得ルモノトナス之ヲ *consensus gentium* 即チ人類ノ共通意識トイフ。「アンチオコス」ノ折衷論アリストテレ

第一門 第四章 羅馬人ノ思想 第四節 羅馬哲學「キケロ」

四四一

主客觀的ノ  
傾向アリ  
一アンチオ  
コスノチオ  
向ヲ增長セ  
シメタリ

「ス」比較研究、ストアノ知識論參照。例へば自由、心責任、心正義、心良心、及ビ神又ハ靈魂不滅等ノ意識ニシテ、經驗ニヨリテ後各人ガ之ヲ知り得ルモノニ非ズ。而モ各人内部ノ經驗、社會生活ノ歴史、各國民ノ比較ニヨリ、其ノ曇リヲ拭ヒ去リ、愈、是等ノ知識ヲ發達セシメ、其ノ合一スルモノト否トヲ判斷シ、是等ヲ根據アル概念、知識トナシ、此ノ上ニ政治法律ノ現象ヲ發達セシメ、又其ノ學問ヲ成立存在シ得セシムルモノナリ。人類ニ對スル自然法ヲ考へ得セシムルモノナリ。サレバ是等ノ根本意識ハ、何程經驗ヲ重ネ歸納ヲナスモ、歸スル所外部ヨリ入り來レル知識ニ非ズ。尙自然ノ與ヘタル天性ヨリ湧キ出デタル知識タルヲ失ハズ。自然ハ吾人トシテ顯現シ、吾人ニ良心ヲ與ヘタリ。之ニヨリ吾人ハ道德的生活、政治法律的活動ヲナスヲ得ベク、又吾人自ラ此ノ種ノ大切ナル意識アルコトヲ先見シ得ルモノナリ。(教父ノ主張ノ根據トナリシ點參照)

各種ノ獨斷中ヨリ精神ノ同ジキモノヲ抽キテ見レバ分ル、之ヲ動カヌ標準トセントセリ。尊キ考ナリ。社會生活、學問モ其ノ一個人丈ケニ有效ナルモノニテハ、眞ノ有効ニ非ズ。人類表現者ノ根據ノ上ニ有効ナラザルベカラズ。萬人ニ融通シ得ル活動ナラザルベカラズ。是レ實ニ古今ノ考ヲ比較スル所以ナリ。「キケロ」ハコレニ基ツキ人類共通ノ意見ヲ求メントセ

リ内部的ニ經驗スルコトニ重キヲ置ケリ。是レ極メテ正シキ傾向ナリキ。各人ガ有スル主觀ノ考ヲ人類ノ客觀ノ考ニ擴ゲントスル盡力ハ、極メテ尊キ計畫ナリキ。但シ尙根本的ニ吟味セザリシハ缺點タルヲ免レザリキ。

### 第三 神及ビ人ノ性質

希臘人ハ宇宙ヲ支配スル理法則ヲ認メ、ヌース又ハ「ロゴス」等ノ觀念ヲ認メ、美的知識的ニ宇宙ヲ説明セシガ、羅馬人ハ希臘人ノ自然的觀察ニ加フルニ多大ノ人生的觀察ヲ以テシ、希臘ノ理法的美的靜的ナル神ヲ自由活動者強者動者ニ改造シテ之ヲ宇宙ノ統括者世界ノ立法者トシ、萬物ハ皆其ノ支配ノ下ニ立チ其ノ法ニ從ツテ存在スベキモノトセリ。同時ニ此ノ神ハ尙理法ニヨリ萬人萬物ヲ支配スルノミナラズ、各個人ニ自ラ其ノ性格ヲ定メ、運命ヲ創設スル力ヲ附與スルモノニシテ、唯萬能力ヲ以テ各個人ヲ支配シ、各人ヲ土偶ノ棒トシテ喜ビツツアル神ニ非ズ。各人ニ與フルニ必ズ其ノ良心ト其ノ自由力トヲ以テシ、其ノ分擔内ニ於テハ萬能ヲ以テ自ラ己ヲ定メシムルトコロノ神ナリ。「キケロ」ハ神ト自然トノ關係ヲ明確ニセズ、常ニ折衷的ノ色彩ヲ帶ブレドモ、其ノ精神ニ於テ

理法ニヨル點ガ中心トシテ結合ス  
法本尊人本尊ノ差  
此ノ大ナル神ヲ中心トシテ各人ガ即チ統括者トシテ立法者トシテト

ハ歸スル處自然及ビ各人ト對立スル凝然不動ノ一神ニ止マラズ。 natura naturans  
ニ歸一シ從ツテ又各人トシテ存在シツツアル最モ大ナル神ニ外ナラズトイフ  
ベシ。

サレバ「キケロ」ハ定命說ヲ駁撃シテ人間ガ機械ト異ナル所以ヲ論ゼリ。吾人  
若シ定命セラルルナラバ又學問スル必要モナク善ヲ爲シ惡ヲ避ケント努ムベ  
キ理由ナシト。是レ「ストア」學徒ガ尙其ノ自然論ニ於テ定命說ヲ採レルモノト  
異ナレル要點ナリトス。

根本ノ神ト自然トノ關係ハ明白ニ解決セズ自然トイフモ色色ノ意味ニ用キタリ、 natura  
naturans ニ歸一シ各人トシテ働キツツアルモノト見ザレバ説明出來ザレドモ此ノ點明ラカ  
ナラズ。

#### 第四 法律論

自然法ハ認定法及ビ之ト雖ルベカラザル權利義務ヲ定ム。權利義務ト法ト  
及ビ認定法ト自然法トノ相待ツ所以ハ「キケロ」ニヨリカヲ籠メテ論ゼラレタリ。  
希臘人ハ客觀的傾向ヲ有シ認定ヲ重ンゼズ懷疑論又個人ノ主觀的自由ニ重キ  
ヲ置カザリシガ故ニ權利義務ヲ以テ大略正義又ハ善ニ吸收セシメテ之ト同一

視シ權利義務ト法トノ相待ツ關係ヲ充分ニ明ラカニセザリキ。又自然法ト認  
定法トノ關係ヲモ精密ニ分析スルコトナカリキ。「ストア」ノ如キモ亦認定法ヲ  
派ノ如キハ自然法ヲ認メタリ。自然法ニ吸收セシメ懷疑論  
ズ認定法ノミヲ認メタリ。

然ルニ羅馬人ハ古來認定ヲ貴ビ認定法ヲ嚴守シ各人ノ分擔ノミヲ有スル自  
由ヲ重ンジタルガ故ニ理法及ビ其ノ學問ノ研究ト共ニ客觀的ナル法ト主觀的  
ナル各人ノ分擔トヲ別チテ考ヘ又認定ト自然トノ對立ヲ感ズルコト深カリシ  
モノナリ。之ニ伴フテ又勢ヒ是等ノ相待ツ所以及ビ認定法ノ自然法ニ合一ス  
ベキ必要ヲ強ク意識セシメタリ。此ノ意識ノ表現者ノ主ナル者ヲ「キケロ」トナ  
ス。

希臘ニテハ認定ノ考ハ發達セズ又各人ノ分擔スル自由ノ考モ發達セザリシ故ニ二者ノ同異  
ノ關係ハ能ク分析セラレズ。「ヘーラクライトス」アレドモ自然法アリト云フノミ合一ライハ  
ドモ強カラズ。異ナル故合一ガ活キル又喧嘩スル故伸直リガアル。然ルニ羅馬ハ認定ヲ重  
ンジソコニ自然ガ入りシ故一方ニテハ違フ一方ニテハ合一ノ論アリキ。從ツテ權利義務モ  
發達セリ然シ義務ノ方ヲ重ク見タリ。

「キケロ」 Cicero ニ從ヘバ凡テノ人民總ベテノ國民ハ一神ノ立法ノ下ニ自由ヲ

分擔シツツ生活スベキモノナリ。此ノ法ニ二種ナク三種ナシ。人間各個人ハ皆神聖ナル理性ヲ有シ共通ナル主觀觀念ヲ有ス。神ノ立テタル唯一ノ法ハ此ノ人類共通意識 *consensus gentium* ノ上ニ存スル法ト一致スルモノニシテ、故ニ認人性法ノ性即チ自然法 *jus naturale* ナリ。他ノ言葉ヲ用キレバ此ノ法ハ *ius naturale* 質ヲ有ス。但シ *jus* ノ語ハ權利ノ義ニモ法ノ義ニモ用キラルルニ至レリ。人間ハ此ノ自然法ニ基ヅキ種種ノ義務ヲ有スルガ如ク、又其ノ自由ニツキ種種ノ權利ヲ附與セラル。認定法即チ人爲ノ認定ニヨル法ハ、自然法ニ合一スルトコロニ於テ法タリ得ルモノナリ。サレバ名目ノミノ認定法ニヨリテハ自然法並ビニ其ノ上ノ權利義務ヲ廢止變更スルコトヲ許サレズ。他ノ一地方又ハ一時代ニ偶然ナル認定法ハ有名無實ニシテ實ハ法ニ非ザルナリト。

此ノ說ハ近世ノ初メニ處處ニ原則トシテ採用セラレタルモノナリ。權利思想ニツキ新歐羅巴人ヲ教育セシモノハ羅馬人ナルガ羅馬法ハ尙權利本位ノ法ニアラズ。教ヲ受ケタル歐羅巴人ハ此ノ點ニツキ反ツテ羅馬人ヲ凌駕シタルモノナリ。自然法ノ思想ニツキ新歐羅巴人ヲ教育セシモノハ希臘人羅馬人ナ

ルガ在來ノ歴史ヲ打破シ極端ニ其ノ思想ヲ認定世界ニ實現セシメントセシ者ハ希臘人羅馬人ニ非ズシテ反ツテ近世ノ歐羅巴人ナリシナリ。曩ニ「ヒッピアス」*Hippias* 並ビ「ソクラテス」*Socrates* ニヨリ説カレタル性的自然法說ハ「アリストテレス」*Aristoteles* 經テ「キケロ」ニ至リ益々確定セラレ後ノ歐羅巴人ニ引渡シ得ルマデニ準備セラレタルモノト謂フベシ。

### 第五 政治論

「キケロ」ハ人間ノ社交性ヲ認メ人類共通ノ意識ヲ土臺トシテ國家ヲ認メ法律ヲ論ゼリ。彼ノ國家ノ原始政體ニ三種アルノ事實ヲ説キ其ノ相互ノ缺點並ビニ循環ヲ論ジ羅馬ノ歴史ヲ分析シテ共和政治盛時ノ混合政治ヲ以テ完全ナルモノトナシ理想國ハ決シテ人智ノ製作ニ非ズシテ歴史的發展ノ結果ナリト斷定セリ。(日本古神道ノ說參照) 此等ハ皆「ボリビウス」ノ說ヲ殆ンド其ノ儘繼承セルモノナリ。政治ヲ救フモノトシテ之ヲ賞嘆セリ。

### 第六 評論

「キケロ」不滅ノ偉功ハ羅馬人トシテ主觀觀念ヲ本據トシ其ノ哲學其ノ法學ヲ



建設シタル點ニ在リ。然モ彼ガ尙其ノ狹キ主觀ニノミ執着セズ之ヲ萬人一般ノ客觀觀念ニ擴張シ人間ノ共通意識ヲ求メントセシコトハ特ニ記憶スベキトコロナリ。主觀觀念ヲ捨テテ直チニ客觀ニ求ムルモ決シテ何等ノ得ル所ナキハ彼ノ健全ナル主觀主義主觀ニ故健全トイフ。是認セシムベキ要點ナリ。但シ彼ガ主觀觀念ノ普遍意識ナルヤ否ヤヲ根本的ニ吟味スルコトナク又分析スルコトナカリシハ批難ヲ免レザル所以ナリ。

consensus gentium ヲバ「凡テノ人間ニ共通ナレバ共通意識ナリ」トセシハ淺薄ナリ。哲理的心理的ニセズ又統括關係ヲ定メザリシハ欠點トイフベシ。宇宙ノ萬事ハ主觀ヲ捨テテ存スベキモノニ非ズ。主觀ヲ擴張セントセシハ健全ナレドモ荒ツボキトコロハ欠點ナリトスルガ定評ナリ。

之ト同時ニ彼ハ發現相對關係トモイフベキモノヲ歐羅巴人ノ自覺ニ高メタリ。統括者ノ萬能力被統括者ノ自由獨立並ビニ其ノ間ノ法則ハ永ク世界ヲ支配スベキ觀念ナリ。併シ彼ノ缺點ヲイヘバ彼ハ至高ナル表現關係ニ想到セシモノニ非ズ。偶人間ヲ以テ宇宙ノ顯現者ト見ザルニ非ザレドモ常ニ發現關係トモ云フベキモノノ範圍ニ止マリ獨立相對ノ域ヲ脱シ得タルコトナシ。サレ

如何ニシテ  
根本的ニ  
大信仰的  
ルモベキ  
歸スベキ  
求ツアリ  
ツ求ツアリ

バ、コソ、客觀觀念ハ從ニシテ主觀觀念ガ主要ナルモノナリ。神ハ人間ト對立スル獨立ノ支配者ニシテ人間モ亦神ト對立シ之ニヨリテ支配セラルル獨立ノモノナリ。人間タル普通我ト個人タル單純人トノ關係ヲ見ルモ亦復是ノ如シ。彼ガ生活並ビニ學問ノ根柢ヲ一ニ主觀觀念ニ求メシモ亦當然ナリ。要スルニ彼ノ統括關係ハ表現關係ニ到達セザル獨立の統括關係ナルヲ以テ發現關係ニ似タレドモ吾人ノイフ發現關係トハ異ナルモノナリ。眞ノ發現關係トハ少クモ一度表現關係ニ往キテ歸來セルモノヲ稱スルナリ。

以上ノ長所ト短所トヲ有スル「キケロ」ノ思想ハ其ノ儘古文復興以來歐羅巴ニ影響シツツアリテ歐羅巴人ノ獨立統括關係ノ思想ヲ培養シツツアリ。(現今ノ歐羅巴人が權利義務アルヲ知リテ表現心アルヲ知ラズ役人ノ職務アルヲ知リテ表現人アルヲ知ラザルガ如キハ皆此ノ獨立的思想ノ範圍ヲ脱シ得ザルモノナリ)此ノ根柢ノ上ニ存スル歐洲法學ガ盡ク表現關係並ビニ正シキ發現關係ニ想ヒ到ラザルハ必然ノコトニシテ數ノ多少ヲ以テ當否ヲ論ズベキニ非ズ。二系統ノ上ニ存スル多數ハ偶然ノ多數ニシテ之ヲ各別別ノ系統ノ上ニ立ツ數

量ト見做スコト能ハザレバナリ。

其ノ他彼ノ思想ガ首尾一貫セザルノ憾ミアルハ其ノ折衷學者タル所以ニシテ抑モ亦羅馬百學ノ制限ナリ。是等ハ既ニ述ベタル所ナレバ今更ニ再言セズ。

「アリストテレース」(Cicero) 流ニ數デコナシテハ困ル。一ノ系統ノ上ニ在ラバ數ガ多イトテ直チニ正シトイフ能ハズ。數ガ多イトテ善イトハ云フベカラズ。卑近ノ上ニテハ數ト品質トガ必ズシモ一致セズ。今日ノ歐洲人ハ何ヲイフモ羅馬ヲ通ジテ發達シタル者ノミ。羅馬ハ差別獨立相對ニ重キヲ置クモノナリ、正シキ發現關係(全部對部分關係)ノ基礎ノ上ニ立テルモノニ非ズ。故ニ尙弱者強者ノ關係ナリ、強力弱力ノ關係ナリ。

表現人トイハズ義務トカ職務トイフテ説クヲ一般トナスガ是等ハ卑近ノ考ナリ。職務義務心等ハ極メテ大切ノモノナレバ尙之ヲ擴張セザルベカラズ。然シ義務トカ職務トカイフ義務教育計リニテハ不可ナリ。歸一シテ表現スルコトニセザルベカラズ。好マザレドモ義務故爲ストイフト好惡ヲ超越シテ同體故爲ス普通ニ歸一シツツ行フトイフコトトハ大ニ差アリ。獨立人タル官吏ノ職務ニ非ズ、國家ノ表現人ノ職務ナリ。

今日歐羅巴人ノ思想及ビ社會制度ガ羅馬以上ニ成レル大原因ハ基督教ニ統括サレタル爲ナリ。基督教モ希臘羅馬ヲ經テ善クナレリ。此ノ基督教モ其ノ根本ニ於テハ尙表現ト普通力トヲ其ノ生命トナスモノナリ。實際ニハ出來テ居ツテモ學問ノ方ガ後レタルコトモ多ク、學問上モ未ダ開拓餘地ガ充分ニ在ル。

### 第五款 帝國時代ノ羅馬思想

帝國時代ノ羅馬思想ハ稍以上ノモノト異ナリ、却ツテ専ラ「ストア」ノ學說ヲ遵奉スルニ至レリ。此ノ思想ノ中心ハ同ジク性格義務及ビ良心ニ在リテ、自然論(物理論)ハ益、不必要ノ部分トナレリ。政略及ビ政治ノ時代ハ共和政ノ終了ト共ニ過ギ去リ、今ハ專制的ニ認定法ヲ以テ形式的ニ世界ヲ統一シ支配セントシタルガ故ニ認定法及ビ其ノ學問ハ最モ大切ナルモノトナリ、終ニ羅馬固有ノ思想及ビ「ストア」學派ノ根本概念ヲ基礎トシテ、各民族ノ法制ヲ比較シ、茲ニ法律學ヲ成立セシメタリ。

當時ノ羅馬「ストア」學徒ニハ「アンネーウス、セネカ」(Annius Seneca) 皇帝「ネロ」(Nero)ノ師「S. A. D.」ト殺ス所アリ。彼ハ個人ノ意思ノ尊重スベキコト、其ノ自由獨立タルコトヲ論ゼリ。蓋シ羅馬ニ奴隸制度ノ嚴存セシコトハ「ストア」流ノ學說ト相待チ却ツテ奴隸ニ非ザル人格者ノ自由ヲ自覺セシメ、自由ヲ權利ト意識セシメタルモノニシテ、此ノ思想ハ終ニ一般ノ人間ニ擴張セラレタリ。「セネカ」(Seneca)ノ思想ハ特ニ

「ペトラルカ」Petrarca及ビ古文復興ニ影響ヲ與ヘ、益、後ノ歐洲人ノ獨立自由ノ思想ヲ固定セシメタリ。但シ帝政以後羅馬人ノ公生活ニ於ケル自由ハ全ク蹂躪セラレ、此ノ方面ニ於ケル自由ヲ失ヒタルコトハ羅馬衰亡ノ一大原因タリシコトヲ忘ルベカラズ。之ト並ビ戰役ニヨリ訓練セラレタル統括制ノ尊重モ其ノ眞ノ精神ヲ失ヒ、認定ヲ嚴守シ、規則正シク行動スルノ活氣ハ萎微シ、質素ノ氣風ハ衰ヘテ歷史上有名ナル奢侈時代ヲ生ゼシメタリ。

「ストア」學徒ニハ又「エピクテイトス」Epiktetus「マルクス・アウレリウス」Marcus Aurelius紀元後一〇一年アリ。「エピクテイトス」Epiktetusハ奴隸ナリシガ、後ニ解放セラレタル者ニシテ、紀元後九四年ニ羅馬ヨリ追ハレ「エピロス」Epiroseニ於テ教授セリ。「アウレリウス」Aureliusハ後漢ト通ゼシ大秦國王安敦ニシテ皆「ストア」學徒中ノ有力ナル者ナリ。下ハ奴隸ヨリ上ハ王侯ニ至ルマデ包容セルコトハ「ストア」學說ノ性質ヲトセシムルモノナリ。人類平等ノ思想モ、基督教ト並ビ、羅馬ノ内外人區別主義、奴隸制度ニ對シ「ストア」學徒ニヨリ唱ヘラレタルハ、明ラカナリ。其ノ他當時ハ已ニ宗教、思想ノ影響ヲ蒙リツツアリ。「アウレリウス」ノ

對話篇ノ如キモ、瑜伽禪定ヲ重ンズルコトニツキ、新「プラトーン」派ニ似タルトコロアリ。後代普國ノ「フリードリッヒ」Friedrich二世ガ奉ゼシ人生觀ノ如キハ、全然此ノ皇帝ノ著述ニ依レリ。

### 第五節 羅馬法學

#### 目次

- 第一款 公法私法ノ地位
- 第二款 萬民法ノ發達
- 第三款 法學ノ盛時
- 第四款 法典ノ編纂
- 第五款 私法ノ體系

#### 第一款 公法私法ノ地位

法律制度及ビ法律學ヲ以テ鳴リ、法律ノミノカニテモ、如何ニ大ナル事業宏大

第二門 第四章 羅馬人ノ思想 第五節 羅馬法學 公法私法ノ地位 四五四

ナル、統一ヲ完成シ得ルカヲ實際ニ證明シタルモノハ羅馬人ナリ。是等ノ發達ハ一方ニハ羅馬固有ノ思想ニ在リ、他方ニハ希臘ヨリ入り込ミタル高尚ナル哲理ニヨリ有ラユル矛盾ヲ歡迎シテ且之ヲ統一シ得タル此ノ人種ノ性格トニ存ス。然モ尙卑近ノ點ニツキテ見レバ、殊ニ羅馬ノ私法ヲシテ障礙ナク世界的ニ發達シ得セシメタルモノハ羅馬ノ嚴重ナル家族主義ヲ大普遍我ニ擴張シ次第ニ小家族ノ關係ヨリ脱シ古來ノ嚴重ナル門閥主義ヲ緩メ各個人ガ全部相對者トシテ對等ナルコトヲ意識セシムルニ至リタルコトニ在リ。之ト同ジク羅馬公法ノ發達ハ貴族平民ノ共同シテ從事スルニ至リタル兵役ニ在リ。相互ニ一心同體トナリテ國家ノ爲ニ盡瘁シ羅馬名物ノ秩序的、生活ヲ營ミ相互ノ統括關係ヲ重ズルコトニツキ絶エザル練習ヲ爲サシメタルモノハ戰役ナリキ。是等ノ精神ハ習ヒ性ト爲リ永ク羅馬公法ノ基礎タル意識ヲナセリ。而シテ共和政體ノ時代ニ於テスラ權力ノ分立ニ關ハラズ尙戰時戰場ニ於ケル一人ノ絕對的支配ノ可能ナリシコトハ終ニ羅馬ヲシテ帝政ニ轉ジ得セシメタル所以ナリ。戰爭ガ羅馬ノ公法ニ影響シタルコトノ大ナリシハ以テ類推スルコトヲ得ベシ。

全部相對關係ノ自覺ガ大切ナリ。羅馬人文ケニツキテハナク外國人ニツキテモ亦然リ之ガ私法發達ノ原因ナリ。公法ハ兵役ガ大關係アリ、秩序統括制認定ノ尊重ノ方面ガ發達セシ故ナリ。

羅馬法ニモ公法私法ノ區別アリ。(表現關係ノ意識ハ尙發達セズ故ニ表現法ト獨立法トノ別ナク表現法トモイフベキモノハ公法ノ一部ヲ占メタリ。此ノ意識ハ引續キ尙今日ノ歐羅巴ヲ支配シツツアリ) 公法ハ羅馬國ノ組成ヲ定ムルモノニシテ神事 sacra 祭儀 神主 sacerdotes 神主ノ組成權限及ビ其ノ職務及ビ官職吏員 magistratus 元老院民會其ノ組成權限等ノ法ナリ。私法ハ私人相互間ノ自由ノ關係ヲ定ムルモノナリ。羅馬人ハ支配ニツキ絕對的統括關係ノ存スルコトヲ拒マザルトトモニ又其ノ範圍内ニ於テハ分擔トシテ有スル自由ヲ尊重シタルガ故ニ一定シテ個人相互間ノ活動關係ヲ規律スル私法ハ重要視セラレタリ。私生活ニツキ羅馬人ニ一定ノ範圍内ノ自由ヲ確保セシムルモノハ羅馬ノ私法ナリシナリ。既ニ紀元前四百五十年前ニ制定セラレシ十二銅表法<sup>十二</sup> Leges duodecim tabularum ハ其ノ制定並ビニ公示ニツキ普遍意思ノ性質ヲ保障セ

愚民政策必  
要ノ故

シメラレ訴訟及ビ親族相續債權等ニツキ重要ナル私法ノ淵源ヲナス。特ニ帝  
政以後ノ政策ハ人民ヲシテ成ルベク帝國ノ政治ニ心ヲ注ガシメズ。專ラ各自  
ノ私生活ニ興味ヲ有セシムル方針ニシテ、各民族並ビニ家ニハ成ルベク其ノ自  
治ヲ與ヘ生活ニ於ケル個人主義相互ノ間ノ自由並ビニ其ノ利益ヲ主張セシメ  
之ヲ以テ民心ヲ收攬シ、國家ヲ統一スルノ策ヲ執レルガ故ニ、公法ハ進歩セズ之  
ト離レタル私法ノミガ發達ノ中心點トナリ、全部相對ノ意識ノミガ愈々人心ヲ支  
配スルニ至レリ。茲ニ至リ羅馬古來ノ統括制ヲ尊ビ、各自ノ權限ヲ重ンズル氣  
風ハ轉ジテ私事ニ親シミ公事ニ疎ク、專制ニ甘ンジツツ各自ノ利益ヲ捨テザル  
コトトナレリ。(金元以降ノ支那思潮參照)

此ノ公法上ノ統括制ノ精神ヲ採用シテ起リシモノハ、中世ノ基督教教會ニシ  
テ之ヲ新歐羅巴諸國ニ傳播セシメ、是等ヲシテ近世初期ノ統一ヲ完成セシメタ  
リ。又個人生活ヲ規律スル羅馬ノ私法ハ「ユスチニアヌス」(Justinianus)大帝ニヨ  
リ法典ニ編纂セラレ、新歐羅巴ノ私法ノ重要ナル淵源トナレリ。然モ公法ハ各  
國ノ第一事實ニ基ツキ存在スル法ナルガ故ニ、其ノ歴史ヲ異ニスルト共ニ其ノ

法理ハ形式ヲ同一ニスルコト能ハズ。私法ハ全ク法ノ上ニ存スル法ナルヲ以  
テ、此ノ種ノ制限ナク、此ノ意味ニテハ世界的ノ法タリ得ベキ性質ヲ有ス。故ニ  
羅馬ノ世界國ニ於ケル發達ニツキテモ、公法ハ尙特種ニシテ私法ハ世界的ナル  
ヲ得。又新歐羅巴人ガ之ヲ傳承スルニ方リテモ、公法ハ其ノ精神ノミヲ傳受ス  
ルヲ得タルニ反シ私法ハ形式其ノ儘ヲ承繼スルヲ得タリ。羅馬ノ公法ノ精神  
ハ各國各別ノ公法ノ發生ヲ助ケタルガ、羅馬ノ私法ハ其ノ形式ハ「ママ」一様ニ諸  
國ノ認定法トシテ其ノ效力ヲ有セリ。

殊ニ獨乙ノ普通法、南部佛蘭西ノ民法ハソノママ採川セリ。其ノ他英國デサヘ大ニ影響ヲ  
受ケタリ。而モ私法ニツキテハ「ユスチニアヌス」法典其ノママ有效ナリキ。公法ハ然ラズ、人  
或ハ之ヲ等閑ニ附スルガ、其ノ影響ハ或ハ私法以上ナルヤモ計ラレズ、只形式ガ其ノ儘採用セ  
ラレザリシノミ。

野蠻人ヲ統一セルハ羅馬ノ政治精神ナリキ。寺院ガ之ヲ以テ專制ノ制度ヲ立テ歐洲ノ野  
蠻人ヲ教育シテ新歐羅巴國ヲ生ゼリ。故ニ古文復興ハ一ハ統一、二ハ人道主義ナリ。專制的  
ニ統一スルガ近世ノ旗幟ナリキ、之レ實ニ羅馬公法ノ結果ナリ。

### 第二款 萬民法 *Jus Gentium* ノ發達

羅馬私法ハ共和政ノ終リ頃(Ciceroノ師 Scaevolaノ頃)ヨリ急速ノ進歩ヲナシ、市民法 *jus civile* ノ傍ニ萬民法 *jus gentium* ヲ生ゼシムルニ至リタリ。市民法トハ十二銅表法以來ノ羅馬ノ慣習並ビニ民會ニテ定メタル認定ノ集團ニシテ、羅馬市民ニ限リテ適用スベキ法ナリ。即チ *jus quiritis* 羅馬ノ公意ナリ。 然ルニ羅馬ガ外國ヲ征服スルヤ、外國人ハ盛ンニ羅馬ニ入り込ミ、羅馬人ト外國人及ビ外國人相互ノ間ニ複雜ナル活働關係ヲ生ジ、方式等ヲ以テ充チタル市民法 *jus civile* ノミヲ以テシテハ満足ニ之ヲ規律シ得ザルコトナリシガ故ニ、市民法以外ニ羅馬人ト外國人相互間ノ私法上ノ爭ヲ規定スル萬民法 *jus gentium* ヲ生ジタリ。サレバ市民法 *jus civile* ハ國家主義ノ法ナリ。萬民法ハ世界主義ノ法ナリ。前者ハ古來ノ羅馬固有法ニシテ、保守的ナリ。後者ハ「キケロ」頃ヨリ發達セシ一般法ニシテ、進歩的ナリ。前者ハ認定的形式的方式的ナリ。後者ハ自然的合理的放任的ナリ。羅馬名物ハ矛盾反對ハ斯ハ如ク認定法ノ上ニ、現ハレタルモノナリ。

*jus gentium* ハ元各國ノ認定法ニ共通ナル規定及ビ自然ノ理法ヲ材料トシ、

「*Prætor*」ノ認定ニヨリテ發達セシメラレタルモノナルガ、後ニハ學說、此ノ發達ニツキテ重要ノ地位ヲ占ムルニ至レリ。羅馬固有ノ思想ニ於テハ、解釋ト立法トニ峻別アリシガ、希臘哲學ノ侵入「キケロ」ノ法律論以降ハ、次第ニ二者間ニ分界ナキコトナレリ。

羅馬ガ四方ヲ征服スルヤ、市奉行 *prætor urbanus* 羅馬市ノ義。 ヲラシテ羅馬市民間ノ裁判ヲ司ラシメ、又外國奉行 *prætor peregrinus* ヲ置キ、羅馬市民ト外國人及ビ外國人相互ノ訴訟事件ヲ管轄セシメタリ。「*Prætor*」ガ其ノ裁判ヲ爲スニ當リテ據ルベキモノハ、先ヅ自然法及ビ當事者ニ共通ナル法ニシテ、之ナキトキハ自然ノ正義 *naturalis æquitas* 及ビ公益 *publica utilitas* ヲ考ヘテ判決スルコトヲ要セリ。此ノ判決例ハ萬民法 *jus gentium* ノ重要ナル淵源トナレリ。此外「*Prætor*」ハ毎年就職ノ初メニ示令 *ediktum* ヲ發シ、其ノ在職中訴訟ノ判決ニツキ取ルベキ一定ノ手續及ビ方針ヲ揭示セシガ、何時モ *Prætor* ノ示令ノ大同小異ナルヲ常トセシカバ「*Hadrianus*」一七一年マデ支配。帝ノ時ニ「ユリアヌス」*Julianus* 等命ヲ受ケテ、恒久示令 *ediktum perpetuum* ヲ制定シ「*Prætor*」ノ

探ルベキ手續並ビニ方針ヲ一定セリ。勿論各「プレートル」Praetorハ、法理上、其ノ任意ニ之ヲ變更シテ、其ノ在職中ノ行動ヲ定ムルコトヲ揭示シ得タルガ、事實上ハ之ヲ變更スル者ナカリキ。此ノ示令ハ jus civileニ對シテ jus honorarium 即チ大官法ト稱セラレ、jus gentiumノ重要ナル部分ヲナセリ。

判決モ訴訟當事者ニ共通ノ法ニテナセリ。之ニテ不足スルトキハ自然ノ公平公益ヲ考ヘテナセリ。此ノ判例ガ又一ツノ重要ナル淵源トナレリ。

外國奉行 Praetor peregrinus ガ裁判スルニ當リ、據ルベキ手續並ビニ適用スベキ規定ノ重ナル内容ヲナシタルモノハ、各民族ニ現在セル認定法中ノ共通ナル認定、少クモ訴訟當事者雙ト自然法トニ在リ。此ノ二ツハ始メハ同一視セラレ、各國共通ノ規定即チ自然法、自然法即チ各國共通ニ存スル認定法トセラレタリ。「キケロ」ノ如キモ認定法ハ即チ自然法ニ合一セザルベカラザルコトヲ主張シタル者ナリ。「アリストテレ」スハ、曩ニ比較研究ニヨリ、共通ノ原理ヲ抽象シ得ベシト唱ヘ降リテ「アンチオコス」ボシドニウス等ハ各學說ニ共通ナル獨斷ヲ拔萃シテ之ヲ生活活動ノ確實ナル原則ト見做サントシ「キケロ」モ亦共通ヲ抽象シ之

當時ノ不平博愛ノ理想  
等生活ノ不博愛ノ理想  
想平等ノ理想  
萬民法ノ實際

ニヨリテ、共通意識 consensus gentiumヲ定メントセシガ。此ノ傾向ハ羅馬ノ實際的法律界ヲ支配シ、上ノ如キ方針ニヨリ、自然ニ歸一セル認定法即チ萬民法「jus gentium」ヲ定メントセシモノナリ。

「アリストテレ」スハ比較研究ヨリ哲學上ノ系統ヲ經テオル、所ガ羅馬ニ來テ比較的折衷的拔萃的ノ事ガ實際生活ニ用キラルルニ至リ、自然法即チ認定法「タルモノ」ヲ定メントセリ。コレガ jus gentium ナリ。故ニ「萬民法」即チ「自然法」ガ本來ナリトス。

然レドモ自然法ト其ノ頃ハ、民族ニ偶然共通ナリシ認定トハ必ズシモ合シツツアルモノニ非ズ。此ノ兩者ノ矛盾ハ、法律意識トシテ最モ大切ナル人格ト、物トノ分界ニツキ切ニ意識セラレタリ。當時一方ニハ「ストア」哲學ノ自然說盛ンニ行ハレ、人類ノ平等ヲ要求シ、基督教ノ平等說モ亦起リタルニ拘ハラズ、他方ニハ年年歳歳奴隸ノ數ヲ増加シ、其ノ待遇モ亦往往殘酷ヲ極メタリ。「ストア」哲學ヲ根據トシテ認メラレタル自然法「jus naturalis」ニハ奴隸ノ制度ヲ認メズ。然ルニ各民族共ニ奴隸制度ヲ有セザルモノナク、社會ノ實際生活上認定セラレタル萬民法ニハ人格ナキ人即チ奴隸アリキ。「アリストテレ」スノ奴隸論參照「サレバ紀元後二三世紀ノ交ニ至リテハ法ノ分類ニツキ二分說及ビ三分說ヲ生ゼ

「アリステレウス」ノ比較歸納ノ欠點アルコトハ前ニ言ヘリ、故ニ只比較研究ニハ大ナル注意ヲ要ス。「アンチオコス」<sup>○</sup>「ボシドニウス」<sup>○</sup>ノ如キモ只折衷ノミナリ。共通ナラザルモノモ、最も根本的ノモノカモ知レヌ。或ハ其ノ頃マデハ人ノ自覺ニ上ラザリシコトニテモ大原理ノアルコトアリ。故ニ單ニ折衷ニテハ安心スル能ハズ。

Catoノ時代ニハ上流ノ者ニテモ一家三人位ノ奴隸アリシガ、Augustusノ時代ニハ中流者ガ一家十人位ヲ有シ、其ノ後ニハ富豪ノ者ガ一、二萬人ヲ有スルニ至レリ。

二分説ハ市民法 *jus civile* ト萬民法 *jus gentium* トヲ認ムルノミニシテ、自然法 *jus naturale* ハ只萬民法 *jus gentium* ノ別名ニ過ギズトセシモノナリ。「ガイウス」<sup>○</sup> Gaius 等此ノ説ヲ探レリ。三分説ハ市民法 *jus civile* ト萬民法 *jus gentium* トノ外ニ自然法 *jus naturale* ノ存在スルコトヲ認メ、所謂萬民法 *jus gentium* ハ大略自然法ト合致スルノ範圍ヲ有スレドモ、必ズシモ全ク一致スルモノニ非ズ。故ニ其ノ不自然ナル點ハ、自然法ニ則リ之ヲ改正セザルベカラズトシ、カメテ人類平等ノ原則ニ歸セシメントセシモノナリ。「ウルピアヌス」<sup>○</sup> Ulpianus 其ノ他此ノ説ニ依ル。蓋シ、キケロガ自然法ニ合一セザルモノハ、認定法ニ非ズト號呼セシハ、認

定法ヲシテ自然ノ大道ニ合一セシメントスルノ切ナル要求ニ出デ、其ノ後ノ人ハ各國共通ノ規定ヲ拔萃セバ、此ノ自然法ヲ得ベシト信ジタルモノナリ。然ルニ斯ノ如キ比較的研究ノ結果得タル萬民法ハ、根本的ノ哲理ヲ基礎トシテ論說セラレタル自然法ト矛盾スルコトヲ發見シタルガ故ニ、此ノ度ハ更ニ萬民法ト自然法ト對立セシメテ自然法ニ復歸セザルベカラズト唱ヘラレタルモノナリ。サレバ「キケロ」以來法ノ三分説ニ至ルマデ、其ノ形式ヲ反對ニシツツ、然モ自然ニ合一セントスル精神ヲ一ニスルモノトイフベシ。「ストア」<sup>○</sup> 學徒ハ自ラ直接シタルモノニ非ズ。彼等ハ俗事ニ關セズ、法學者ヲ通シテ自然法 *jus naturale* ヲ主張セシメ、萬民法 *jus gentium* ヲ發達セシメタルモノナリ。

今日マデ吾人ハ何故羅馬法ヲ修學スルカ。羅馬法ガ羅馬人ノミニ偶然ノ法ナランニハ吾人ガ之ヲ尊重スルノ價ナシ。普通性アルガ故ニ尊キノミ。外國ヲ征服セシ故ニ非ズ、自然法<sup>○</sup> (廣義)ガ根據トナリシガ故ナリ。理ヲ統括セルガ故ナリ。

### 第三款 法學ノ盛時

羅馬ニ於テハ法學者ノ説モ亦認定法ノ淵源ニシテ、萬民法ノ發達ニ貢獻セシ



トコロ莫大ナリ。法學者ハ裁判官ヲ養成シ、自然法ヲ明ラカニシタル點ニ於テ著シカリシノミナラズ、其ノ學說自身ガ又認定法タル萬民法ノ淵源ヲ爲セリ。勿論學說自身ガ直チニ認定法タリトイフニ非ズ。法學者ガ自說トシテ訴訟當事者ニ答ヘタルコトガ、裁判所ニヨリテ採用セラレタルトキニ認定法ノ效力ヲ有スルモノナリ。初メハ口頭ニテ說ヲ述ベタルモノナレドモ、後ニハ必ず書面ヲ以テ答フルコトヲ要セリ。即チ法學者ノ作りタル訴訟鑑定書ガ法廷ノ採納ニヨリ認定法ノ效力ヲ得タルモノナリ。サレバ認定ノ形式ヲ重シシ來リタル羅馬ニ於テハ、又一層法律學說ヲ重要視シ、法律學說ノ盛ンナリシコト古代其ノ比ヲ見ズ。法學者ノ數モ極メテ多ク、殊ニ有名ナル五大法學者ヲ輩出セシメタリ。「ガイウス」161 A.D.頃「イニクス」179-228頃「パピニウス」140 A.D.頃「ウルピウス」179-228頃「モデスチヌス」第三世紀ノ中頃「ウルクス」212頃「パウルス」第三世紀ノ中頃等是也。「パピニウス」179-228頃「パピニウス」140 A.D.頃最モ著ハル。但シ「ユスチニアヌス」Justinianus 法典中ニ主トシテ採用セラレタルモノハ「ウルピウス」Ulpianusノ說ナリ。此ノ中「ガイウス」ハ「マルクス・アウレリウス」Marcus Aurelius 帝ト其ノ時代

ヲ同フスレドモ、其ノ餘ハ皆引續キ二世世紀三世紀ノ交ニ活動シタル者ナリ。之ヲ羅馬法學ノ盛時トナス。而シテ五大法學者ハ或ハ希臘ニ生レ希臘人ヲ師トシ、一人トシテ希臘思想ニ關係ヲ有セザル者ナキハ、最モ注意ヲ要スル所ナリ。

公法ノ問題モ私法ノ眼ヲ以テ論セラレタリ。今日ノ歐洲ノ法學ガ私法的ノ傾向ヲ有スルハ此ノ時ニ運命ヲ定メラレタルモノナリ。

之ヨリ先希臘思想ノ流入ハ、羅馬國ノ精神的擴張ヲ可能ナラシメ、羅馬ノ外部的擴張ハ其ノ法律ノ發達ヲ要求シ、在來ノ法律法學ヲ勃興セシメシガ、始帝「アウグストゥス」Augustus 紀元前二七年ヨリ紀元後一四年マデ支配ノ時ニハ、已ニ創設的ナル「アンチヌチウス」Antistius Labeoト官學者「アテイウス・カピト」Ateius Capitoトガ各、其ノ根本主義ヲ異ニシテ相降ラズ「ラベオ」Labeoハ共和主義ヲ探リ「カピト」Capitoハ「ラベオ」Labeoノ門下ニハ「セムプロニウス」Sempronius Proculusアリ。「カピト」Capitoノ門下ニハ「マヌリウス・サビヌス」Manus Sabinusアリ、其ノ學徒ガ相對立セルコト百五十年ヲ越エタリ。是等ノ學徒ハ、何レモ萬民法ヲ中心トシテ精神的ニ之ヲ解釋シ、討究シタルモノナルガ。「プロクルス」Proculusノ學徒「Procilianer」ハ、舊慣ニ拘泥セズ、

道理ニ遵ヒ需要ニ應ジテ法ヲ創設セムトセシ者ナリ。「サピヌス」學徒 Sabianer  
ハ歴史ヲ重ンジ習慣ヲ保守セムトセシ人ナリ。之モ亦羅馬名物ノ矛盾ノ一  
ニシテ爲ニ法學ハ著シク進歩シ兩派ノ争ヒノ調和セル頃五大法律學者ヲ出ダ  
スニ至リシナリ。五大法學家ノ後モ認定法ハ時勢ニ應ジテ變遷シ益々複雑ヲ加  
ハタルガ法學ハ又萎靡シテ振ハズ。是ニ於テカ法典ヲ編纂シ何人ヲシテモ形  
式的ニ法ノ運用ヲ爲シ得セシムルノ必要ハ日ニ切ナルヲ致セリ。而シテ終ニ  
此ノ大事業ヲ遂行セシ者ハ東羅馬國ノ「ユスチニアス」 Justinianus 大帝ナリ。

「ケーザル」 Cesar ノ時既ニ法典ノ編纂ニ意アリシモ果サズ。當時ヲ支配セシ「テオドシウス」  
Theodosius (408-450) ハ「コンスタンチヌス」 Constantinus 大帝 (372-377) 以來ノ勅令ヲ編集セリ。〔テ  
オドシウス〕ノ法令類典(同帝ハ又五大法學者ノ說ニ認定法ノ効力ヲ附與シ是等ノ間ニ異說  
アルモノハ多數ノ意見ニ從ヒ同數ナレバ「パピニアス」ノ意見ニ依リテ之ヲ定メ其ノ說ヲ知  
リ得ザルトキハ裁判官自身ノ意見ニ依ルコトトセリ。  
矛盾ハ何デモヨイ譯デハナイガ羅馬ノ矛盾ハ發達ニヨキモノヲ作りタリ。矛盾ガ發達ニ  
非ズ之ヲ調和シ統一スル所ニ發達在リ。而シテ統一ニハ執着スルトキハ又何ハ矛盾モナ  
キガコレ哲學的ニモ政治的ニモ人民ノ自由全部ノ活力ノ亡ビ來リタル時ナリ。

#### 第四款 法典ノ編纂

「ユスチニアス」ノ法典ハ紀元後五百三十四年ニ完成セラレタリ。人種移轉  
ノ始マリタルヨリ百五十年餘モ後レ「オドヴァーケル」 Odoaker「ゲルマニ」  
西羅馬帝國ガ滅亡セシメラレタル時ヨリ六十四年ヲ過ギタリ。故ニ遙カニ後  
代ニ屬スレドモ便宜上此ノ節中ニ述ベムトス。

羅馬法典編纂ハ世間生活ノ鑄型ヲ作りシモノニテ人ノ死ニカケニ其ノ生活經驗ニツキ書  
ヲ著ハセシト同様後年子供ガ父ノ本ヲ見テ大ニ奮發セシト相似タリ。果シテ後ノ野蠻人ニ  
大ニ役ニ立テタリ。

此ノ法典ハ東羅馬ノ「コンスタンチノールブル」ニテ編纂セラレ其ノ内容ハ民法  
ニシテ萬民法 Jus Gentium ノ發達セシモノナリ。羅馬市民法ニ非ザルコト固ヨ  
リナリ。此ノ法典ハ三部ヨリ成ル。其ノ一ハ法學階梯四卷 Institutiones ナリ。  
其二ハ學說彙纂五十卷 Digesta 又ハ pandecta ナリ。五大法學者等約三十九人ノ  
學說ヲ彙類シテ載セタリ。其三ハ法令類典十三卷 Codex ナリ。「ユスチニアス」  
ス並ビニ其ノ以前ノ皇帝ノ發シタル法令ヲ輯録セルモノナリ。此ノ中法學階

梯 *Institutiones* ハ教科書ニシテ認定法自身ニハ非ザレドモ尙有權的ノ教科書ナリ。爾餘ノ二典ハ皆認定法トシテ效力ヲ有ス。斯ノ如ク「ユスチニアヌス」*Justinianus* 法典ガ教科書ヲモ包含シ、且學說ヲ收ムルハ猶現今ト異リ著書ト法典ト法學ト法術トノ充分ナル分岐ナキニヨルモノナレドモ、教科書及ビ學說ヲ斯クマデ重要視シ、且是等ニ特殊ノ權威效力ヲ附與セルコトハ羅馬ノ優越性ヲ保障セシモハニ外ナラズ。

此ノ法典編纂後新ニ皇帝ニヨリ發セラレタル法令アリ之ヲ輯録セルモノヲ「*Novellae constitutiones*」新勅令ト稱ス。現ニ百五十二ノ新勅令ヲ存ス。後ノ學者中此ノ全體ヲ合セテ「*Corpus juris civilis*」ト呼ベリ。羅馬法ガ新歐羅巴各國ヲ支配シ得タルハ全ク此ノ法典ヲ通ジテナリトス。此ノ法典大成セラレズンバ羅馬私法ノ影響ハ然レドモユスチニアヌス法典ノ編纂當時ハ已ニ法學ノ衰ヘタル時代ナリ。彼ガ當時ノ基督教思潮ニ伴ヒ博愛ヲ旨トシ、奴隸制度遺言相續等ヲ修正セシ精神ヲ除ケバ、彼ガ法令類典 *codex* 中ノ舊勅令ニ加ハヘタル改正並ビニ學說彙纂 *par-*

*decreta* 中ノ說ヲ修正セシ部分ハ、盡ク有ラユル點ニ於ケル法律思想ノ退歩ヲ示スモノトス。殊ニ廣狹無碍ナル認定法ガ法典トシテ形式立テラルト共ニ認定法ノ淺薄ナル利用ニ便宜ヲ與ヘシニ止マリ、法學ハ全ク其ノ活精神ヲ失ヒタリ。十二銅表法制定ヨリ「ユスチニアヌス」*Justinianus* 法典ノ大成ニ至ルマデ九百八十四年羅馬建國ヨリ此ノ法典大成マデ千二百八十七年此ノ間ハ永ク統一セラレタル法典ナク、雜然タリシト雖モ羅馬法ハ却ツテ此ノ間ニ自然法ヲ採納シ、思フガ儘ニ學說ヲ許容スルコトヲ得タリシナリ。羅馬法ノ有名ナル伸縮自在ノ力ハ、全ク此ノ間ニ發達シタルモノナリ。法學ノ教授ハ法典大成ト共ニ其ノ頃モ盛ンニシタルモノナリ。行ハレタルガ又新創ノ活精神ナキヲイフナリ。其ノ後八百七十八年希臘ニ於テ新タニ「*Basilica*」法典ヲ編纂セシガ、其ノ頃分立セシ希臘教ト等シク、西洋本部諸國ニ何等ノ影響ヲ與ヘタルコトナシ。

人間モ若イ時ハ形式ヲ好マズ、同一ノ人モ年ヲ經レバ形式ヲ好ム、羅馬法モ亦然リ。今日ノ歐洲ニ形式的ノ影響ヲ與ヘシハ活キタル羅馬法ニ非ズ、此ノ法典ナリ。此ノ法典ヲ通シテ影響セシノミ。然シ活キタル「ローマ」ノ精神、制度、法律思想ハ西歐今日ノ發達ノ基礎ヲ爲シ、其ノ根柢ニ活キツツアリ。是レ實質的ノ影響ナリ。

### 第五款 私法ノ體系

羅馬私法ノ體系ハ「ガイウス」Gaius 及「ユスチニアヌス」ノ法學階梯 *institutiones* ニヨレバ、共ニ人法 *jus personarum* 物ノ法 *jus rerum* 及ビ訴訟 *actiones* トナス。十二銅表法モ亦是等ノ内容ヲ含ム。但シ十二銅表法ハ訴訟ヲ先ニスレドモ、二ツノ法學階梯 *institutiones* ニハ何レモ訴訟ヲ後ニ置ケリ。羅馬ニ於テ訴訟ヲ私法中ニ加ヘタルハ、深キ意味ノ存スルコトニシテ、特ニ其ノ初期ノ體系ニ之ヲ最初ニ置キシハ、羅馬人ノ性格思想並ビニ其ノ全體ノ歴史ヲ現ハスモノナリ。

羅馬ノ私法ハ元公法ヲ根據トシテ、其ノ上ニ發生シタルモノニ非ズシテ、各自ノ分擔スル自由範圍ヲ尊重ノ中心トナシ、各自自衛ノ精神ヲ以テ發達セシメタルモノナリ。此ノ自衛ニヨル衝突即チ矛盾ガ統括者タル第三者ニヨリテ認定セラルルニ及ビ、其ノ矛盾ノ主體ガ即チ私法上ノ人格者ト認めラレ、其ノ以外ハ事物ガ物ト認めララルルニ至リシモノナリ。羅馬ニ於テハ、此ノ矛盾ノ解決ハ全部相對關係ヲ主トセルモノニシテ、其ノ發達ガ訴訟手續ノ法ヲ生ゼシメ、自衛ノ

此ノ調和ノ  
本意識モ亦根  
本意識ニシテ  
佛ラトシテ認  
メテラシメ

主體即チ矛盾ノ主體ノ間ニ起リ得ル結婚親族後見等ノ活動關係ガ、人ノ法ヲ發達セシメ、有體無體ノ物ニツキ自衛ノ主體間ニ生ズル關係ガ、物ノ法ヲ定メシメタルモノナリ。サレバ、羅馬ニ於ケル私法上ノ人格者ハ、訴訟ノ主體タルガ故ニ、人法物法上ノ主體トシテ認定法上ノ人格者ト認めラレ得ルモノナリ。認定法上ハ人又ハ物が先ニハ非ズシテ、矛盾ガ先ナリトモイヒ得ベシ。是レ公法ガ先ヅ發達シ之ニヨリテ認定法上ノ人格者ト物トガ認めラレ、是等ノ人格者間ニ生ズル矛盾ヲ豫防シ調停スル公法上ノ制度ヲ設クルモノト大ニ其ノ趣ヲ異ニスルトコロナリ。認定法ガ既ニ發達セシ後ニ於テ之ヲ研究スルニハ、必ずシモ羅馬ノ故ニ二ツノ法學階梯 *institutiones* ハ、共ニ訴訟ヲ後ニシタルモノナリ。

羅馬私法ノ發達ノ端緒ハ、矛盾ノ意識ニ在リ、訴訟ノ手續ニ在リ。之ト離ルベカラズニ認定法上彼我ノ人格者ノ觀念發達シ、終ニ人格竝ビニ物及ビ其ノ活動關係ノ規律ガ複雑ニ意識セラレタリ。蓋シ彼我及ビ其ノ歸一スル普遍我ノ人格竝ビニ物及ビ其ノ間ノ關係ト此ノ關係ニ對スル法トノ四個ノ意識ハ、皆吾人ノ根本意識ニ屬スルモノニシテ、其ノ何レヲ前後ト定メ難ク、最小限度ニ於テハ

一切一時ニ存在スルモノナリ。(佛教眞言宗ノ四種ノ曼荼羅アリストレリス)ノ四因ノ説参照)此ノ中羅馬人ノ思想竝ビニ羅馬法ノ發達ニツキテハ、矛盾竝ビニ人格ヲ主要ノモノトナシ希臘哲學ノ侵入ト共ニ法ノ意識ヲ高ノ經濟事情ノ變遷ト共ニ財貨ヲ尊重シ終ニ人格者間ノ矛盾人格者間ノ圓滿ナル活働關係及ビ物ニツキ生ズル人格者間ノ圓滿ナル關係ヲ規定スル私法ヲ完成セシメタルモノナリ。但シ普通人ノ意識ハナキニ非ザレドモ、人格ノ意識ハ尙彼我ノ單純我ニ重クシテ、國家其ノ他ノ普通我ヲ以テ法人トナセリ。

羅馬ハ全部相對關係ヲ主トシテ私法ヲ發達セシメシ故、其ノ情勢ニテ歐洲人ニ普通ノ分ラヌハ當然ナリ。又喧嘩好キナル習俗モ羅馬ヨリ傳ハレルモノ多シ。

人格ヲ矛盾  
中心トシ  
テ定義セ  
ルモノナリ

羅馬私法ノ發達ハ羅馬人ノ性格ニ基ヅケドモ、又絶エズ生ジタル各種ノ矛盾ニ原因ス。矛盾ハアレ共常ニ之ニ打勝チ得、矛盾ヲ轉ジテ法ト成シ得タル羅馬人ノ性格ニ存ス。矛盾ハ宗教上ニモ、倫理上ニモ、社會上ニモ、政治上ニモ、法律上ニモアリ得ベケレドモ、是等ニヨリ鍛鍊セラレ、又是等ヲ生ゼシムルハ能力アリ、且是等ヲ利用シテ、益、其ノ存在ヲ自覺シ、自信ヲ高メタルモノハ、變ラザル羅馬人ノ性格ナリトス。矛盾ガ著シカリシ、ホド、羅馬人ハ、其ノ人格、其ノ自

公法ハ特  
配權ノ支  
律關係ヲ  
スル内容  
トナシ

由ニツキテ、深ク意識スルコトヲ得タルモノナリ。故ニ人格者ハ權利義務ノ主體ナリ、即チ認定法上ノ活働關係ノ主體ナリ。認定法上少クモ矛盾能力ヲ有スル者ニ非ザレバ、Personamニシテ人、personamニ非ザルナリ。人間homoニシテ尙人格caputヲ有セザルコトイフ。之ニモ關セズ羅馬人ハ、益、其ノ矛盾ノ要求ヲ擴張シ、其ノ獨立の統括關係、其ノ主觀論ニ對スル矛盾ヲ求メ、已ニ「カールス」Carrus更ニ進ンデ表現關係ニ及ビ、表現活働關係ノ表現上ノ主體即チ表現人ヲ意識スルニ至ラザリシハ、尙羅馬主義ノ上ニ出ヅベキ餘地ノ存スルコトヲ示スモノトナス。新プラトーン學派ガ東洋思想ヲ採用シテ躍起シ、基督教ガ博愛ヲ標榜シ、思潮ニ最深ノ根柢ヲ與ヘムト試ミシモ、蓋シ偶然ニ非ザルナリ。

## 第五章 宗教時代

### 目次

#### 第一節 總論

#### 第二節 「ピタゴラス」及「プラトーン」ノ復興

第三節 基督教ノ確立

第一節 總論

希臘人ハ吾人ノ美的學問的意識ヲ根據トシテ、宇宙ノ圓滿ナル一大調和宇宙ニ遍在スル大理想及ビ宇宙ノ變ラザル大理法ヲ思惟ノ上ニ表ハシ、一貫セル永久普遍ナル學問ヲ建設セムトセリ。理想法トシテ一貫セリ。羅馬人ハ吾人ノ意思竝ビニ活動及ビ矛盾ヲ基礎トシテ、認定法及ビ國家ヲ實際生活ノ上ニ實現セシメ、統治權立法權ヲ確定シ、相對シツツアル權力ト服從トノ限界相對シツツアル各自由ノ主體相互ノ關係ヲ創定シ、更ニ進ンデ此ノ限界此ノ關係ヲ推シテ相對スル神ト萬物トニ及ボサムトセリ。意思活動トシテ常ニ矛盾トシ。然ルニ宗教時代ニ及ビテハ、更ニ國民的分界ナク、地中海ノ沿岸諸國ニ通ジ、初メ中心點ハ「アレ」精神ノ全部ヲ率キテ、神人ノ合一ヲ期待スルニ至レリ。偶然ナル思惟竝ビニ認定ノ形式ヲ超脱シ、吾人ノ信仰ヲ鍛鍊シ、又最新ノ内部ヲ反省セムトセリ。換言スレバ、當時ノ要求ハ萬民ニ通ジテ動キナキ信仰ニ安立セムトスルニ在リ。何レノ場合何レノ時

是レ即チ悟ナリ

ニモ替ハラザル最深ノ心ヲ發揚セムトスルニ在リ。心理各部ノ區區タル作用ヲ統括スル總攬力ニ歸着セントスルニ在リ。是等ノ要求ハ東方殊ニ印度宗教ノ影響ヲ受ケテ起リタル宗教心ニヨリ助成セラレ、宗教的實力ノミニヨリ到達シ得ラルベシト信ゼリ。而シテ其ノ大ナル實行ヲ正當ナラシメムトスル教理ニハ、希臘哲學ハ勿論、羅馬主義ヲモ吸收加味セラレタルヲ見ル。

是ヨリ一ツノ悟ニスルノ時代ナリ。羅馬ハ意思ヲ先ニ立テテ矛盾ヲ主トスルガ、希臘ハ道理ヲ主トスル故人ヲ主トナス。知識ハ矛盾セザルトコロニ在リトシテモ、意思ハドウシテモ矛盾ナクンバ存セズ。宗教時代ニ入りテハ「手近ノトコロニテグズム」スルハイカン、心ノ働キヲ萬人ニ通ジテ統一シヨウ、*Jus Gentium* 計リデナク、精神全部ヲ以テ探リテ見ヨウ、全部ヲ以テ萬人ヲ統一シヨウ、萬人ヲ一ニ歸セシメヨウ、凡テノモノノ模範タル神ニ歸一セシメヨウ、各自ニトカ或ハ羅馬人ニトカ或ハアル特定ノ學者ニトカ歸一セシムルノデナク、萬民共ニ心身ノ全部ヲ以テ神ニ歸一シヨウ、夫ガ出來ナイ者ハ死ンデ仕舞ヘ。身體ハ不完全ノモノ故夫ヲ殘シテ置キ、魂ヲ搾リ出シテ神ニ合一シヨウト云フニ在リ。印度ノ文化ノ影響ヲ受ケシハ明ラカナリ。「アレクサンドロス」ノ臣下「ゼロイコス」ガ領セシ「ギリシャ」ノ植民地、大夏國ハ印度ト界ヲ接ス、此ノ地ノ主ノ「ミリンダ」*Milinda*ガ佛ノ比丘、那先 *Nagassin* ナル者ト問答セルコト今ニ殘レリ。之丈ケニテモ佛教ノ思想ノ希臘ニ傳ハリシコトハ明ラカナルコトナリ。

蓋シ希臘哲學ハ、智ニヨリテ理ヲ求メントシテ成ラズ、智ニヨリテ、智ノ信用ス

ベカラザルコトヲ證明セリ。羅馬法學ハ認定ヲ統括方面トシ、理ヲ其ノ中ニ包容シテ起リタルモノナレドモ、理ハモト絕對ナルコト能ハズ、認定ハ尙更絕對ナルコトヲ得ズ。認定ハ到ル處相違アルガ故ニ、理ニ合一スルコトニヨリ、僅カニ其ノ普遍性ヲ維持シ得ベキノミ。希臘人ハ智ニヨリ客觀的ノ理法ヲ模寫シテ樂シムノミナレバ、主觀世界ト客觀世界トハ常ニ相對立セリ。羅馬ノ法律ハ認定並ビニ活動ニヨリ、客觀的理法ヲ採用シ、此ノ世間ニ實現セントスルモノナレドモ、常ニ相對關係ノ位置ヲ脱セズ。希臘ニ於テハ主觀客觀ノ相對ヲ特色トセシガ、羅馬人ハ主觀世界中ニ於テ、自ら相對立シ、或ハ獨立の統括關係ニ立チ、或ハ獨立の對等關係ニ立チタリ。全部相對關係ニ該當スレドモ、稱低キ觀念ナリ。

希臘ハ智慧ニテ見ル故、客觀的ニシテ自己ヲ主觀ヨリ引出シテ、外ニ置キテ見ルナリ。羅馬ハ主觀的故、主觀中ニ客觀ヲ持チ來リ、自分ノ中ニ入レテ統括ス。サレドモ其ノ世界ハ主觀的ノモノニテ、活動關係ヲ重ンズルガ故、獨立相對的或ハ獨立統括關係トナリ、認定法ハ活動關係ヲ規律ス、統括的及ビ對立的ノ關係ヲ内容トスルナリ。此ノ關係ヲ規律スル故、羅馬ハ常ニ對立的ニシテ之ヨリ矛盾ヲ生ズ。

此ノ時代ニ知識認定ヲ捨テ、更ニ信用シ得ベキ不動ノ信仰ヲ求メ、絕對的ノ實

基盤 家族 國家  
 家 族 國  
 情 執 行  
 モ 亦 括 非  
 ズ 亦 括 非  
 未 行 住  
 隊 會 萬  
 ノ 活 動 二  
 張 七 七

在ニ信賴セントセシハ、人心發達ノ自然ノ勢ナリ。タダ主觀客觀ノ餘所餘所シキ對立ヲ離レ、獨立の統括關係並ビニ獨立の對等關係ヲ脱シ、更ニ高等ナル歸關係ニ到着セントセシハ、思想並ビニ生活ノ發達ニ必然ナル順序ナリ。但シ此ノ歸一關係ハ、尙古來繼續セル對立ノ形式ヲ脱シ得ズ、概シテ來現關係ノ形式ヲ採用セリ。(特ニ「ピタゴラス」「アナクサゴラス」「プラトーン」及ビ「アリストテレース」等ノ二元論參照)當時ノ社會ヲ支配セシ君民對立ノ二元の制度ト等シク、概シテ絕對者タル神ト萬物トノ二元的對立ヲ根本ノ形式ト爲セリ。加フルニ當時ノ歸一關係ハ、獨立の統括關係、獨立の對等關係ヲ折衷シテ、其ノ上ニ立テラレタルモノナルニモ拘ハラズ、反ツテ現世ヲ離レタル所ニ神人ノ合一ヲ求メントシ、其ノ歸一ハ多ク單純人個個ノ修行ニヨリテ、各人單獨ノ出離ヲ欲シタルモノナリ。サレバ、各人共同シテ現世ノ生活ヲナシ、之ヲ以テ共同シテ神ニ歸一セントシ、又ハ各人各別ニ其ノ活動ヲナシツツ、之ヲ以テ一切人ヲ神ニ合一セシメントスルコトヨリ、復カニ幼稚ノ位置ニ在リ。換言スレバ、現世ニ於ケル各個人トシナガラ、尙表現人トシテ、共同又ハ單獨ニ行動シ、益、其ノ者及ビ一切人ノ表現者タ





學ノ骨格ヲ構造セント試ミタリ。(佛教哲理阿賴耶識ノ概念ノ終リ外物及ビ物  
自體ノ存否參照)

神ニ歸一スルトナモ人間トシテ神ニ歸一スルガ一番ヨイ。人間タルヲ捨テテ神ニ歸一ス  
ルハ不可ナリ不能ナリ。鼻ノ低キ者ハ其ノ儘ニテ神ニ歸一スベシ。日本人タル太郎ハ日本  
人ヲ表現シツツ神ニ歸一セバ可ナリ之ヲ忘レテ絕對者ニ歸一スルコトハ出來ヌ。況ヤ新ル  
形式的ノ絕對ノ有無ハ不明ナルオヤ。

總ベテノ要求ヲ統括セル根據ノ上ニ立チテ信仰スレバ可ナリ。信仰モ不完全迷信ノモノ  
ハ捨ツベシ。是ニ於テカ尙哲學ト離ルルコト能ハズ。之ヲ材料トシ之ヲ利用シテ信仰セン  
トスルガ當時ノ要求ナリキ。是レ「プラトーン」「ピダゴラス」ガ中心トナリタル所以ナリ。

茲ニ於テカ當時ノ哲學ハ既往ノ哲學ヲ統括大成セシメテ獨立人ガ即チ表現  
人ヲ構成スル所以表現人モ亦自然ノ人格者タル所以ヲ自覺セシメムトセシモ  
ノニ非ズ。當時ノ哲學ハ宗教ニ對シテ獨立セル精密ナル知識ヲ求メシモノニ  
非ズシテ宗教心ノ命令ノミヲ是認シ超越的絕對ト現世トノ關係ヲ説クコトヲ  
勉メタルモノナリ。自然人ヲ獨立單純我ニ限り之ヲシテ不完全ヲ離脱シ出世  
間ノ世界ニ昇ラシムルノ實行方法竝ビニ原理ヲ指示講究スルノ教トナレリ。  
宗教的道德的ノ實行手段ニ理由ヲ附シ之ヲ辯護スルノ學トナリシモノナリ。

近世ノ初期  
其ノ反動  
ハ同様の  
ナリ且ハ  
大ニ動

學問ガ知識意思感情竝ビニ信仰ヲ統括スル所ノ至大ノ信仰ニ安立スルハ最モ  
必要ナレドモ宗教ノ獨斷認定ノ偶然感情ノ勃發變動知識ノ小成ニ對シテ獨立  
シテ其ノ光明ヲ分與シ是等ヲ矯正スベキコトハ其ノ最高ノ任務ナリ。然ルニ  
當時哲學ガ徒ラニ宗教ノ門番トナリ加之迷信ノ護衛トナルニ至リシハ宗教進  
歩ノ一段階ナリトシテモ哲學ノ退歩ニ外ナラズ。此ノ傾向ハ絕對的排他的ナ  
ル基督教專制時代ノ中世ニ於テ顯著ナル所ナレドモ其ノ起リハ既ニ古代ノ末  
期ニ在リ。

學問ハ小智慧ニテ考ヘテハ成立セズ。知識感情意思信仰モ統括セル最モ深キ信仰ノ上ニ  
立タザルベカラス。此ノ上ニテハ總ベテヲ含ミ一ニ歸スルモノナリ。此ノ根柢ニ基ツキシ  
モノガ眞ノ學問ナリ。而シテ凡テ吾人ノ向上心ヲ圓滿ニ發展センガ爲ニセシモノナリ。學  
問ハ學問ノ方ヨリ他ノ我儘ヲ直シ迷信ヲ正スモノナリ。故ニ哲學ハ共通ノ基礎ノ上ニ立チ  
ナガラ尙獨立ノモノナリ。然ルニ當時ノ哲學ハ獨立セザリト即チ或獨斷的形式ノ上ニ定マ  
リツツアル神ト獨斷ニヨリ定マレル人間ト如何ナル關係ニ在ルカナドノ研究ニ重キヲ置キ  
テ常ニ此ノ意味ニテ宗教ヲ主人トシタリ。他ノ方面ヨリ見レバ哲學ガ信仰ノ根柢ニ結ビ付  
カントセシ時代故貴キナリ。但シ中世ノ哲學ノ價值ナキハ此ノ點ニ在リ。成立宗教ニヨリ  
テ定メラレシ獨斷ヲ敷演セントカメシノミ之ガスコラ哲學ナリキ。

以上ノ性質ヲ有スル宗教的哲學ノ徒ニハ、新「ピタゴラス」學徒アリ。「フクロン」アリ。新「プラトーン」學徒アリ。「エッセネ」宗徒「Essener」アリ。「グノスチカト」「Gnostiker」アリ。基督教ノ教父アリ。新「ピタゴラス」派ハ東方、宗教思想ハ、刺激ヲ受ケ、宗教上ノ大人物ヲ選擇シ「ピタゴラス」ヲ以テ之ニ充テ、其ノ盟社ノ爲シ來リタル禮拜ヲ用キ、財産私有ヲ排斥セルモノニシテ、宗教思潮ノ前驅ナリ。「エッセネ」宗ハ猶太教ニ「ピタゴラス」盟社ノ儀式ヲ加ヘタル宗旨ナリ。紀元後一世紀ノ頃ハ於テモ四萬ノ信徒ヲ有シタルコトイフ。「イエス」ハ猶太教ニ「プラトーン」ノ哲學ヲ加ヘテ一ノ新學ヲ組織シタル猶太人ナリ。新「プラトーン」派ハ、印度思想ト「プラトーン」ノ哲學トヲ調和セシメタルモノナリ。其ノ他「グノーシス」派「Gnosticismus」ハ基督教ト希臘哲學トノ混合ニヨリテ成リシモノニシテ、教父哲學ハ初期ノ教會ニ於ケル基督教ノ哲學ナリ。

紀元前二世紀ノ交ニ希臘領「バクトリア」Bactriaノ王彌蘭陀「Milinda」ガ那先比丘「Nagarena」ヲ請ジテ佛教ノ要義ヲ談ズ。其ノ對話當ヲ那先比丘經ト稱ス。  
耶蘇教計リデナク其ノ他爾後ノ術ノ如ク起リタリ。猶太教ヲ改メシモノガ耶蘇教ナリ。  
「イエス」ノ實際ノ人格ト犠牲トガ人ノ眼ヲ牽カシメタリ。又「イエス」ノ身ヲ殺セシガ如キ事

古神通モ事  
實ヲ中心ト

實ハ羅馬思想ト結ビ付クニ易カリキ。「イエス」ハ自分ノ感ジテ告ゲタルノミ、學者ニ非ズ、理窟ハアマリイハズ、タダ後ニハ教父ガ色色ノ理窟ヲ附加シタリ。其ノ獨斷ハ事實ヲ殺セシコトニ結ビ付キシガ故ニ他ノ宗教ヲ征服スルニハ有效ナリキ。

## 第二節 「ピタゴラス」及「プラトーン」ノ復興

### 目次

- 第一款 新「ピタゴラス」學派
- 第二款 「フクロン」
- 第三款 新「プラトーン」學派
  - 第一項 總說
  - 第二項 觀神ノ方法
  - 第三項 神ノ性質
  - 第四項 世界及ビ吾人ノ神ニ對スル關係

第五項 教義ノ性質

第一款 新「ピタゴラス」學派

太夏國「ピタゴラス」  
レキサンダ  
リノ一部ヲ  
其ノ文明ヲ  
移植セリ  
「ゼロイコ  
ス」  
ハ獨立國ト  
ナル

或ハ然ラン  
ト自然トノ  
關係明確ナ  
ラズ

極端ニ世間的ナリシ羅馬主義ニ對シ、東方宗教思潮ノ襲來ハ、先ヅ最モ神秘的傳説ニ富ミ、信仰ノ練習ト關聯シ、居タル哲學ヲ復興セシメタリ。「ピタゴラス」學派是也。此ノ學派ハ亞歷山太王以後モ尙盟社トシテ存續セシモノニシテ、希臘ニ存在セシ種種ノ迷信信仰ト結合シ、宗教的思想ノ興起ヲ助ケ、「ピタゴラス」ノ傳説ヲ作り、彼ノ名ニ假托シテ種種ノ文章ヲ流布セシメタリキ。「キケロ」 Cicero ノ友「ニギデ」ウ、ス、フ「ケル」 Nigidius Fulgurus ノ如キモ、學才アル最初ノ歸依者ニシテ、「キケロ」モ亦之ニ屬シタリト傳ヘラル。而シテ「アポロニウス」 Apollonius ガ羅馬帝國ヲ流浪シテ奇蹟ヲ行ヒタルハ、「ネロ」 Nero 帝ノ時代ナリ。

此ノ派ハ心靈ヲ有スル神ト、肉體又ハ物質トノ二元的對立ヲ認メ、「プラトーン」ノ「イデア」ト「ピタゴラス」學派ノ固有ノ數トヲ同一視シ、之ヲ以テ神ノ有シツツアル觀念トナシ、之ニ模シテ神ガ萬物ヲ作りタルモノトセリ。併シ人間ノ不完全

佛教止觀

ナルハ、此ノ物質ニ基因スルガ故ニ、禁欲ニヨリ、精神ヲ肉體ノ繫縛ヨリ脱セシメ本來ノ自由ヲ獲得セシメントセリ。又經驗及ビ科學ニ拘束セララルノ迷ナルヲ説キ、默シテ神ヲ念ジ、終ニ無念無想ノ域ニ入り、心靈ニ合一セシメントセリ。佛教ノ止觀參照、而シテ何レノ宗教ニモ重要ナルガ如ク、「ピタゴラス」ヲ以テ祖師ト崇メ、近クハ「アポロニウス」ヲ中興ノ祖ト尊ビタリ。

一體「プラトーン」ト「ピタゴラス」ト似テ居ルハ前述セル所ナルガ、殊ニ「プラトーン」ハ「ピタゴラス」ノ數論ヲ自分ノ畑ニ引入レタルモノノ如シ。數論ヲ措キテハ「イデア」ナシ。「イデア」ガ人間ニ關係セズシテ、外ニアルトイフハ、數學ノ原理ニツキテ特ニシカ思フ、人ハ代ルモ數學ノ原則ハ變ラヌ。人間ノ調和ハ必ず數字上ノ調和ヲ得テオル。精神モ調和トイフ時ハ結局スル所常ニ數ノ觀念ガ伴フモノナリ。

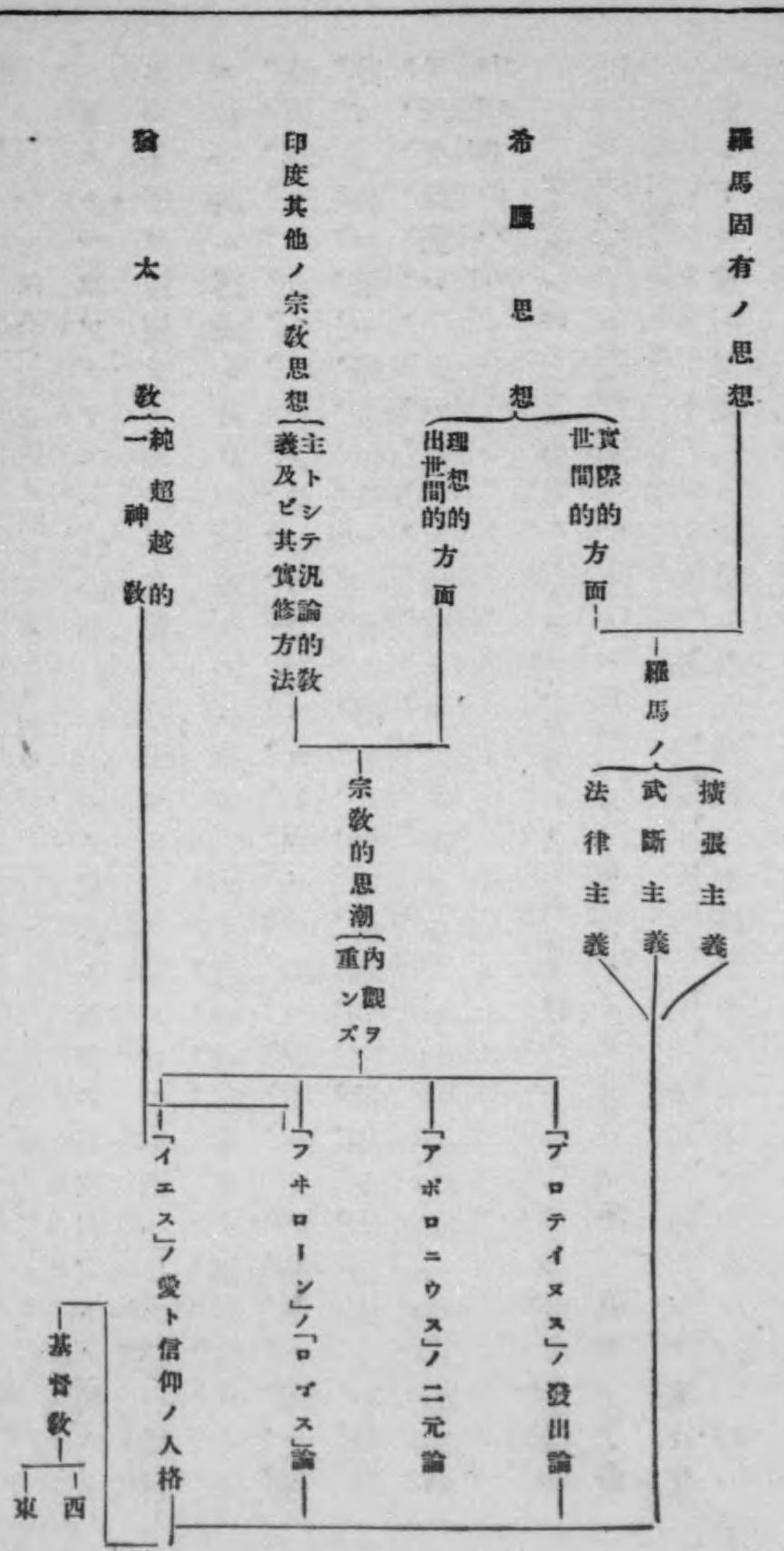
第二款 「フキローン」 紀元前二、三〇年頃生マレ紀元後第一世紀ノ前年ニ活働セル猶太人ナリ。

宗教的思想ノ興起ニ際シ、其ノ信奉セシ猶太教ト希臘羅馬ノ哲學殊ニ「プラトーン」及「ピタゴラス」ノ哲理「アリストテレス」ノ學說トヲ折衷シテ、特殊ノ宗教的哲

學ヲ唱導セシ者ヲ「アレクサンドリア」ノ「フキローン」(Philon)トナス。當時ハ多數ノ富裕ナル猶太人アリテ、其ノ間ニハ希臘哲學ニヨリテ猶太教ヲ折衷セシ「ロイン」ハ其ノ大勢ノ表現者ナリ。此ノ傾向ハ希臘哲學ニヨリ、羅馬固有ノ認定法ヲ説明シ發達セシメントシタル盡力ニ似タル所アリ。

「フキローン」ハ過度ニ認定的獨斷的ナル猶太教ノ聖典ヲ救ハムトシ、其ノ中ニハ餘リ過度ニ神ヲ物質化セシメタルヲ解シテ曰ク、「聖典ノ著者ハ神人合一ノ境ニ入り、之ニ根據シテ其ノ宗教心ヲ分析セシモノナルベシ。但シ卑近ナル人人ヲ相手トシ、是等ヲ導カムトセルガ爲ニ、思ハズ譬諭ヲ用キ、神ヲ人間化シタルモノナリ。サレバ此ノ通俗ニ失シタル著作ノ形式ニ拘泥スルコトナク、其ノ精神ヲ探リテ哲理的ニ之ヲ説カザルベカラズ。希臘哲學者ノ説ハ元此ノ聖典ヨリ得タルモノナリト。彼ハ即チ猶太教ノ信仰ニ希臘哲學ノ精神ヲ以テシテ舊譯聖書ヲ解釋セント試ミタル者ナリ。

第七十九圖 各邦ノ思潮錯綜ノ圖



「アレクサンドリア」ニハ當時多クノ猶太人居リテ、却ツテ自由思想ヲ有シ其ノ舊聖典ヲ解セリ。西歐人ハ猶太教ノ奴隷ト爲ルヲ好マザリシカドモ、其ノ大影響ヲ受ケタリ。

曩ニ「カルネアデイス」ハ「フキローン」ニ先神ノ觀念ト思惟ノ要求假定トノ間ニ存スル矛盾ヲ指摘シテ、神ノ存在論ヲ打破セリ。「フキローン」モ亦惟ヘラク神ハ絕對ニ統一の認識シ得ラルベキモノニ非ズ。神ハ統一的存在、其ノ絕對性、其ノ完全圓滿ナルコトハ、思惟竝ビニ言語ニヨリ知ラレ、又ハ説明セラレ得ベキ限リニ非ズ。故ニ唯一絕對恒久ナル神ト絶エズ變遷發達スル世界トノ關係モ亦知テ以テ解決シ了ラレ得ベキ性質ノモノニ非ズト。バ「絕對ハ思惟ニヨリ概念トザシテ察ハレ得ズ」。

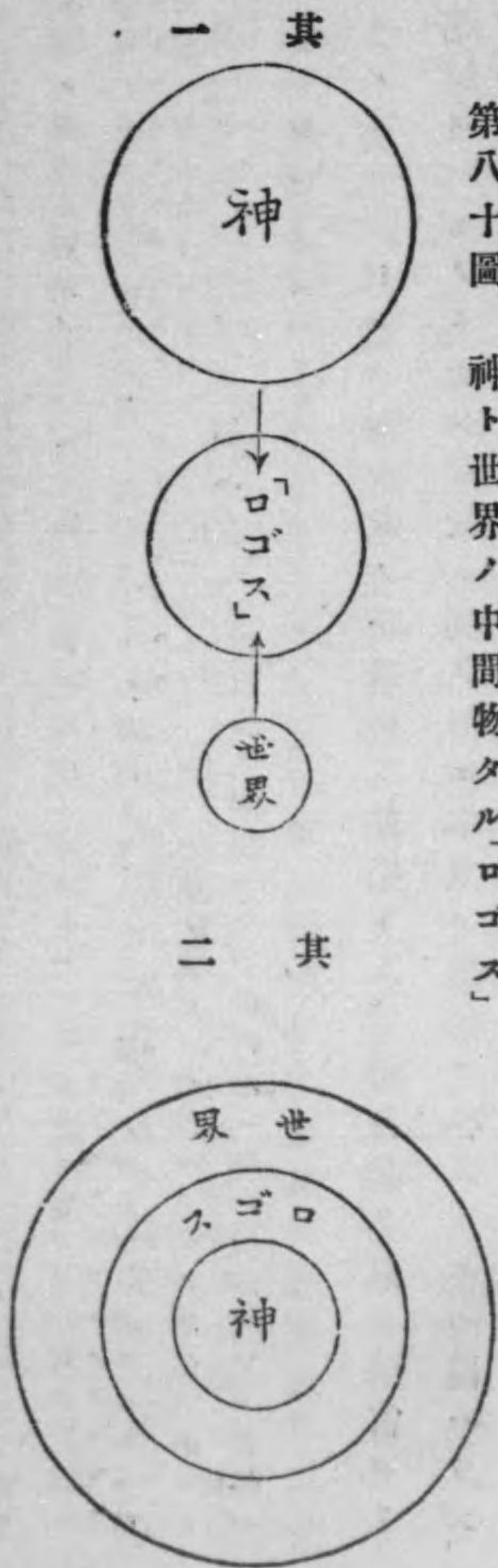
法律學ニ神ノ論ハ關係ナシト思フハ間違ナリ。本當ニ神ノ在ルモノナラバ法律萬能ハ宜シカラズ。神ガ眞ニ無キモノナラバ信仰ハ全ク捨ツベシ。神ノ信仰ヲ味ハズシテ一國ニ荒蕪無稽ノ事ト思フハ間違ナリ。

然レドモ彼ハ又惟ヘラク神ハ吾人萬物ト無關係ナリトイフベカラズ。神ハ世界ノ創設者ニシテ其ノ淵源ナリ。サレバ此ノ絕對者ト世界トノ連絡ヲ説クガ爲ニ媒介者トシテ「ロゴス」ノ概念ヲ持チ來レリ。此ノ「ロゴス」ハ「ヘーラクライ

「カルネアデイス」

トス」ストア等ノ概念ニ「プラトーン」ノ「イデア」ヲ加味セシモノニシテ、萬般ノ事物ノ根源タル精力ナリ。且理想觀念ナリ。此ノ世界ノ模範トナルモノ、即チ神ガ世界創造ニツキテ有スル智慧ナリ。「ロゴス」ハ則チ總ベテノ超感性ノ力ヲ藏セ、理性ノ大結晶ニシテ、神トモ世界トモ關係ヲ生ジ得ルモノナリ。神ハ此ノ「ロゴス」ヲ其ノ道具トナシ、其ノ使者トシテ、其ノ道具、其ノ知識ヲ世界ニ顯現スルモノナリ。斯ノ如ク「ロゴス」ハ神ノ媒介者トシテ、世界ノ根元タル理法勢力及ビ理想觀念ナリ、宇宙ハ「ロゴス」ノ衣服ナリト。

第八十圖 神ト世界ノ中間物タル「ロゴス」



「フキロイン」ノ考デハ、神ハ絕對圓滿ナリトカ、云ノ性質アリトイフ以上ハ、有限ノモノトナル、然シ神ハ斯様ナ有限ノモノニハ非ズ。故ニ人間ノ考ノ上ニテハ分ラヌ管ナリ。新ク思惟ヲ超越セルモノナレドモ、世界ノ淵源デアリ又原因ナリトセリ。關係ハアレドモ考フルコト能ハズ故ニ媒介者トシテ「ロゴス」ヲ持チ來レリ。「ロゴス」丈ハ人間ノ智慧ニテ分ル、理性ヲ解スレバ當テハマルモノナリ。智慧ニテ考ヘ得、思惟ノ對象トナシ得、同時ニ神ノ智慧デアリ、世界モ「ロゴス」ト交通シ得ベシトセリ。

換言スレバ「フキロイン」ハ猶太教ノ超越神ヲ前提トス。神自身ヲ以テ宇宙ヨリ絕對ニ超越スルモノトナスガ故ニ其ノ間ニ本末ノ關係ヲ存スルニモ關ハラズ。之ヲ認識スルコトモ此ノ神ト世界トノ關係ヲ説明スルコトモ能ハザルモノトナセリ。萬物ト神トノ間ニ表現歸一ノ關係ヲ認メズ故ニ又獨立セル神ハ獨立セル萬物ノ淵源ナレドモ直チニ萬物ト發現關係ニ立ツモノニ非ズ。茲ニ於テカ「ロゴス」ヲ取り來リテ之ヲ神ノ「イデア」神ノ智慧神ノ言葉トナシ、此ノ「ロゴス」ハ後基督教ノ神ノ子ノ信仰ニヨリ之ト萬物トノ關係ヲ認メシメ「ロゴス」ノ認識シ得ベキコトヲ統括セラレタリ。之ト萬物トノ關係ヲ認メシメ「ロゴス」ノ認識シ得ベキコトヲ説ケルモノナリ。「ロゴス」ハ認識シ得ベケレドモ神ハ認識ヲ以テ之ヲ解シ之ヲ論ジ得ベキ限リニ非ズトセシハ學問上ハ兎ニ角學問ヨリ獨立シテ侵サレザル

宗教心ノ要求ヲ充タサムトスルニハ極メテ好都合ニシテ當時ノ哲學萬能ヨリ出デ信仰ノ獨立ヲ完成スル爲ノ出發點トシテハ是非共必要ナル順序ナリシナリ。此ノ宗教獨立ノ方針ハ同ジク猶太教ヨリ出デタル基督教ニヨリ大穴セラレ、一切ノ認定法一切ノ哲學ヲシテ反ツテ其ノ宗教的獨斷ニ屈服セシムルニ至リタルモノナリ。

神自身ハ考ヘラレヌ考ヘ得ルハ「ロゴス」ノ段階ナリトセシメ「フキロイン」ナリニ非ス。佛教ニモ種種ノ段階アリ最深ノ所ハ何トイヘヌ所ノ眞如ナリ。イヒ得ル所ハ度ノ低キモノナリ、最高ノ意識ハ何トモイヘヌ。「フキロイン」ノ説ハ超越的佛教ハ歸一的ナルノ差アルノミ。此ノ眞空ハ法律ニ於テモ亦必要ナリ。

宗教上ノ要求ヲ根據トセル以上ノ教義ト共ニ「フキロイン」ハ同ジク宗教心ニ根據シテ神對物質ノ二元論ヲ主張セリ。即チ彼ハ世界ガ劣惡及ビ不完全ヲ以テ滿ツル事實ヲ認メ、此ノ原因ヲ以テ「ロゴス」竝ビニ神ト對立セル物質ニ歸セシメタリ。「ロゴス」ガ物質ニ對シテ働ク結果トシテ複雑ナル萬物ヲ生ゼシメ、此ノ世界ヲ現出セシムルガ故ニ世界ハ尙劣惡ヲ以テ滿ツ。故ニ現世ノ不完全ヲ脱シテ完全ニ歸一セムガ爲ニハ禁欲ヲ行ヒ物質ノ汚染ヲ遠離シ、瑜伽ヲ修シテ心身

佛教無明論  
惡魔ノ信仰

ヲ忘脱セザルベカラズ。之ヲ「エクスタシー」(Ecstasy)トイフ。世間ニ於  
テ德行ヲ行フノ謂ニ非ズ特殊ノ形式ニヨリ、自我ノ心識ヲ擴張シ、無我トナリテ  
神ニ接近シ之ニ相應セムトスルモノナリ。(瑜伽派及ビ瑜伽ノ行ノ哲理的根據  
竝ビニ實行的形式參照) 「瑜伽ハ相應ノ義、エクスタシー」  
ハ「取除ク義、即チ忘脱ノ義ナリ。」

瑜伽ハ紀元前二世紀頃印度婆羅門教ニ於テ一派トシテ興レリ。然シ尙古クヨリ在リ禪定  
モ其ノ一ナリ。人間ノ心識ヲ平靜不動ニ置キ自由自在ヲ得セシムル爲ナリ、即チ神ニ合一ス  
ル實修ナリ。

### 第三款 新「プラトーン」學派

#### 第一項 總說

宗教時代ノ前驅ハ新「ピタゴラス」學派ニシテ、其ノ哲學ノ前驅ハ「フクロン」ナリ。  
其ノ時代ノ最モ有力ナル學派トシテ基督教ト相對シ、ユスチニアヌス「Justinianus」  
帝ガ權力ヲ振フテ五二九年ニ「アテローネ」ノ學校ヲ解散セシメシマテ、著シカリシ  
モノハ新「プラトーン」學派ナリ。當時羅馬人モ希臘人モ、共ニ公ノ生活ニ於ケル

智アル者ハ  
支那人ノ如  
ク修辭等ヲ  
事トセリ

自由ヲ喪失シ、認定生活ニ於テモ相互ニ大普遍我ニ歸一シテ行動スルコト能ハ  
ズ。認定生活ヲ以テ其ノ特色トセル羅馬人ズラ、認定上此ノ歸一ノ根據ヲ缺キ、  
徒ラニ私ノ生活ニ於ケル區區ノ私利ヲ爭ヒタリ。萬民ヲ統一スベキモノハ、僅  
カニ萬民法「*Jus gentium*」アルノミニシテ「ストア」ノ學說モ亦萬國ノ思想ヲ統一シ、  
其ノ心ノ根柢ヲ動カスニ足ラズ。此ノ時ニ方リ希臘思想ノ精華タル「プラト  
ン」ノ哲學ト、東方ノ宗教心トヲ調和セシメテ、基督教ノ如ク羅馬人希臘人ヲ始メ、  
廣ク人心ヲ收攬セムトセシモノハ新「プラトーン」學派ナリ。此ノ學派ノ祖ハ「ア  
レキサンドリオン」「アムモニウス・サクカス」「*Ammونیus Sakkas*」(Saccus) 232 A.D. ニシテ之  
ヲ大成セシ者ハ其ノ門下ノ「プロティヌス」「Plotinus (Plotin) 204/5 - 270」ナリ。但シ此ノ運動  
セラレタルモノニシテ、此ノ以前ニ「ケローネア」ノ「アルタルコス」「Pitarchos 48-125」  
及ビ「ケルスス」「Celsus」(第二世紀後年)アリ。「ケルスス」ハ大ニ基督教ニ對抗セリ。  
「プロティヌス」ハ「アリストテレース」以後ニ於ケル最モ偉大ナル學者ニシテ、新「プラト  
ン」學派ハ希臘哲學最後ノ光明ナリ。 第三世紀ノ中葉「プロティヌス」ハ  
羅馬ニ學校ヲ興シテ教授セリ。

此ノ頃政治生活ハ腰拔ケニナリ、法律ハタダ私法ノミニテ、公法ハ全ク力ナシ。希臘ノ學問  
ノ入りシ後「ケコロ」ノ頃ハ盛ンナリシガ、帝政ノ頃ハ廢レタリ。「ストア」ハ唯昔ノ形ニ於テ行ハ

第一門 第五章 宗教時代 第二節 「ピタゴラス」及「プラトーン」の復興 新「プラトーン」學派 四九四  
レシガ、總ベテヲ統一スルホド大ナルモノニハ非ザリキ、當時羅馬人ハ英文ヲ書キ演説者多カリシモ、徒ラニ文辭ノ末ヲ弄スルノミニシテ支那唐宋ノ時代ニ似タリ。

### 第二項 觀神ノ方法

觀念佛  
萬法唯識

神ノ如何ナルモノナルカラ觀念セントセバ、自己ノ内部ヲ觀察スベシ。觀佛即チ觀心ノ意義ニ同ジ。

蓋シ心ナク意識ナシトセバ主體モナク客體モナク、又其ノ關係モナク神モ亦之ヲ認ムルコト能ハザルベシ。心アルガ故ニ意識在リ、意識在ルガ故ニ客體タル對象ヲ意識シ、之ト關係ヲ生ジツツ在ル主體ヲ意識シ得ルモノナリ。サレバ主體モ亦心ノ外ニ在ラズ、客體モ亦心ノ外ニ在ラズ、此ノ關係モ亦心ノ外ニ在ラズ。心ガ心ヲ分別スルガ故ニ茲ニ初メテ主客等ノ意識ヲ生ズルノミ。カスベカラザル眞理ナリ、近世ノ哲學モ亦此ノ上ニ出ヅルコト能ハズ。此ノ點ハ佛敎ノ萬法唯識ノ理ヲ參照スベシ。

心ヲ以テ心ヲ觀ズレバ、必ズ其中ニ主體ト客體トノ關聯スルコトヲ見出し得ベシ。然レドモ一心ニツキ主觀客觀ノ意識ノ對立ヲ認ムルコトハ未ダ眞

ノ深キ心ニ非ズ。自己ノ心ヲ以テ自己ヲ觀察スルニ方リテモ、尙此ノ對立ノ位置ヲ脱セズ。故ニ此ノ區別ヲ廢シ、分別ヲ捨テ、主觀客觀ヲ超エタル主觀ノ域ニ到達セザルベカラズ。再言スレバ一切ノ妄念思惟ヲ止メ、之ヲ止メントスル念ヲモ除キ去リ、之ヲ實習シテ其ノ功ヲ積ムトキハ、自我ニシテ自我ニ非ズ、自我ニ非ズシテ外物ニ非ズ。神人合一シ自我即チ神ニ外ナラズ。サレバ神ハ實修ノ功ニヨリ直觀シ得ラルレドモ、又言語ヲ以テ言ヒ現ハシ得ズ。思惟ニヨリテ分析シ盡クスコト能ハズ。此ノ觀神忘我沒我ノ方法ヲ「エックスターゼ」(Transcendentalism)トナス。

主觀外物關係等ハ皆根本意識ニシテ、是等ガ外ニ存スルトイフハ獨斷ナリ、學問上缺點アリ。由來絕對的實在ノ解カレタルタメシナシ。觀ル自分ニ對シテ單純ニ客觀的ニ存在スルガ如キ、神ハ在ルモノニ非ズ。物ノ存在ハ吾人ノ意識中ニ畫カレ、自己ノ意識シタル畫ガ意識中ニ細工セラレ、意識中ニ統括サレテ何何ト結論セラルルコトハ確カナリ。意識トシテ對象トナリ、意識トシテ相互ノ關係ヲ生ズルコトヲ忘ルベカラズ。神ハ見ユルモノ、又主觀ノ對象トナリ、ミナルモノニテハ神ニ非ズ、小智慧ニテ神ノ有無ヲイフハ間違ナリ。  
「プロテニス」ハ西洋的ニ見レバ創見者ナリ。但シ元來創見トイフガ如キコトナシ。只人ハ本當ノ事ガ分レバ創見トイフノミ。神ハ主觀客觀ノ位置ヲ脱シ、二者ヲ統括セシ意識ノミ。



只考ヘテ居ル計リニテハイカヌ「エックスマーゼ」ンテ觀ヨトイフナリ。自己内部ヲ觀察セヨ、主客ノナキ不靜自由ノ所ニ行ケ、之レガ神人合一ニ接近シ來レル狀態ナリトイフナリ。自己ノ内部ノ普通のノ真心ヲ取出シタルモノヲ外部ニ置キ、超越ノ神ト見ル、偶然ノ自己ハ時時亂ルル故普通のノ真心ヲ忘レヌ様ニ外部ニ置キ、之ニヨリテ自己ヲ擴張セントス。是ニ於テカ超越神教ナドガ起ルニ至ル。

### 第三項 神ノ性質

觀心ニヨリ直觀セラレ得ル神ハ如何ナル性質ヲ有スルモノナルカ、是レ新「プラトーン」派ノ信仰ノ中心點ヲ成スベキモノニシテ、學說ノ地位モ亦是ニヨリテ決定セラルベシ。

#### 第一 神ノ性質

神ハ思惟ニヨリ知ラレ得ベキモノニ非ズ。神ハ吾人ノ範疇ノ效力以外ニ超然タリ。唯、渾身ノ精氣ヲ擴張シテ、其ノ方法ハ、偶然ヲ脱却シ、實地ニ神ニ歸一シ得ベキノミ。神ハ在來唱ヘラレタルガ如ク、理性理法即チ「ヌイス」ンゴニモ「ロヒヌ」Logosニモ非ズ、又「イデア」ニモ非ズ。是等ノモノハ皆其ノ對象又ハ事實

ト對立シツツアリテ、尙有限ナル性質ヲ保有スルモノナレバナリ。神ハ「ヌイス」即チ理性及ビ其ノ對象「ノエータ」Noëta (νοητα)ノ對立ニ超越セル太原ト、プロト「ノ」το πρῶτον ナリ。

此ノ不靜ナリ  
眞ノ不靜ナリ  
人トシテ上  
總キノ「ビ  
リケシノ「ビ  
ザリケシノ「ビ  
ルコト及バ  
ア

絶百非

神ハ思惟ノ主體ト其ノ客體トノ何レニモ非ザルノミナラズ、總ベテノ有限ナル矛盾ニ超越セリ。故ニ神ハ所謂智慧トカ意思トカ稱スベキモノノ主體ニハ非ズシテ、吾人ガ神ト對立シテ知識ヲ交換シ其ノ教ヲ受クルコトモ能ハザレバ、又之ト活動關係ヲ生ズルコト能ハズ。神ハ思想トモ對象トモ物質トモ精神トモイヒ得ズ。如何ナル特定ノ性質ヲモ有セザルガ故ニ積極的ニ之ヲ説明シ得ベキ由ナク、唯、僅カニ消極的ニ特定ノ性質無キコトヲ考ヘ得ルニ止マル。神ニ積極的ニ或ル性質ヲ附スルハ、神ヲ有限視シ其ノ具足一切ノ圓滿性ヲ悟リ得ザル者ナリ。然レドモ神ヲ以テ意識ナキ心ナキ死物ト爲スベカラズ。神ハ萬般ノ意識ヲ包容スルガ爲ニ、却ツテ無意識ノ状態ニ在ルモノナリ。意識ナキニ非ズ、過度ノ意識ヲ有スルモノナリ。意識以下ニ在ルモノニ非ズ、意識ヲ超越シテ、其ノ上ニ存スルモノナリ。神

ガ特定ノ能力ヲ有セザルコトモ亦無能ナルノミニ非ズシテ、餘リニ萬能ナルガ故ナリ。

人ガ靜ニ立ツテ居ルノハ、何ノ働キモシテ居ラヌト思フテハナラヌ。總テノ筋力ガ働キ居ル上ニテ平均シテ居ルノデ、從ツテ靜カニ立ツテ居ル時ハ能力ナキニ非ズ、何ンデモ出來ル。只特定ノ能力ナキノミ。

新「ピタゴラス」學派ハ印度ノ哲理及ビ實修方法ヲ採レリ。新「プラトーン」派モ然リ故ニ相似タリ。「カルネアデウス」ハ智慧ヨリ、行キシガ故ニ神ハ無イトイヒタリ。主觀ノ對象タル如キ客觀的ノ神ハ無シ。新「プラトーン」ハマダ絕對的ノ超越神ニハ非ズ、耶穌ノ神ハ絕對的ノ超越神ヲ基ニシテ之ヲ內在的思想ニヨリ緩和シタルモノナリ。

### 第二 真空論

「プロティヌス」ノ此ノ感ジハ、則チ眞ノ真空性ヲ意識シタルモノニ外ナラズ。「ヘーラクライトス」以後或ハ消極的或ハ積極的ノ形ニ於テ感ゼラレツツアリシ真空論ハ、「プロティヌス」ニ至リテ完成セラレタルモノトイフベシ。而シテ此ノ真空性ト共ニ、神ガ意識ヲ有セザルコトヲ否定シ、意識ノ上ニ超エタル存在ヲナスコトヲ認メシハ、第四五世紀ノ頃印度ニ於テ起リタル唯識論ノ精神ト符合スルモノトイフベシ。佛敎唯識論ハ佛敎眞空論ト相持ツモノニ非ズ。シ「ヘーラクライトス」テ、通常考フルガ如ク矛盾セルモノニ非ズ。

佛敎唯識論

ノ論ニモ多少之ニ類スルニ方面ヲ包藏スルコトニツキテハ、「ヘーラクライトス」中第二項參照)

佛敎支那ニ入り、法相宗興リ、唯識論ヲ旗標トシテ空ニ重キヲ置ク所ノ三論宗ト對抗セリ。夫故ニ龍樹ガ空ノミヲ唱ヘタルニ對シ、世親無着ガ唯識ノミヲ唱ヘテ對抗セリト稱シ、兩者ハ根本ヨリ異ナレルモノノ如ク論ゼラルルモ、是レ誤ニテ其ノ精神ニ於テ異ナルナシ。又眞空論ハ佛敎計リニ非ズ。西洋ニ於テモ、「ヘーラクライトス」ヲ初トシ著シキモノアリ。

### 第三 汎神論

「プロティヌス」ハ神ヲ以テ全然吾人ノ世界ニ超越スルモノトスル考ヲモ否定シ、又同時ニ神ガ全然世界ニ内在ストナス考ヲモ否定セリ。惜ムベシ是等ノ意識ハ尙十分ニ分析セラルルコトナク、當時「グノーシス」Gnostics 派ニ行ハレタル發出論 Emanatismus ノ形ニヨリテ説明セラレタリ。即チ猶特殊ノ汎神論ナリ。

Emanatismus ハ太陽ハ夫自身存シ、其ノ光ハ太陽ト別ノモノニ非ザレドモ、又太陽ニ非ズ。太陽自身ハ明ルサヲ超ニ其ノ光ハ無際ニ及ブ。斯ノ如ク神ハ太陽ニ似テ宇宙ノ中心トナリ。萬物ハ其ノ神ノ光ニ外ナラズ。唯其ノ光ノ中ニ比較的ニ明ルキ所ト暗キ所トアルノミトイフニ在リ。

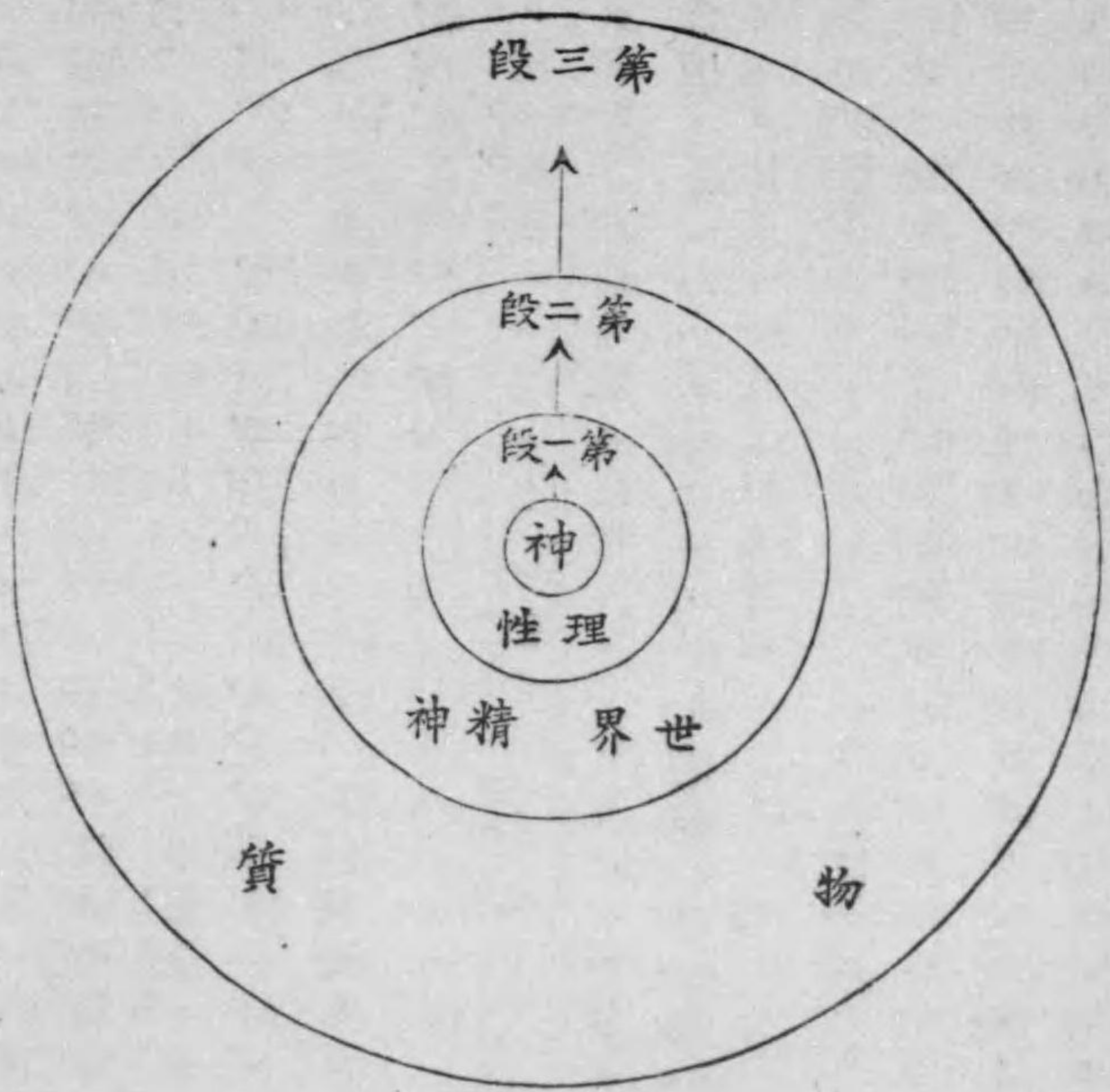
此ノ汎神論ハ希臘ニ於テハ、「ヘーラクライトス」ノ説ト並ビテ最モ發達セルモ

「プロティヌス」ハ神ヲ以テ全然吾人ノ世界ニ超越スルモノトスル考ヲモ否定シ、又同時ニ神ガ全然世界ニ内在ストナス考ヲモ否定セリ。惜ムベシ是等ノ意識ハ尙十分ニ分析セラルルコトナク、當時「グノーシス」Gnostics 派ニ行ハレタル發出論 Emanatismus ノ形ニヨリテ説明セラレタリ。即チ猶特殊ノ汎神論ナリ。



階段三ノ出發 圖一十八第

ヨセ照參ヲ所ル異トトコルナ的容包括統ノ圖九第下以圖六第



ノナシ。故ニ能ク  
會通スルコトヲ得  
其ノ形體モ皆此ノ  
精神ノ現ハレツツ  
アルモノニ外ナラ  
ズ。此ノ點ハ即チ  
「プラトーン」ノ汎心  
論ヲ大成シタルモ  
ノナリ。(「プラト  
ーン」ノ自然論參照)  
更ニ降りテ發生  
スル第三段階ニ至  
レバ神明ガ愈薄ラ  
ギ暗クナリ終ルト

第一門 第五章 宗教時代 第二節 「ピタゴラス」及ビ「プラトーン」ノ復興 新「プラトーン」學派

唯ヨリノ點數原火  
火ヲ點シズル  
ニ等シク各  
自ハ神ノ光  
明ヲ發出ス  
シテ同ツ光  
ヲ放チ皆本  
來ノ心ヲ發  
揮スル所以  
トアリ

コロニシテ物質ヲ現ハス。物質ハ即チ非有ナリ。此ノ非有ガ材料トナリ、神明  
ガ世界ヲ形成シ、身體ナル衣服ヲ着ケテ精神ガ存在ス。是レ精神ノ不完全ナル所  
以世界ノ到ラザル所以ナリ。故ニ神ト物質ト「プロトノニス」ニ至リテ一元性ニ包括セ  
ラルレリ。但シ此ノ物質ハ理想ノ顯現ヲ妨ゲツツアレドモ、尙理想性法ト  
相待チテ世界ノ萬物ヲ生ゼシメツツアルガ故ニ尙是等ノモノヲ通ジテ「ロゴス」  
ノ調和秩序竝ビ「イデア」善美ノ光明ヲ窺ヒ得セシムルモノナリ。

此ノ神、理想性、精神並ビニ物質ノ三段階ハ、佛教ノ眞如、阿頼耶識、前七識及ビ前七識ノ對象ノ區  
別ニ酷似シ、又識トシテハ、清淨識、阿頼耶識、末那識及ビ前六識ニ似タリ。而シテ新「プラトーン」  
學派ハ凝然不動ノ眞如ナリ。是レ其ノ發出論ヲ説ク所以ナリ。  
宗教トシテハ善イガ哲理トシテハ茫乎トシテ満足スルコト能ハズ。宗教的ノ要求ヲ根柢  
トシ「プラトーン」ノ説ヲ採リテ形ヲ替ヘシモノナリ。

第二 還滅門

神自身ハ之ヲ知り得ベカラス。唯其ノ何タルカハ「ヌース」ヲ通シテ之ヲ窺ヒ  
得ベキノミニシテ「ヌース」ノ光輝アルハ神ノ最モ近キ發出ナルニ由ル。物質ハ  
世界ノ不完全ヲ致スモノナリ、然モ自然界及ビ吾人ノ善美ナルハ神ヨリ直接ニ

第一門 第五章 宗教時代 第二節 「ピタゴラス」及ビ「プラトーン」ノ復興 新「プラトーン」學派 五〇三

發出セシ「ヌース」ガ其ノ中ニ輝キツツアルガ故ナリ。サレバ吾人ハ益々此ノ善美ヲ發揚シ、ソノ不完全ヲ脱却セザルベカラズ。吾人ハ精神ヲ擴張シテ物質ヲ去リ理性ニ接近シ、自ラ自己ノ本性ヲ直觀スル終ニ神自身ニ還滅セザルベカラズ。「プラトーン」ノ理想實現ト對照ス。其ノ方法ハ神ヲ思惟スルニ在ラズ、エクスタシ、<sup>●</sup>「Ecstase」<sup>●</sup>心身忘<sup>●</sup>ノ實修ニ在リ。理論及ビ知識的ノ研究ニヨリテ神ヲ見得ベカラズ、心身ヲ忘脱シ、無我ト爲リテ初メテ其ノ眞味ヲ實驗シ得ベキノミ。知ル能ハズ言フ能ハズ。知ルベク語ルベキハ尙神ニ非ザルナリ。更ニ再言スレバ、先ヅ最モ不完全ナル物質ヲ捨テテ精神ニ向ヒ、不完全ナル精神ヲ捨テテ理性ニ還リ、理性ヲ捨テテ神ニ還滅スルコトヲ期スルモノニシテ。此ノ點ハ「プラトーン」ニ存在セシ現世ヲ通シテナス理想實現ノ考ヲ消極的ニ實行セントスルモノナリ。「プラトーン」ノ厭世的方面「プラトーン」ノ「ポリタイア」Politiaニ於ケル理想論ノ終リ參照ヲ著シク表面ニ高メタルモノナリ。(禪宗ノ人境俱奪ナリ、又「ルイテル」Lutherノ悟參照)

砂糖ノ味モ同様にナリ

「プラトーン」ハ世界ニ「イデア」ヲ實現セントスル者ナレバ、其ハ「イデア」論計リニテハ功能アル

ニ非ズ。根據ハ「イデア」論ナレドモ國家論完成ハ「イデア」論ナリ。故ニ現實ニ現ハサントスルガ目的ナリ。此ノ點ガ重ケレドモ「イデア」ヲ超越シテ見ル故非有「イデア」ニ合セシメントイフノ精神ノ存セルコトハ既述ノ如シ。此ノ宗教的厭世的ノ思想ヲ表面ニ出シテ、國家論ヲ息メ、政治論ヲ去リ、唯「イデア」論ヲ主トシタルガ「プロテイマス」ナリ。サリトテ「プラトーン」ノ理想ヲ高メタル課ニモ非ズ。

流轉門ノ方ハメヅラシキ言ヒマワシナルガ、第二門ノ方ガ價アルモノナリ。新「プラトーン」ノ學理的ノ根據ハ、發出論 Emissivus タイフニ在ルガ、精神ハ即チ還滅門ニ在リ。宗教的ノ實修ガ主ナリ。「プラトーン」ニテイヘバ、「イデア」ヲ説ケドモ國家論ノ爲ニ「イデア」ヲ築キタルガ如ク、還滅門ノコトヲイハンガ爲ニ、流轉門ヲ築ケルモノナリ。此ノ出世間的方面ニ執着スル缺點ハ兎ニ角トシテ、新「プラトーン」學徒ノ説ハ決シテ間違ニ非ズ。如何ナル宗教モ哲學モ之ヲ脱スル能ハズ。「ルイテル」ガ各自ガ自ラ神ヲ見ヨト言ヘルニ異ナラズ。禪ノ見性成佛モ、本來ノ神ヲ見ルノミ。吾人ノ本性タル神佛ヲ見ヨウ、本音ヲ發揮シヨウトイフガ見性成佛ナリ。心身忘脱ハ臨濟四料揀中ノ人境俱奪ニ當ル。

### 第五項 教義ノ性質

之ヲ要スルニ、新「プラトーン」學派ノ哲理ハ、一ニ宗教上ニ應用セラレ、法律、政治、生活トハ沒交渉ナリ。是レ「プラトーン」ヨリ出デ大ニ「プラトーン」ト異ナルノ

「プラトーン」ト異ナル要點

禪宗 人境俱奪



磔刑ニ處セラレタル事實ガ大切ナリ。理窟ハ、動カシ得レドモ、事實ハ、動カスコト能ハズ。釋迦ガ王位ヲ棄テ、權カヲ以テ人ヲ救フコトハ不可ナリトシテ、信仰ヲ以テ人ヲ救ヒシトイフ事實ハ動カスコト能ハズ。

附説 「プロテュヌス」ノ後ニハ、其ノ弟子「ボルフリウス」Porphyrius 年頃生ル。及ビ羅馬ノ新「プラトーン」派アリ、益、禁欲的、出世的、ノ方面ニ向ヒ、肉食帶妻觀劇等ヲモ禁ゼリ。又「ヤムブリッヒ」Jamblich 年頃死ス。年及ビ彼ガ始メタル「シリヤ」Syriaノ新「プラトーン」學派アリ。此ノ「シリヤ」派ハ東方多神教等ヲ採用シ、一般人民ヲ目的トシテ通俗的教義ヲ立テタルモノナリ。「ユリアヌス」Julianus等モ此ノ派ヨリ出デタリ。又「プロクルス」Proklus 年頃生ル。及ビ其ノ「アテーネ」ノ新「プラトーン」學派アリ。「アテーネ」派ハ再ビ希臘哲學ノ思想ニヨリ教義ヲ組織セントセシモノナレドモ、尙盛ンニ祈禱呪咀等ヲ行ヘリ。

### 第三節 基督教ノ確立

#### 目次

#### 第一款 基督教ノ興起

##### 第一項 猶太教

###### 第一目 總説

###### 第二目 猶太教ノ神

###### 第三目 猶太教ノ律法

###### 第四目 猶太教ノ神ノ國

##### 第二項 「イエス」ノ改革

###### 第一目 總説

###### 第二目 「イエス」ノ神

###### 第三目 「イエス」ノ律法ニ對スル地位

###### 第四目 「イエス」ノ神ノ國

#### 第二款 基督教ノ特質

#### 第三款 教理ノ結成並ビニ發達

##### 第一項 總説

第二項 基督教ノ結成

第三項 基督教ノ發達

第一目 概要

第二目 「アウグスティヌス」ノ說

第一支 哲學說

第二支 教會並ビニ國家論(神國論)

第一款 基督教ノ興起

自性アルヲ以テ顯著ナル基督教ハ元猶太教ヨリ出デタルモノニシテ其ノ根本ニ於テ有スル長短特質ハ猶太教ニヨリテ定メラレタリ。故ニ基督教ノ哲理及ビ其ノ法學ニ於ケル地位ヲ明ラカニセンニハ、必ず先ヅ猶太教ノ如何ヲ反省セザルベカラズ。

第一項 猶太教

第一目 總說

第一 宗教ニ自性アリ得ルコト。

凡ソ宗教ハ信仰ヲ根據トシテ信仰ヲ鍛鍊スルモノナレドモ、信仰ヲ根據トシテ非シ、又ハ認定ヲ發揚スルモノニ非ズ。學問ト等シク吾人ノ意識ヲ超脱シテ外部ニ存スルモノニ非ズ。生活經驗ニ基ヅキテ有スル吾人内部ノ意識即チ過去ノ事實ノ記憶現在ノ擴張セラタル意識及ビ未來ニ對スル想像理想及ビ希望ヲ普遍意識ニ高メ之ヲ獨立ノモノトシテ主觀的ノ存在ヲナス所ノ吾人ニ對立セシメタルモノナリ。故ニ神トイヒ佛トイフモ、決シテ吾人ノ意識ヲ離レテ絕對的ニ外部ニ存スルモノニ非ズ。タダ吾人ノ根本意識タルノミ。天國トイヒ佛國トイフモ、吾人ノ生活ノ一部又ハ全部ノ普遍的又ハ絕對的擴張ニヨリテ存スル意識ニシテ、吾人ノ意識ヲ去ツテ以外ニ存スルモノニ非ズ。宗教夫自身トシテハ、如何ニ之ヲ教ユルトモ學問上ハ決シテ以上ノ真理ヲ否定スルコト能ハズ。(「クセノファネー」 Xenophanes ノ神ノ論ノ批評參照)



故ニ究極ノ精神ニ於テモハ歸一スルモテ各所ニ達セザル各宗ニ於テハ其ノ長短ヲ有セザルモテ特殊ノ長短ヲ有セザルモテ各所ニ達セザル各宗ニ於テハ其ノ長短ヲ有セザルモテ特殊ノ長短ヲ有セザル

第一門 第五章 宗教時代 第三節 基督教ノ確立 基督教ノ興起 五二二  
是故ニ諸種ノ宗教ハ之ヲ發生發達セシメタル人人ノ生活經驗及ビ之ト共ニ存スル意識ノ如何ニヨリテ其ノ特質ヲ異ニス。固ヨリ根本ニ於テハ有ラユル人間ノ一切ノ生活經驗及ビ意識ガ歸一スルヲ要シ又歸一スルガ如ク各般ノ宗教モ亦其ノ根本ノ信念ヲ一ニシ得又一ニスルモノナレドモ。各人ノ現在差當リ有シ又ハ有シ得ル生活經驗及ビ意識ガ種種雜多ニシテ多數ノ人人ノ中ニ於テ一人トテモ全ク相同ジキ者有リ得ザルト均シク之ニ相應スル宗教ニ至リテモ之ヲ形式ニ現ハシ之ヲ敷衍スルコトニツキテハ一ツトシテ全ク相同ジキモノアルコトナシ。是レ即チ宇宙ノ真空性ヲ説ク所以ニシテ各人ノ相歸一スルコトハ愈々其ノ權限範圍ヲ有シ異ナレル方面ヲ分擔スルコトヲ要スルモノナレバナリ。特色ヲ備ヘ特殊ノ形式ヲ有スル宗教ノ不完全ナルニ非ズ。反ツテ益根本的ノ信仰唯一ノ活キタル意識ヲ表現シツツアルコトヲ證明スルモノナリ。斯ノ如キハ實ニ折衷學説ガ反ツテ平凡ナル學説ニ劣ル所以ニシテ又折衷の宗教ガ反ツテ一方的ノ特色アリ自性アル宗教ニ及バザル所以ナリ。知識ヲ主トスル學問ヨリモ信念ヲ養ハントスル宗教ニツキテ殊ニ然リトス。サレバトテ

教ノ一ニシテ各般ノ精神ニ於テハ其ノ長短ヲ有セザルモテ特殊ノ長短ヲ有セザルモテ各所ニ達セザル各宗ニ於テハ其ノ長短ヲ有セザルモテ特殊ノ長短ヲ有セザル

一方ノ特色及ビ自性ニ停滯シテ之ヲ擴張スルコトヲ欲セザルモノハ即チ其ノ者ノ窒息ナリ自殺ナルガ故ニ他ノ生活經驗他ノ意識他ノ形式ヲ包含セザルベカラズ。他ノ要素ヲ統括セムトスレバ兎角折衷的性質ヲ帶ブル患アリ。此ノ折衷ニ打勝チ之ヲ轉ジ己ノ形式ヲ透シ之ヲ擴張シ最後ノ活精神ニヨリテ有スル方面ヲ融合統一セムトスルコトガ即チ絶エズ學問ヲ活カシ宗教ヲシテ活氣アラシムル所以ナリ。

現今ノ折衷的宗教運動ハ不可ナリ。宜シク之ヲ轉ジテ活宗教ヲ生ミ出サシムルノ材料トナスベキノミ。今日ノ佛教ハ本來自性ナキコト特色ナキコトヲ特色トスレドモ歴史のニ各宗トシテ自己ノ特色ヲ有ス。基督教ハ本來自性アリ特色アルコトヲ特色トスル獨斷教ナリ。故ニ佛教ハ性質上基督教トモ調和シ得ベケレトモ基督教ハ佛教ヲ包容スルコト困難ナリ。(佛教ノ自性ナキコトニツキテハ佛教哲學論參照)  
神ハ吾人ノ内ニ働キツツアル普遍的大生命ナリ此ノ大生命ハ吾人ノ心識ヲ透シテ達シ得ベキノミ。耶穌モ「アウグスティヌス」Augustinusモヤカマシクイヘリ。「ルーテル」モ自我ヲ中心トシテ其ノ信仰ニヨリ神ヲ見ントシ「デカルト」ハ自我ヨリ出發シテ觀念ヲ立テントセリ。但シ客觀的ノ方面ヲ缺キ徒ラニ主觀的ノ影ニ過ギザル神トハ異ナル。客觀的ニモ神ハ存在ス。消極的ニ一言セバ真空ナリ。精神的ニ一言スレバ普遍的大生命ナリ。此ノ神ヲ見ルハ



ルハ大ナル誤ナリ、此ノ點ニテハ、猶太教モ亦尊重スベキ教ナリ。但シ世上ニハ、片輪者ノ幾分存在。但シ其ノ政治上ハ、獨立ヲ失ヒタル歴史ヲ有シ、絶エズ外部ハ、武力權力ノ迫害ヲ受ケタルコトハ、自ラ峻嚴保守消極的ナル性質ヲ帶バシメ、又益、其ノ他力の信仰、其ノ未來ノ希望及ビ想像ヲ強クセシメタリ。

猶太教ハ「アッシリア」Assyriaノ宗教及ビ法制ト關係アリ、舊譯聖書モ從來稱茂シタリシ「アッシリア」ヨリ持チ來レルモノナルコトガ最近ニ明ラカニセラレタリ。「モーゼ」Mosesノ十戒モ他國ノモノヲ採リ來リタルモノナルコトガ論ゼラル。要スルニ外來ニテモ内發ニテモ、猶太人間ニ發達セシ舊慣ヲ嚴守セシ點ハ特色アルモノトス。

猶太人ハ主觀的精神ニ長ジ、意思ヲ尊ビ認定竝ビニ、獨斷ヲ重ンズルト共ニ、又著シク對立關係ニ偏セリ。是等ノ點ハ羅馬人ニ似タレドモ、其ノ亡國ノ歴史アル民族タリシコトハ、總ベテノ方面ニ於テ、羅馬人ト異ナリタル方向ニ發達セシメラレタリ。猶太人ハ、現世ニ於ケル政治的活動ヲ發達セシメテ、此ノ點ニ於テ一體タル民族タリシモノニ非ズ。彼等ハ、出世間ノ信念ヲ發達セシメ、是ニヨリ其ノ民族ノ普遍性ヲ發揚セシモノナリ。彼等ノ主觀的精神モ、現世ノ制度ヲ發達セシメズシテ、出世間ノ神ト其ノ民族トノ關係ヲ確定セシメ、現ニ雄大ナル帝

羅馬人トノ比較

死後モ永久スルヲ希望ス

羅馬人ノ制度ニ對シテ、猶太人ノ性質ハ、如何ナルモノニ非ズ。永久動カシ易カラザル獨斷教ヲ生産シテ、治ク西洋世界ヲ化シタルモノナリ。羅馬人ノ政治殊ニ法律ハ、西洋竝ビニ其ノ影響ノ下ニ在ル世界諸國ノ制度法律ヲ支配シタレドモ、猶太系統ノ宗教ハ、西洋竝ビニ其ノ權威ノ下ニ立テル人民ノ魂ヲ奪取シツアルモノナリ。是等ノ人

政ヲ發生セシメズシテ、神ノ支配ヲ信ジ、神ノ國ノ來ルヲ期待セシメタリ。現實ノ活動ニ於テ活キタル民ニ非ズ、信仰ト希望トニ於テ活キタル民ナリシナリ。彼等ノ重ンジタル強キ意思ハ、奮闘的ノ進取侵略ヲ事トセシメズ、能ク外來ノ苦難ニ堪ヘ、恥辱ヲ忍ビ得ルコトニ在リシナリ。此ノ世間ニ於ケル一切ノ憐ナル境遇ニ甘ンジ、如何ナル事物ヲ以テスルモ、猶太人ノ信仰、猶太人タルコトヲ變ズルコトヲ欲セザリシハ、他ニ類例ヲ發見シ難キ所トス。基督ガ惡魔ノ試惡ニ應ハサザリシ性質ハ、實ニ猶太人トシテ、而シテ認定竝ビニ獨斷ノ尊重ニツキテモ、猶太人ハ、羅馬人ノ如ク政治法律ノ實際竝ビニ此等ノ學問ヲ結晶セシメテ形式的規範ヲ後世ニ貽シタルモノニ非ズ。永久動カシ易カラザル獨斷教ヲ生産シテ、治ク西洋世界ヲ化シタルモノナリ。羅馬人ノ政治殊ニ法律ハ、西洋竝ビニ其ノ影響ノ下ニ在ル世界諸國ノ制度法律ヲ支配シタレドモ、猶太系統ノ宗教ハ、西洋竝ビニ其ノ權威ノ下ニ立テル人民ノ魂ヲ奪取シツアルモノナリ。是等ノ人

第一門 第五章 宗教時代 第三節 基督教ノ確立 基督教ノ興起 五一八  
人ヲ猶太人化セシメタリ。猶太人ノ支配ハ羅馬人ノ如ク積極的ニ非ズ、派手ニハ非ザレドモ消極的ニ隱然ト永久ニ亘リ粘リ強ク人心ヲ支配シツツアルコト、羅馬人ヨリ更ニ大ナルモノアリ。之ヲ猶太教ノ精神的基礎竝ビニ西洋思潮ニ於ケル地位トナス。

人ニ何程苦メラレ様ガ、何ンナニ零落シヨウガ、人ニ嫌ハレ様ガ、猶太人程結構ノ者ハナイト信ジテ居リ、現在モ平氣デ甘シテ居リ、死後モ永遠猶太人タラント冀フ點ハ他ニ比類ナシ。歐人カラ嫌ハレナガラ、歐人ヲ猶太人化シタルモノハ猶太人ナリ。歐州人ハ生活ノ根柢ハ猶太人ノ宗教ナリ。外部ヨリ見レバ、猶太教ノ長所ヲ表ニシ、短所ヲ裏ニセシガ基督教ナリ。但シ今日ノ猶太人ハ永ク亡國ノ民トシテ存スルガ故ニ益々特殊ノ癖ニ陥リツツアリテ、見事ナル性質ハ歴史のノモノト成リ行キツツアリ。

### 第二目 猶太教ノ神

猶太人ハ其ノ理想的ノ國父最高ノ君主ヲ一神ニ於テ見ムトセリ。其ノ愛ト權力トヲ貴ベルコトハ、宗教的信仰トシテ超越的ノ一神ヲ認メシメタリ。之ヲ「*Yehovah*」*Jehovah* 又ハ *Jahveh* (*Jahweh*) ト稱ス。又單ニ *Ja*

第一 猶太人ノ神ハ活働及ビ活働關係ノ主體ナリ。  
猶太人ノ主觀的精神及ビ其ノ活働ノ意識ハ其ノ神ヲ以テ活働的人格的ノ一神トナサシメタリ。此ノ種ノ神ヲ信ズル氣風ニヨリ又國民ノ主觀的ノ信仰ヲ益々固持シタ故ニ其ノ神ハ意思ヲ有シ、感情ヲ有シ、熱烈ナル情愛ヲ以テ民ヲ撫育シ、確實ナル理想ヲ立テテ之ニ適應スベキ目的ヲ設定シツツ活働スルモノナリ。  
希臘哲學者ノ認メタル一神ハ「*クセノファネイス*」*アナクサゴラス*「*プラトーン*」*アリストテレイス*及ビ「*ストア*」學派等參照其ノ有セシ美的學問的意識ヲ外部ニ抽出シ、己ト對立セシメタルモノナレバ、其ノ客觀的存在ハ「*ヌイス*」又ハ之ニ類スルモノニシテ、心靈的ナリシトハ雖モ調和ナリ、秩序ナリ、理法ナリ、理性ナリ。無邪氣ニシテ又諦メ善キ客觀的性質ヲ有スル神ナリ。平靜ナル神ナリ。印度ノ一元タル眞如ハ真空ニシテ意識ト無意識、自由力ト慈悲心、矛盾ト調和、圓滿ト特色、主觀ト客觀トノ一切ヲ包藏スル無量ナリ、自ラ無量トシテ存在シナガラ又一切有量ナル事物ニヨリテ表現セラレ、其ノ中ニ在ルモノナリ。一華嚴法界觀、猶太人ノ神ハ是等ノ何レトモ異ナリ、初メヨリ單純ナル人格者ナリ。此ノ世界人間

基督教ト良  
心等ト結合  
ナリ得ル根  
據

第一門 第五章 宗教時代 第三節 基督教ノ確立 基督教ノ興起 五二〇  
ニ超越シテ絶対ニ之ト對立スル活動者ナリ。活動關係ノ主體ナリ。感情ノ主  
體ナリ。正義ノ主體ナリ。要スルニ内部的道德的靈的ノ性質ヲ有シ其ノ理想  
ニヨリ人類ヲ支配セムトスル神ナリ。

基督教ヨリイヘバ救ヒナレドモ猶太教ヨリイヘバ支配ナリ。印度ノ方ガ廣クシテ有ラニ  
ル方面ヲ網羅ス名ハナキモ名ヅクレバ如ナリ。眞如ナリ。又眞如ナリ。其通リナリ往來  
ナリ融通無礙ナリ。何ト云フモ之ハ有限ニイフコト能ハズ。此ノ猶太人ノ神ガ發達セシハ  
「アッシリア」信仰ト關係アリ猶太ノ家長ノ地位ト同時ニ王ノ地位ヨリ發達セシモノナリ。故  
ニ之ヨリ出デタル基督教ガ羅馬ニ行キテモ其ノ法制其ノ統括制ト調和シ得之ヲ其ノ内ニ包  
括シ得タリ。

超越神ナリ

第二 此ノ神ハ絶対的ニ此ノ世界ニ超越セル神ナリ。  
此ノ點ハ各種ノ汎神教ト全ク其ノ性質ヲ異ニスル所ナリ。汎神教ハ神ヲ此  
世界ト對立セシメテ見ザルニ在ラザレドモ歸スルトコロハ必ズ之ヲ世界ニ内  
在セシメ萬物トシテ發現シ萬物ニヨリテ表現セラレツツアルトコロノ威嚴ア  
ルト共ニ慣レ慣レシキ神ナリ。神聖ナルト共ニ平凡ナル神ナリ。猶太教ノ神  
ハ之ト異ナリ全然萬物ノ外ニ在リ。萬物ハ此ノ神ノ自由偶然ニ創設セルトコ

故ニ基督教  
ハ「ヨゼフ」  
ノ子ニ非ズ  
聖靈ニヨリ  
生レタリト  
スルナリ

ロノモノトシ自然タル神ニ非ズ。神ト自然トハ全然別物ナリ。神ト吾人トハ  
同質ニ非ズ。故ニ神ハ來リテ己ヲ吾人ニ現ハスコトハアリ得ベケレドモ吾人  
自ラ進ンデ神ヲ己ニ現ハサシムルコト能ハズ。夫ノ天啓イフモノハ神自ラ來  
リテ己ヲ人ニ現ハスモノノミ。但シ各人ガ神ノ現ハレ得ル如キ心ノ状態ニ在  
リ新「アト」派ノ「エックスタシー」自「Estatis」ニヨルサレバ萬物及ビ人間ト神  
還滅ト異ナル。「アウグスティヌス」ノ自我ノ意識參照。サレバ萬物及ビ人間ト神  
トハ永久距離ヲ有ス。之ニモ拘ハラズ神ガ活動關係ノ主體トシテ人間ヲ愛シ  
人間ヲ責罰スルトイフ考ハ調和シ難キトコロナリ。是レ即チ猶太教中「ファロ  
ン」ノ如ク神人間ノ媒介ヲ説ク者ヲ生ズルニ至ラシメタル所以ナリ。「イエス」モ  
亦此ノ神ト人トノ生キタル媒介者ニ外ナラズ。

一元神ナリ

第三 此ノ神ハ世界ノ唯一ナル絶対的獨占的原働者ナリ。  
一 神ト物質トノ對立ヲ認メズ。  
神ト世界トハ永久距離ヲアレドモ世界ハ神ノ絶対的任意ニ創造セシモノニシ  
テ神以外ニ何等ノ原働力在ルコトナシ。故ニ神ト同時ニ又ハ神ノ前ニ世界萬  
物在リテ是等ニヨリテ神ノ存在ヲ意識シ得ルニ非ズ。神先ヅ存在シテ後ニ天

第一門 第五章 宗教時代 第三節 基督教ノ確立 基督教ノ興起 五二二

地萬物在ルモノナリ。神ヲ意識シ得ルガ故ニ其ノ生ゼシメタル萬物ヲ意識シ得ルノミ。

佛教ハ眞如ト無明ト同時ニ存在ストセリ。又此ノ凡テヲ含ミタルモノヲ眞如トナセリ。猶太教ニテハ、タダ初メヨリ神アリ無ヨリ有ヲ作リシトイフ。希臘哲學ガ入りテ道理ヲ明ラカニシ、理性ヲ元トシテ考フレバ、カカル神ハ吾人ガ意識シ得ル答ナレ。故ニ「フクロン」ハ「ロゴス」ヲ持チ來レリ。耶穌ガ神ノ子トシテ所謂人間ノ父無クシテ生レタルヲ貴シトセシ所以ナリ。

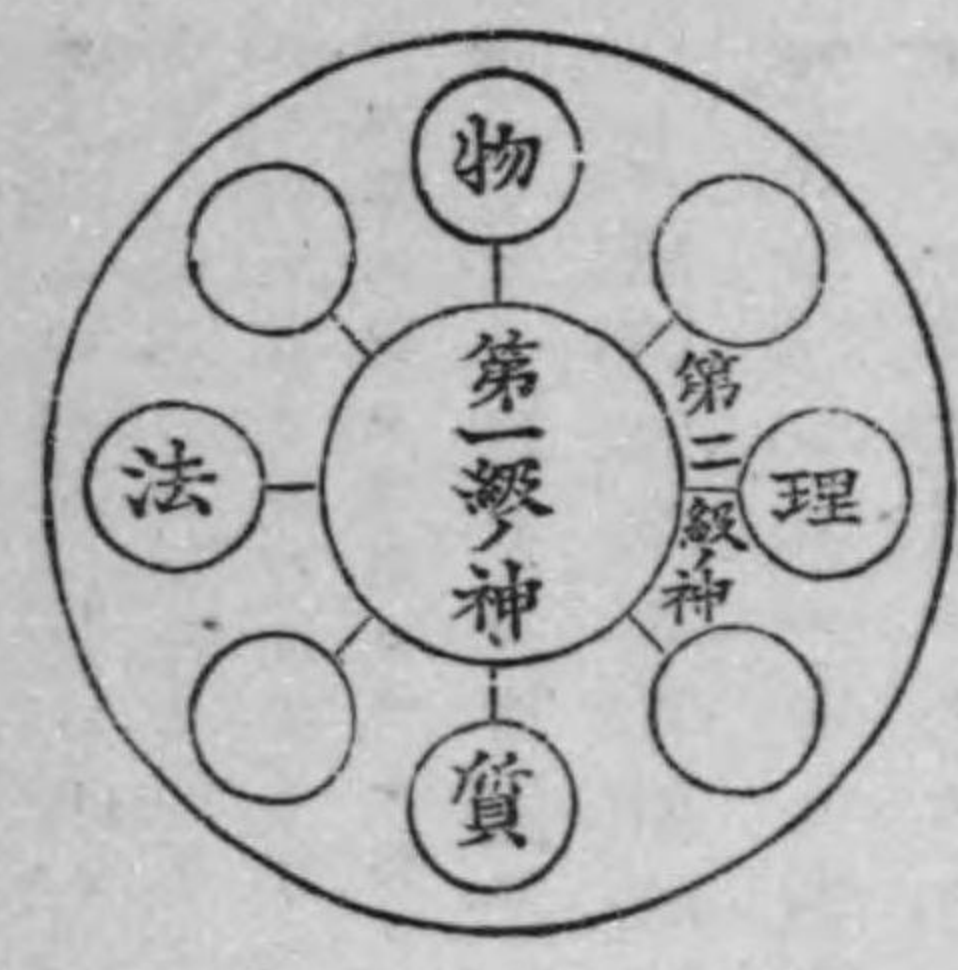
希臘ノ教ニ於ケル超越神ハ、或ハ理性的ナルニモセヨ、或ハ夫自身ガ理性ナラザルニモセヨ、皆二元的一神教ナリ。(「ピタゴラス」、「アナクサゴラス」等參照)其ノ神ニ對スル無邊アリ物質アリ非有アリ質量アリテ神ト此物質トノ關係ハ、必ズ因果律又ハ法則ノ支配ノ下ニ在ルガ故ニ神ト世界萬物トノ關係ハ、理法ノ範圍ヲ脱セズ。隨ツテ理法ハ或ハ神ト同ジク或ハ神ヨリモ高ク、或ハ神ト相待チ如何ナル意味ニ於テモ離レ難カリシナリ。猶太人ノ神ハ之ト異ナリ、無ヨリ有ヲ作り出スノ神ナリ。猶太人ガ斯ノ如ク神及ビ之ニ對立スル物質トヲ統括スル更ニ大ナル神ヲ求メムトセシハ、汎神論ノ場合ニ於ケルト等シク、信仰ノ進歩ト

專制的獨裁者ナリ  
理法ニ改廢ガ  
自由ニモキ  
弱シ得ルモノ  
ナリ

見ラレ得ルガ如シト雖モ、其ノ實神ヲ以テ絕對ニ人格的ノモノトナシ、絕對自由ナル支配者トナシタルガ故ニ、徒ラニ理法ヲ排斥シテ神ノ絕對的萬能ヲ認メタルモノト別ツコト能ハズ。

佛教ニテハ眞如ト無明ト對立セルガ、更ニ統括シテ眞眞如トナス、希臘ノ神ハ物質ト對立ス今猶太人ノ神ヲ物質マデ包括セル大ナル神ト見レバ希臘ノ神ヨリモ進歩セルモノト見ラルルガ如シ。何トナレバ希臘ノ神ハ物質ト對立セル故ナリ。佛教ノ「眞然ノ眞如」ヨリ進ンデ隨

第八十二圖 神ノ觀念ニ關スル三階級



- 第一級ノ神 己ノミ絕對ニシテ他ヲ認メザル神
  - 第二級ノ神 世界及ビ理法ト離レザル神
  - 第三級ノ神 世界及ビ理法ト離レザレドモ、尙是等ト表現歸一ノ關係ニ立ツ神
- 注意 第八十三圖 第八十四圖參照

理法ト神ト  
本非ズ、ナルト  
シハ愛、若  
主トス等ト  
イフセバ  
最ト自ル  
ガ早ト身  
トカトナ  
コベトナ  
ルル

縁ノ眞如ヲ達觀スルト同一ナルガ如シ。トコロガ猶太教ノ神ハ然ラズ。理法制限ヲ許サズ。絶對ノ自由ナル支配者絶對ノ萬能ナル神故大ナル神ニ非ズ。希臘ノ神ハ理法ヲ捨テヌ神ナルモ猶太教ノ神ハ理法ヲ認メズ。自己以外ノモノヲ認メヌ。第一級ノ神ナリ、第二級ニ到ラズ。況ヤ第三級ニ到達セザル神ナリ。

換言スレバ、世界ハ普遍の大生命ノ生ズル普遍的活動ノ顯現スルトコロナルガ、此ノ普遍の大生命、普遍的活動ガ絶對ナル域ニ於テハ人ト人トモ歸一シ、人ト境トモ亦合一シ、其ノ間ニ區別ヲ存セズ。此ノ大ナル普遍的存在ヲ權リニ超越セシメテ、一神ヲ認メタルモノナラバ大ナル進歩トイフベシ。併シナガラ普遍的大生命並ビニ活動ノ存在ニハ、必ズ理法ヲ統括セザルベカラズ。之ヲ排斥シツツアル自由ハ、萬人萬物ニ超越シ、之ト合一シ得ザル孤立者ニ外ナラズ。而シテ猶太教ノ超越的一元の專制的ナル「エホバ」ハ、自由力ニ執着スルモノニシテ尙完全ナル普遍的ノ存在ニ非ズ。寧ろ著シク孤立的ノ傾向アル神ナリト論斷セザルベカラザルナリ。

次ギノニ  
對照スベシト

西洋諸國ノ君主ガ引續キ超越的ノ性質ヲ有シツツアルコトト、彼地ノ專制思想ノ盛時ニ於テハ、國法並ビニ臣民モ、一切君主任意ノ產物ト見做サレ

タルガ如キコトハ、之ト比較スルノ價ナシトセズ。

二 神ト理法トノ對立ヲ認メズ。

猶太人ノ一神ハ其ノ自由力事實力ヲ主トシテ存在スル神ナリ。理法的ノ神ニ非ズ。理法在ルガ故、ニ存スル神ニモ非ズ。理法ト同時ニ存在スル神ニモ非ズ。理法ヲモ事實ヲモ包含スル神ニモ非ズ。神在ルガ故ニ其ノ任意ニ定メタル理法在リ得ルナリ。神ノ自由力タル事實力ニ依リテ一切ガ存在シ得ルモノナリ。故ニ神ハ其ノ偶然ナル法ヲ定メザルニハ非ザレドモ、其ノ法ト稱スルモノハ皆偶然ノ獨斷ニシテ、此ノ神ヲ信仰スルハ、ミニテハ決シテ物質界ノ法、モ社會ノ道德ニ協ヒタル法、モ之ヲ知ルコト能ハズ。獨斷教ニハ、最モ便利ナル神ナレドモ、此ノ儘ニテハ到底普遍的存在普遍的活動ノ教ヲ成立セシムルコト能ハザルナリ。

理法ヲ排斥シテ其ノ上ニ在リトハ、エラソウナルモ、カクテハ無智文盲ノ神トナリ、偶然ノ神トナル。「エホバ」トテ左様ナ神デナク、自分ニテ法則ヲ定メシモノナラバ獨斷ナリ。猶太人ハ神ノ法律ヲ非常ニ尊ビ、法ハ理論ニテ動クモノニ非ズ、神ノ意思ナリトセリ、善惡ナク唯君主ノ意思ニテ定メシモノガ即チ善ナリトセリ。日本ニモ左様ナ法學者アリ。猶太人モソウ考ヘ

シガ、之ハ君主ヲ崇ムル所以ニ非ズ。「エホバ」ノネウチヲ無クナス所以ナリ。捉ヲ嚴重ニスル爲ニ反ツテ有害無益ノモノナリキ。故ニ之ヲ活カスノ必要ヲ感ジテ耶蘇ノ如キ大人格者ガ現ハレタリ。

三 神ト神トノ對立ヲモ認メズ。

猶太人ノ一神ハ此ノ種ノ自由力事實力ヲ獨占シ己ノ傍ニ他ノ者ヲシテ神、ラシムルコトヲ欲セザルノ神ナリ。世界萬物トテモ一モ其ノ獨立ノ自由力事實力ヲ有セズ。神ハ唯統括的ノ自由力事實力ヲ有スルニ止マラズ統括的統括的の一切ノ力ヲ專占スルモノナリ。萬物ニ神ノ性質ヲ認メ各神トシテ相對立スルコトヲ欲セザルモノナリ。

猶太ノ神ハ愆深キ神ナリ。神ノ價值アルハ先ツ正義ヲ重ンズル點ニ在リ。尙一步進ミ更ニ尊キ所ハ大ナル愛ノ心ヲ以テ正義ニ拘泥セズ善人惡人一樣ニ憐ム神ナリ。最後ニ最モ尊キハ神タル所以ヲ一切ニ分チ與フル所ニ存ス。犬ノ糞ヲモ神トスルノ神タラザルベカラズ。猶太人ノ神ハ神タルコトヲ獨占スル容キ神ナリ。

猶太人ハ古來嚴格ニ一神ヲ認ムルノミ神ハ超越的絕對的專制的ナル原働者タルノミナラズ多數ノ神ニ非ズシテ唯一ナリ。歴史的ニ最初信仰セラレタル

申命記ハ「モーゼ」ノ死スル前ニ「モーゼ」ノ平野ニ於ケル最後ノ言葉ヲ録ス。猶太人ノ法律有名ナリシテ但シ主トシテモテ宗教的ノモノナリ

唯一ノ神タルニ止マリ他ノ種族ノ信ズル神ト對立「モーゼ」 Moses ノ十戒ノ第一ニモ「汝我ガ眼ノ前ニ我ノ外何者ヲモ神トスベカラズ」トアリ。又「エホバ」即チ汝ノ神ハ嫉ム神ナレバ我ヲ惡ム者ニ向ヒテハ父ノ罪ヲ子ニ報ヒテ三四代ニ及ボシ我ヲ愛シ我ガ誠命ヲ守ル者ニハ恩惠ヲ施シテ千代ニ至ルナリ」トアリ。又申命記 Deuteronomio 第六章ノ四ニ「イスラエル」ヨ聞ケ我等ノ神「エホバ」ハ唯一ノ「エホバ」ナリトアリ。此ノ點ハ猶太教系ノ宗教ガ最モ誇リトスルノ點ニシテ是迄世界ノ戰場ニ於テ君權國ノ有利ナリシガ如ク宗教相互ノ爭鬪場裡ニ於テハ唯一ノ神ヲ戴ク宗教ハ侮ルベカラザル勢力ヲ有セリ。此ノ教系ハ飽クマデ奮闘的干涉的征服的ナリ。故ニ又一切ヲ網羅セズシテ對立的且偏頗的ナリ。

第四 此ノ神ハ特ニ猶太人ヲ愛護シ之ニ普遍的生活ノ根據ヲ與ヘツツアルモノナリ。猶太人ノ一神ハ人間萬物ニ超越ス。併シ其ノ爲ニ反ツテ各個人ノ差別ニ拘泥セズ普遍意思ヲ以テ普遍的ニ各個人ヲ統治スル一神ナリ。各個人ニ超越セハコトガ萬人一樣ニ之ニ信賴シ得ル神タル所以ナリ。然レドモ此ノ一神ハ元



統括トカカ  
フ愛トカイ  
者ヲ要ス

「イスラエル」人ノ認メタル神ナリ。「イスラエル」人ノ普遍的生命其ノ現ハレタル人格、普遍的活動ヲ一様公平ニ見易キ様ニ客觀的ニ超越セシメタルモノナリ。サレバ「イスラエル」人ノ勝利ガ「エホバ」ノ正シキ勝利ナリ。次第ニ其ノ神ノ觀念ヲ擴張シ、「エホバ」ヲ以テ人類一般ノ支配者トセル後ニ至リテモ、尙「イスラエル」人ニヨリテ全人類ヲ救ハムトスル考ヲ脱却セルコトナシ。又猶太教ニ特殊ナル世界人間ノ終末觀ニツキテモ、初メハ「イスラエル」ノ敵國滅ビ、神ノ國現ハレ、「イスラエル」人ノミガ存在シ、再ビ造ラルル諸國民ヲ支配スルニ至ルベキコトヲ信仰シ、決シテ其ノ希望ヲ絶タザリシナリ。而シテ、特ニ「イスラエル」人ニ厚キ此ノ神ハ、其ノ自由意思ニヨリ偶然ニ「イスラエル」人ニ律法ヲ與ヘ、詭辯論者時代後期ノ第四參照之ニヨリテ「イスラエル」人ノ行動ノ標準ヲ定メタルモノナリ。

成程此ノ神ハ「イスラエル」人ニハ超越シテ居ル丈ケアリテ公平ナリ。依姑最負ナキ爲ノ超越ハ善シ。此ノ意味ニ於テハ神國ノ天皇モ然リ。但シ國民ト全ク離レテ存セラルルトスルハ不可ナリ。反ツテ神聖ヲ傷ツクル所以ナリ。君主ハ「民」ノ君主ナリ、故ニ君主ハ民主ナリ。今日普通ニ民主トイヘバ之ト異ナレル意味ニ用キ人民自身ガ主ナリトイフコトニ用キルナリ。

### 第三目 猶太教ノ律法

猶太教ノ神ハ、理法理性ノ拘束ヲ受クルモノニハ非ザレドモ、尙内部的、道德的且心靈的ノ神ニシテ、人間特ニ猶太人ノ敬神道德及ビ生活ヲ全フセンガ爲ニ、一定ノ神意ヲ示シ、之ヲ標準トシテ、彼等ノ責任ヲ問ハントスルモノナリ。律法ハ即チ此ノ種ノ神意ニシテ、宗教上ノ規則、道德上ノ教訓及ビ認定法ヲ包含ス。是等ハ猶太國民ノ風俗習慣ヲ材料トシテ、祭司ニヨリテ發達セシメラレタリ。祭司ハ元裁判ヲモ司リシカバ、判決ニヨリ多大ノ慣習法ヲ確定セシメ、終ニ「モーゼ」Mosesノ名ヲ以テ是等ヲ書キ綴リタルモノナリ。「モーゼ」ノ五經 Pentateuch 即チ是ナリ。

律法ハ神ノ命ナリ、神ノ意思ナリ。實際ハ國民的事實ニシテ國民的認定ナリ。故ニ其ノ理由ノ如何ヲ問ハズ、何人モ之ヲ違背スルコトヲ禁ゼラル。道理ノ有無、利益、不利益ヲ考ヘテ認定ヲ動かスコトヲ欲セザリシハ、同ジク主觀的ナリシ羅馬人固有ノ思想ニ似タリ。併シ羅馬人ハ其ノ保守的精神ニヨリ、世間生活及ビ其ノ認定法ヲ發達

羅馬人トノ  
同異

猶太人ハ今  
日モ尙同族  
ノ共助協力  
ヲナス點ナ  
リツキ有ナ

セシメ、宗教ヲ其ノ下位ニ置クニ至リシガ猶太人ハ其ノ形式的精神ニヨリ、宗教的生活ヲ確定セシメタリ。彼等ハ國家生活ニ失敗シ、政治上ノ獨立ヲ失フニ至リテモ決シテ其ノ古來ノ律法ヲ見棄テズ、否其ノ政治上ノ獨立ヲ失ヒ、國家生活ノ轉變常ナク價值ナキヲ感ズルホド、愈々宗教的ニ其ノ自性ヲ保持スルノ必要ヲ感ジタルナリ。羅馬人ガ政治上ノ獨立セルモ、宗教上ニ於テハ、獨立セザリシニ反シ、猶太人ハ政治上ノ獨立ヲ失ヒナガラ、尙宗教上ハ全然獨立セル民族タリシナリ。

主觀的ナルコトハ羅馬人ニ似タレドモ、結果ハ異ナル。政治上ノ獨立ガ貴イカ、宗教上ノ獨立ガ貴イカ一概ニイヘズ。東洋人タル吾人ハ超越セル故公平ニ判斷シ得ベシ。基督教徒ハ彼等ヲ排斥スレドモ猶太人モ亦エラキ民族ナリ。但シ今日ノ猶太人ハ私生活計リヲ重ンジテ昔ト異ナル。各國ニ散在セル猶太人ハ其ノ四圍ノ境遇ニ化セラレテ少シハ異ナリ來レルコトハ明ラカナリ。今ハ斯カル方面ヨリ見ズシテ信仰ノ方面ヨリ觀察シタルナリ。

宗教ハ古來猶太民族ノ生命ナリシガ、益々其ノ民族ノ生命タラシムルニ至レリ。但シ其ノ宗教ハ自性ニ富ミ、其ノ特色ハ獨斷的、專制的、保守的ナルガ故ニ、終ニ嚴然タル宗教上ノ階級ヲ生ジ、貴族的ノ僧侶ト平民的ノ俗人トノ區別發生シ、貴族

ハ益々其ノ獨斷ヲ振ヒ專制ヲ逞フシ、保守的ニ形式ノミヲ強行スルニ至レリ。然レドモ元來超越的ノ一神ヲ認メタルガ爲ニ、優勢ナル一人ガ其ノ偶然ナル暴力ヲ振フコトヲ節制シタルモノナリ。此ノ世界ニ超然トシテ、何人モ一樣ニ其ノ愛護ヲ受ケ得ル神ノ公平ナルイハバ、普遍力ニ信賴シ、イハバ、普遍規律意思ニ則リテ支配セラレントスルモノニシテ、之ニ依リ此ノ社會ニ於テ相對立スル人ノ中ニ偶然ナル一人又ハ少數ガ其ノ偶然ナル力ヲ逞フスルコトヲ防止スルノ效力アリシモノナリ。何トナレバ神自身ガ一般人ニ共ニ然ルニ少數ノ貴族等ガ神意ト稱シテ人人ニ其ノ獨斷ヲ強ヒ、普遍意識ノ產物タル神意ヲ私スルニ及ンデハ宗教ハ反ツテ社會少數者ノ專制、多數者ノ屈從ヲ爲サシムル無益有害ノ道具トナリ、其ノ教ガ獨斷教ノ性質ヲ帶ブルモノホド、其ノ弊害モ一層劇甚ニ赴クヲ免レザルナリ。茲ニ於テカ先ヅ一方ニハ此ノ階級ヲ打破シ、次ギテ他方ニハ宗教ト認定法トノ分歧ヲナサシメ、宗教心ニ基ヅク活キタル神ノ命令ヲ根據トシ、俗世界ノ活動並ビニ認定法ヲ擴張セシムルコトヲ要セリ。印度婆羅門僧俗ノ階級嚴重ナリシガ、婆羅門族ハ王者役人武士並ビニ其ノ下ノ農工商ヲ超エテ是等ト離レテ其ノ上ニ在リシモノナリ。

印度ニテハ僧ハ所謂「ブラトーン」ノ賢人ノ階級ニ在リタリ。古神道ニツキテ見ルモ、コハ一般ノモノニシテ私スベカラザルモノナリ。御五ニ一心同體トシテ揃ヘテ發揮スベキモノナリ。

形式的服従

畏敬

正義

「イエス」ハ犧牲トナリ

此ノ嚴格ナル祭司ノ階級ハ紀元前第二世紀ノ頃ニ打破セラレテ、概略平民的宗教トナルヲ得タレドモ、古來ノ風俗習慣竝ビニ律法ノ形式ニ束縛セラルルコト甚ダシクシテ、活キタル信仰、活キタル義務心ニヨリ、神ヲ信ジ其ノ律法ヲ守ルニ非ズ。特ニ猶太教ハ神人ノ同質及ビ其ノ合一ヲ説クコトヲ主意トセズ、神ト人トハ獨立シテ相對シ、人ハ形式的ニ律法ニ服従スルヲ要シ、其ノ他ノ形式ハ重要視セラレタリ。モ、貴族ノ破ラレタルニモ拘ハラズ、尙神ノミハ依然信仰竝ビニ認定生活上ノ專制者トシテ、不道理、獨斷ヲ強ヒ、人間ヲ己レノ奴隸トシテ喜ビツツアル神タリシナリ。神ハ尊嚴威光ヲ以テ滿チタレドモ、計算的均一的ノ神ニシテ、其ノ定メタル正義ニヨリ假借スル所ナシ。故ニ人民ハ之ヲ畏レ之ヲ敬スレドモ、親シミ愛スルモノニ非ズ、喜ビ慕フモノニ非ズ。同ジク計算的均一的ニ神ニ與ヘ又神ヨリ要求シ、犧牲的、献身的、特ニ表現的ニ非ズ。

耶蘇ノユラキ所ハ献身的犧牲的ニ神ニ事ヘシコトニ在リ。吾人ト對立セシ神故ニ、法律ヲ

守レバ神ニ對シテ神ノ愛及ビ利益ヲ受クル權利ヲ有スル管ナリ。古神道ノ天皇モ圓滿ナル私ナキ正義計リノ御方デアラセラレズ。愛ニ滿チテイラセラルル御方ナリ。猶太教ノ神ハ元ハツマラヌ神ニテハアラザリシガ、次第ニ價值ナキモノトナレリ。之ニネウチヲ與ヘントセシガ耶蘇ナリ。耶蘇ヲ通シテ新ナル價值ガ出デ來レリ。

婆羅門教ノ缺點トノ比

回向ト「イエス」

耶蘇舊教ノ分外功德説参照

然ノミナラズ猶太教ノ神ハ猶兎角在來ノ如ク猶太人ノミヲ偏愛スル神ニシテ、黨派ノ親分ナリ。猶太人中ニ於テモ、學者神學者即チ法及ビ「パリサイ」 Phariseer、選リ分ケラレトイヒ、學者ノ指導ノ下ニ專ラ律法ノ研究ニ從事セル者ノ外ニハ、律法ニ精通セザルガ故ニ、神ノ分配スル利益ヲ享受スルコト能ハズ。學者及ビ「パリサイ」ハ自ラ一般人民ト區別アルモノト信ジ、彼等ノ或者ヲ特ニ「地ノ民」又ハ「愚民」Amharreezト呼ビ居タリ。故ニ此ノ宗教ハ神人合一ヲ許サザリシノミナラズ、人ト人トノ合一ヲモ認メズ。神ニ對シテイヘバ他力教ナレドモ、人人相互ノ間ニツイテイヘバ純自力教ニシテ、佛教ニ於ケルガ如ク回向ノ關係ヲ生ズルヲ許サザリシモノナリ。婆羅門教ノ缺點参照 相互ニ自力ヲ比較シテ、其ノ間ノ罪惡ニ等級ヲ立テ、神ノ恩顧ニ差等アルヲ信ジタリシハ、自ラ諛フコトモ亦少カラザリシモノトイフベシ。學問、美術、法律、サヘ皆回向ノ關係ノ上ニ神聖ナルモノナ

リ。然ルニ先ヅ學問法律等ニ此ノ回向ノ根據ヲ附與スベキ宗教ニシテ猶太人間ニ於テスラ律法ノ不知ニツキ此ノ回向ノ關係ヲ認メザリシハ如何ニ猶太系統ノ宗教ガ律法ヲ重ンジ且專制的差別的獨占的對立的ノ要素ニ富ムカヲ推知スルヲ得ベシ。故ニ猶太教ノ子基督教モ亦羅馬ノ法律制度ヲ完成セリ。

猶系ノ教ハ主觀ヲ去ラザル教ナリ。從ツテ此ノ形式ハ非常ニ重ンゼラレタリ。其ノ同系統ノ基督教ガ羅馬ノ制度ヲ吞ミ込ミシハ親ヨリノ因縁ナリ猶太教ハ猶太人ノミニ特殊ナルニ其ノ子基督教ニ至ツテハ羅馬ニ特長ナル法律制度ヲ宗教ノクセニ吞ミ込ミタリ。下界ヲ見ル勿レ天國ヲ見ヨ美ニシテ圓滿ナル神ヲ見ヨ人間ハ汚レタリト絶叫シ教説シツツ教會自身ハ現世ノ法律制度ヲ細大トナク吞ミ込ミタリシナリ。但シコレガ近世ノ國家ノ模範トナリシモノナリ。雄大ナル統括制ハ羅馬人ノ發明ナリシガ之ヲ今日ノ歐人ニ傳ヘシハ基督教ナリ。歐洲ノ今日ヨリ此ノ歴史アル基督教ヲ取り去ルコト能ハズ。今日ノ立憲國ノ根柢トシテ缺クベカラザル統括制ヲ成サシメシハ基督教ナリ。故ニ立憲國ヲ完成スルニツキテハ基督教徒ガ尙責ヲ負ヒツツアル所以ナリ。

古神道ヤ佛教ニ比較スルニ今日ノ基督教舊教ヲ除キハ多ク回向ノ精神ニ乏シ往昔ノ猶太教特ニ然リ。吾人ノ爲スコトハ夫他ニ回向シテオク死人ノ前ノ燒香ガ回向ニ非ズ。死人ニ對シテ南無阿彌陀佛ト云フコトハ一ツノ形式ナリ。實ハ生キテオク萬人ノ間ニ回向ガアルナリ否死者無數ハ人間ニ回向ガアルナリ同體ニ回向スルナリ。猶太教ニテハ此ノ回

向ナカリシ故一人ノ行ガ一般人民ノ行タル能ハズ。神ノ恩澤ヲ受クル爲ニハ各自ガ律法ヲ研究セネバナラヌトセリ。形式化シタルコトモ亦甚ダシ。個人主義ノミニ拘泥スル今日ノ法學者深ク反省ヲ要ス。

是等ノ極端ナル保守主義竝ビニ形式化シタル宗教ヲ救ハムトスル人人及ビ運動ハ往往見ハレタルトコロニシテ後ノ「イエス」トイヒ其ノ頃ノ「パウロ」ス「Paulus」使徒ト「ヨハネ」Johannes der Täufer トイヒ「パリサイ」Pharisäer 派ノ「パウロ」ス「Paulus」使徒トイヒ皆宗教心ニ基ヅキ改革ヲ企テタル者ナリ。尤モ羅馬主義ヲ希臘哲學ニヨリテ擴張シタルガ如ク希臘哲學ニヨリテ猶太教ヲ改革セムトセシ者モ無キニ非ズ「フロン」ノ如キハ其ノ重要ナル者ナリ。併シ羅馬法學ガ哲學的比較研究的根據ヲ得テ發達シタルモノト異ナリ猶太教ハ其ノ中ヨリ宗教的内省的ニ革新セラレタル基督教ヲ生ミ出ダセリ。基督教ハ即チ律法ト活キタル信仰トヲ截然分離シテ宗教生活ニ活生命ヲ造リ出シタルモノナリ。

#### 第四目 猶太教ノ神ノ國

神ノ專制的ナル任意ノ意思ガ律法ノ源トナリ此ノ律法ガ猶太教ノ重要ナル

地位ヲ占メ、保守的形式的ニ強行セラルルニ至リタルト共ニ、神ノ國ノ觀念モ亦俗化セラレ形式化セラレタリ。彼等ノ神ハ彼等ノ神ニシテ、猶太人ヲ偏愛スル神ナリ、其ノ神ノ王國ハ猶太民族ガ他ノ民族ヲ支配シ、平和幸福ナル新國家ナリトセラレタリシナリ。尤モ神ヲ以テ人間全體ヲ愛護スルモノナリトスル思想ハ全ク有セザリシニハ非ザレドモ、猶太民族ハ尙特ニ神ノ選出シタル種族ナリ、神ハ殊ニ「イスラエル」ノ覇權ヲ設定シ、之ヲ通ジテ人類ヲ救ハントスルモノナリト信ズル以上ニ出デズ。特ニ此ノ理想ハ、猶太民族ノ現世ニ於ケル失敗ノ經驗ト共ニ、現世ニ重キヲ置カズ、世界ノ終末觀ニ結ビ付ケ、此ノ世界ノ終リニ至ラバ、必ズ「エホバ」ト「ダビデ」 Davide 及ビ其ノ子孫トノ間ニ締結セラレタル約束ガ履行セラレ「イスラエル」民族ノ強敵等ハ滅亡シ「イスラエル」人ノミガ存在シ「ダビデ」系統ノ王ニ依リテ諸國民ヲ支配スルニ至ルベク、之ニ依リテ平靜安樂ナル神ノ國ノ實現セラレベキコトヲ深ク信仰シタリキ。故ニ神ノ國ハ現實ニ存シツツアルモノニハ非ズシテ、唯希望ニ於テ存在スベキ神治國ナリシナリ、其ノ神ノ國ノ王ハ即チ「ヘブライ」語ノ「メシヤ」 Messiah (Messiah) リンテ「クリスト」 Christos (Χριστός) Mischnach

近世ノ初メ「ルーツ」等参照

ハ即チ其ノ希臘譯ナリ。字義ハ主トシテ「膏」ヲ注ガレタル者トイフコトナリ。故ニ基督教ノ字義ハ「膏」トイフコトナリ。

「イエス」ハ自分ガ「メシヤ」ナリト唱ヘシ故ニ不都合ナリトテ磔刑ニサレタリ。

此ノ神ノ國ノ希望ハ猶太人ノ神ノ信仰ト共ニ永ク猶太人ヲシテ其ノ權限ニ甘ンゼシメ、困苦ニ堪ヘ忍バシメシモノニシテ、又希臘ニ於ケル世界循環説ト異ナリ、寧ロ神ノ目的ニ副フ世界ノ進歩ヲ意味シタリシガ、實際ノ歴史ヲ見ルモ、此ノ神ノ國ノ思想ハ基督教ヲ經テ順次ニ擴張セラレ、歐洲近世ニ至リテハ實際生活ト融合スル端緒ヲ開キ、終ニ立憲國ノ建設ヲ見ルニ至リ、愈引續キ政治法律上ニ於ケル神國ノ發達ヲ進捗セシメツツアリ。

## 第二項 「イエス」ノ改革

### 第一目 總 說

猶太教ハ猶太人ノ中ヨリ、其ノ大改革者ヲ生ミ出ダセリ。其ノ改革ノ精神ハ猶太的ニシテ、宗教的ニ其ノ教ノ生命ヲ發揮シタルモノナリ。其ノ改革ノ方法モ猶太的ニシテ、主觀的ナリ、能ク其ノ權限ニ甘ンジ、能ク其ノ困苦ニ堪ヘ、決シテ



猶太教ノ改革ヲ企圖セシ者ハ其ノ數ニ於テモ亦著シク多シ。希臘哲學ヲ探  
 リテ形式化シタル猶太教ヲ救ハムトセシ者ハ「フキロイン」ヲ以テ第一トナス。彼  
 ハ第一ニ超越的ナル神ト人間トノ直接ノ交通ヲ説キ其ノ間ニ活動關係ヲ認ム  
 ルコトノ哲學上不條理ナルヲ看取シ此ノ兩者ヲ媒介スル「ロゴス」即チ理體又ハ  
 神ノ理想智慧ヲ認メ律法ノ形式ヲ柔ゲ何人モ有スル平等ナル活キタル理性其  
 ノ公平ナル智ヲ明ラカニスルコトニヨリ差別ナク思惟シウベキモノガ即チ此  
 ノ「ロゴス」ナリトセリ。「ロゴス」ハ即チ萬人相互及ビ神ト人間トノ間ノ圓滿ナル  
 融合ヲ可能ナラシムル活キタル精神ナリ。(日蓮宗ノ妙法參照) 彼ハ其ノ他何  
 人ノ別ヲ問ハズ其ノ自力ニヨル「エクスターゼ」ニヨリ神人合一ノ域ニ到達シ得  
 ベキモノトナシ神ト物質トノ二元論ヲ唱へ著シク古來ノ猶太教ノ思想ヲ逸出  
 セリ。此ノ「フキロイン」ノ理體又ハ智慧タル「ロゴス」ガ更ニ一段ヲ進メ益々事實上ノ  
 人格者「イエス」キリストニ依リ差當リ現實ニセラレタル結果生レ出デタル教ガ  
 基督教ナリ。卓越セル意思ト崇麗ナル感情トノ塊ニシテ尙「ロゴス」ノ人格化シ  
 タルモノガ「イエス」其人ニシテ何人モ其ノ自力ニヨリテ「イエス」ヲ通シテ神ノ愛

天照大御神  
參照

佛教ノ阿彌陀  
佛ト稱スル

各人ハ夫夫  
自其組織及  
白表人ノ精  
ルコトヲ精  
神參照

護ノ下ニ立チ得ルノミナラズ「イエス」一人ノ行ハ即チ救世行爲トシテ一切人  
 ニ同向シツツアルモノナリト信ゼラル。此ノ點ニ就キテモ「フキロイン」ノ自力ニ  
 一步ヲ進メタルモノガ基督教ナリトス。

神ト世界トノ二者間ノ媒介ハ猶太人間ニ在リテモ期待セラレ聖靈ヲ認メントスルニ至レ  
 リ。性質ノ異ナレル二者ハ交通シ能ハザレバナリ。故ニ「フキロイン」ハ此ノ間ニ「ロゴス」ナル神  
 ノ道具ヲ認メテ世界ト「ロゴス」ト交通シ「ロゴス」ト神ト交通ストセリ。神ガ「ロゴス」ヲ使ヒ神ノ  
 道理智慧ニヨリテ世界ガ出來タトスル故「イエス」在來ノ猶太教ノ教理ト異ナル。然ルニ神ト世  
 界トノ媒介ハ「ロゴス」文ケニテハ不足故遂ニ「イエス」ガ活キタル「ロゴス」ナリトセリ。

「イエス」ハ活キタル「ロゴス」トシテ人間ノ活キタル感ジ活キタル信念活キタル  
 主觀觀念ヲ發揮シテ普遍的タラシムムガ爲ニ在來存在セシ偶然ニシテ普遍的  
 ニ非ザル枯死セル形式の律法ヲ打破スルヲ以テ其ノ任務トセリ。唯對立的計  
 算的均一的ナル神ト人トヲ己ノ人格ヲ透シテ合一セシメ神ノ偏愛ヲ擴張シテ  
 博ク何人ヲモ愛スルノミナラズ何人ヲモ一樣ニ神聖化セシムト勉メタルナ  
 リ。此ノ普遍的ナル「イエス」ノ普遍的意思並ビニ行動ハ基督教トシテ依然其ノ  
 存在ヲナシ其ノ效力ヲ發生セシメツツアリ。

治家ガ政  
ヨト干與セ  
ニ非ズ、  
心ガ根柢  
ト爲リ、  
教ガ立  
ナト成  
ルガ立  
イ成  
フス

當時ハ未ダ認定法中ニ入りテ之ヲ擴張セントスル發達ノ程度ニ達シ得ズ。「イエス」ニ此ノ度量ノ缺ケタルニ非ズ。「枯死セル認定法ト活キタル信仰トヲ分離シ信仰ノ神聖ナル獨立ヲ全フシ之ヲ以テ更ニ現世ノ認定法ヲ擴張改良スルコト」ガ彼ノ真意ナリシナリ。然ルニ「イエス」ノ其ノ頃ノ行動ハ、永ク基督教ノ特色ヲ定メ、國家國權ニ反抗シ之ト分離スルコトノミヲ以テ「イエス」ノ本意ナリトノミ誤解シツツアル形式ノ信徒ヲ出ダシタリ。信仰ハ固ヨリ國家ノ權力ニヨリ左右セラルベキモノニ非ズ。然モ常ニ國家ノ權力ヲ救済シ博愛ヲ以テ國家ヲ愛シ之ヲ助クベキコトヲ忘ルベカラズ。今日ノ法律家ニモ猶太教ノ古ノ法律家ヨリ冷酷ナル者無キニ非ザルベケレドモ、今日ノ國權ハ又古ノ國權ト其ノ性質ヲ異ニシ普遍意思トシテ存スルモノナリ。然ルニ今日ノ耶蘇教徒ガ形式的ニ「イエス」ニ倣ヒ、國家國權國法ヲ害物視シテ徒ラニ之ヲ排斥スルコトヲ誇トスル者アルハ、大ナル誤解ニシテ博愛ヲ標榜シツツ國家ヲ惡ミ愛憎ニヨリ揀リ嫌ヒヲナスハ、彼等ノ根本主義ニ矛盾スルモノトイフベシ。

國家ヲ利益  
ヲ對ス  
ルナリ、  
國權ハ、  
生命ノ發揚  
來ルモノニ  
命ヲシテ、  
外ナルモノ  
アルヲモツ  
セラレズ、  
人又ハ階級  
ノ私ハ見  
抗シタクナ  
今日ハ西洋  
ニモ國權ノ  
普力ヲ益  
所ガ益  
ツツアラレ

法律家ノ團體ハ法律ノ形式ノミヲ見テ治罪ノ解釋ヲナシテ喜ビ居タリキ。神ノ意ニ反シテ私ヲ遂グルヲ以テ「イエス」ハ斯ノ如キ形式ヲ却ケル考ナリキ。徒ラニ國家權力ニ反抗スル精神ニハ非ズ。信仰ガ其ノ當時ノ不完全ナル國權不完全ナル國法ト混ジテ居ル故、截然分離シテ非ズ宗教文ケヲ別ニシ之ヲ神聖ノモノニ成サントシ、勝手ノ形式ヲ追ヒ出シ、人ハ最深ノ心ヲ活カサント思ヒシノミ。「イエス」ハ死セシガ國家ノ反逆人トシテ死セシニ非ズ。往往之ヲ誤解セル歴史アリ。中世ノ如キハ法律ハ惡キモノ、國家ノ如キハ罰當リナリトセリ。「イエス」ハ左様ナ考テハナク、凡テテ革命スルノ意ニ非ズ。先ツ宗教ノミヲ正シクセントセシノミ。今日ノ權力ハ歐洲ニ於テモ其ノ性質圓滿ニナリタルモノニテ、國家ハ宗教ヲ宗教ハ國家ヲ刺激シテ居ル。(皇國ハ古昔ヨリ神國ヲ理想トス) 宗教ハ俗世間ノ權力ヲ匡正シ圓滿ニスル所ニ價值アリ。國家ヲ離レテ宗教ハ一カノ價モナク、斯クナリテハ眞ノ宗教ニ非ズ。個人ヲ救フトイヒツツ普遍我ヲ救フコトヲ忘ルルガ如キハ、最モ近眼ノ極ナリ。個人ヨリモ先ツ國家ヲ愛スベシ。之ナクバ宗教家ハ價值ナキモノトイフベシ。

然レドモ此ノ教モ元猶太教ヨリ出デ猶太教中ニ存スル各要素ニツテ主從ノ關係ヲ明ラカニシ、其ノ生ジタル弊害竝ビニ意味ナキ形式ヲ除去セシモノニ外ナラザレバ尙根本ニ於ケル、大ナル獨斷的竝ビニ專制的臭味ヲ脱セズ。否消極的ナル猶太教ヨリ更ニ積極的ナル基督教トナルニ至リテハ、汝ノ欲セザル所ハ之ヲ人ニ施ス勿レ、主義ヲ改メ、汝ノ欲スル所ハ之ヲ人ニ爲セ、一ニ〇〇ノ幟標



來者ハ拒  
マザルナ  
ナドモ去  
レドモハ  
者ヲモハ  
トスルハ  
ウシテハ  
太人ノ猶  
リ、生命ノ  
保存ニツ  
テモ然リ  
佛、空、如  
ズ、教、の  
ナ、ラ、ク

ヲ立ツルコトナリ。他人ヲシテ己ノ希望スル神ノ愛護ニ歸セシムルヲ理由トナシ之ニ其ノ獨斷的ナル教義ヲ強ヒ他人ノ行動ニ干渉シテ息ムコトナキヲ美事トセシムルニ至レリ。此ノ強迫主義ハ羅馬人ノ征服主義ニヨリ絶大ノ養ヒヲ得基督教ノ敵ガ滅ビ人民ハ哲學思想ノ幼稚ナリシ中世ニ至ルト共ニ益此ノ癩ヲ發露シ中世ノ末期ニ至リテハ猶太人間ニ於ケル猶太教ヨリモ一層專制的形式ト爲リ堂堂ト一層多大ナル弊害ヲ發生セシメタルモノナリ。此ノ一癩アル基督教コソ絶エズ西洋人ノ進取的氣質ヲ養ヒツツアル貴重ナル根本的ノ源泉ナリ。(佛教哲理九五頁後半參照)

人ニ苦シメラレテモ基督ノ信仰ヲ得タル者ハ幸福ナリトセリ。故ニ人ガ嫌フモ惡ク云フモ其ノ人ヲ救フテヤル爲ニ信仰ヲ強ユルコトニナル。

「イエス」ノ改革ハ猶太教ヲ廢止シテ之ニ替フルニ新ナル教ヲ以テセシモノニ非ズ。猶太教ヲ以テ猶太教ヲ改革セントセシモノナリ。在來ノ教ノ打破ニ非ズシテ其ノ精神ノ發揚ニ在リ。枯死セル外形ヲ一掃シテ精髓タル形式ニ立チ返リ。其ノ活生命ヲ發揚セントセシモノナリ。從ツテ其ノ依ル所ノ形式ハ大

トナク小トナク一トシテ猶太教ニ存セシ形式ニ非ザルハナシ。是ニモ關セズ「イエス」ノ宗教ハ猶太教ト異ナリタル生命ヲ享有セリ。「イエス」ノ宗教ガ新ナルハ實ニ「イエス」ノ活キタル人格ヲ通ジテ其ノ我ノ中ニ神モ人モ神ノ國モ律法モ新シキ意義ヲ得タルガ故ナリ。「イエス」ナル我ヲ通シテ其ノ人格ノ中ニ得タルヲイフ直チニ「イエス」ノ教ノ形式精神ヲイフニ非ズ。「イエス」ノ事實上存在セシ我ヲ通シ「イエス」トイフ人格者ノ中ニ輝キツツアル形式ナリ。又其ノ精神ナリ。猶太教ノ神ト「イエス」ノ信仰セシ神トハ其ノ言ヒ表ハシノ形式ニ於テハ同一ナレドモ其ノ價值ニ於テハ甚ダシク異ナレリ。「イエス」ノ認メタル律法「イエス」ノ神ノ國ト猶太教ノ認メタル是等ノモノトハ其ノ形式ヲ等フシテ全ク其ノ生命ヲ異ニセリ。「イエス」ノ神ハ擴我ニヨリテ存在スル神ナリ。猶太教ノ神ハ我ヲ離レ外部ニ凝然トシテ存在スル神ナリ。(此ノ宗教ノ中心ガ人格ノ擴張ニ存スル點ニツキテハ佛教唯識論其ノ他新プラトーン學派ノ觀神ノ方法以下猶太教總論「アウグステイヌス」Augustinusノ我觀參照)

神ハ己ニ模  
造ラレタリ

「イエス」ノ  
改革ハ著シ  
ク佛敎ノ精  
神ニ近ツキ  
タルモノナ  
リ

第一門 第五章 宗教時代 第三節 基督教ノ確立 基督教ノ興起 五〇六  
トナリテ之ヲ回向シテ神ヲ活カシ法ヲ活カシ國ヲ活カシ一切ノ人ヲ活カサム  
トセリ。彼ニ信賴セル各人等ノ活キツツアルハ「イエス」ガ各人ヲ通シテ各人ノ  
中ニ活キツツアルモノニシテ活キタル「イエス」ハ又活キタル各人神國等ノ中ニ  
存在ス。換言スレバ「イエス」ハ各人ヲシテ皆「イエス」タルベキコトヲ悟ラシメタ  
リ。皆神ヲ持參シ皆神ノ子タル所以ヲ達スベキコトヲ勸メタリ。自ラ卒先シ  
テ各人ノ進ムベキ方向ヲ示シ事實上動かザル模範ヲ示シタル者ガ「イエス」ナリ。  
「イエス」ニ倣ヒ彼ヲ手本トシテ各人皆神ノ子タル所以ヲ成就スレバ各皆其ノ内  
部ニ「イエス」ヲ藏ス。從ツテ又自己ノ深キ心ハ神ト異ナリタル本質ヲ有スルモ  
ノニモ非ズ。茲ニ於テカ「イエス」ハ活精神ハ猶太敎ニ缺ケタル汎神論的觀念ヲ  
以テ充タサレタルコトヲ知ルベシ。

神ハ人間ニヨリ超越界ニ押シ上ゲラレタリ之ヲ取テ下ロセバ各人ハ皆神ナリ。但シ「イエス」  
ハ汎神論ノ如クニ神ト各人ト合一セルモノトハイハザリキ。各人ガ現在ハ神ニ非ズサレバ  
神ト合一スル關係ガ汎神論ト異ナル大體ニ於テ基督教ハ汎神論トイフコト能ハズ。タダ材  
料トシテ其ノ中ニ汎神論的要素ヲ有スルノミ。  
宗教ハ政治ノ根柢タルベシトイフハ宗教家ガ政治運動ニ奔走スベシトノ意ニ非ズ。信仰

ガ人格ト一致セズンバ到底役ニ立ツコトナシ。一致セバ根柢ノ信仰ガ其ノ人格ヲ通シテ汎  
般ノ行動トシテ現ハルベシ。

### 第二目 「イエス」ノ神

「イエス」ノ運動ハ復古運動ナリ。豫言者時代ノ精神ニ復歸スルニ在リ。「イエ  
ス」ノ神ハ新シキ神ニ非ズ。「イエス」ヲ通シテ本來ノ光ヲ發揮シタル神ナリ。

第一 「イエス」ノ神ハ人格者ヲ通シテ人格者ノ爲ニ尙人格者トシテ存スル神  
ナリ。

「イエス」ノ神ハ父ニシテ「イエス」ハ其ノ子ナリ。其ノ子ヲ通シテ始メテ眞ノ活  
キタル父ト爲リテ人間ニ對シ得タル神ナリ。神自身ガ直接ニ父タル徳ヲ現ハ  
セルニ非ズ。「イエス」ナル人格者ニヨリ其ノ父タル光ヲ現ハシタルナリ。此ノ  
神ハ又萬物ヲ支配スレドモ特ニ人間ヲ愛護スルノ神ナリ。人間タル猶太人ヲ  
愛護スルノ神ナリ。人格者ノ爲ニ存スル神ナリ。佛敎ヨリ映シ博愛禽獸ニ及  
而シテ其ノ神ハ益猶太敎ニ於テ有セシ人格ヲ發揮シ活働關係ノ主體トナリツ

之ヲ貫ケバ  
佛敎ノ如ク  
現象ト實ニ  
トハ離レヌ  
トイフ所ニ  
到着スベシ  
併シ人格者  
中ニハ在ラ  
ズ之ニ超越  
シテ存スル  
人格者ナリ  
道德的ノ神ト  
シテ道德上  
ノ效力ヲ有  
スルコトト  
益々確實ナ  
リ

第一門 第五章 宗教時代 第三節 基督教ノ確立 基督教ノ興起 五四八  
ツアリ。馬太傳一五二五—二七。智者達者ニ眼ヲ赤子ト雖モ例外ナキノ  
人ト見ルベシ。一切

本來汎神論ニアラザル故主觀論ニテ溢レタリ。強ケレドモ嚴格ニテ範圍狹シ。釋迦ノ混  
祭ノ圖ト耶蘇ノ磔刑ノ圖トヲ比スルモ耶蘇ノ方ハ少數ノ人間ノ悲シムモ釋迦ノ時ハ一切  
ノ天人惡鬼羅刹禽獸草木マデ悲シム。婆羅雙樹モ花ノ色ヲ失フテ凋落シタトイフ。愛ハ宇  
宙ノ根本ナリトセバ其ノ力ハ世界ノ一切事物ニ及ブベキ筈ナリ。然ルニ耶蘇ハソレ迄説カ  
ズシテ人間ヲ中心トセリ。其ノ代リニ主觀的精神ノ溢ルルヲ見ルナリ。

第二 「イエス」ノ神ハ「イエス」ヲ通シテ彼及ビ彼ノ信者ノ心ニ現ハレ得ル神ナ  
リ。

故ニ人間以外ニ之ト對立シテ存在スル神ナレドモ尙其ノ根柢ニ於テハ心識  
ヲ超越セルモノニ非ズ。佛教哲理一 九四頁參照。心識ヲ通シテ心識ノ中ニ存シツアル  
神ナリ。此ノ點ニツキテハ猶太教ノ「エホバ」モ尙一人ノ「イエス」ニヨリテ汎神  
ノ精神ヲ得タルモノト稱スベシ。但シ形式ニ於テハ汎神論ノ如ク神人本來ノ  
歸一ヲ主腦トセズ各人即チ神ナリト論ゼザルコトハ勿論ナリ。全ク神人ノ合  
一ヲ説カザルニハ非ザレドモ常ニ之ヲ希望トスルノミ。

大ナル主觀  
ハヤガテ  
汎神論ト  
スルニ至  
ル一客論

第三 「イエス」ノ神ハ唯一ナル絕對的獨占的原働者ナリ。

「イエス」ノ人格ヲ通シテ人格者ノ爲ニ心識ノ中ニ存スル神ハ尙各人ノ根本的  
精神根本的生活經驗ト合一シ得ル性質ヲ有ス。「イエス」ノ根本的意識ニヨリテ  
認メ得自覺シ得タル各人共通ノ根本意識ナリ。「イエス」ノ深キ信念ニヨリ保障  
セラレ總攬セラレツアル人間ノ普遍的信念ナリ。故ニ「イエス」ノ神ガ世界創  
設力ヲ有スル一元的ノ神タルコトハ歸スルトコロ佛教ノ所謂「三界ハ虛妄唯一  
心ノ所作」トイフモノトモ大體差異ナシ。佛教ハ此ノ點ニツキ消極的ノ言ヒ表  
ハシヲナセドモ之ヲ積極的ニイヘバ天地萬物ハ皆吾人ニ普遍ナル根本的大生  
命ノ作ルトコロニ非ザルハナク意識心識ヲ通シテナス大生命ノ作用タリ之ヲ  
神ノ創設力トハイフナリ。「カント」フキヒテ「佛教唯識論」佛哲一華嚴ノ哲理 同八  
頁參照。「イエス」ガ斯ク説明シタリトイフニ非ズ。「イエス」ノ教ノ形式ハ全然猶  
太教的ナレドモ「イエス」ノ深キ感ジガ此ノ種ノ汎神論的大精神ノ現ハレニシテ  
之ニヨリテ能ク猶太教ノ獨斷的形式ニ生命ヲ與ヘタルヲイフ。「イエス」ノ人格  
ニヨリ保障セラレツアル吾人ノ根本意識トシテ萬人一ニ歸シ無數ノ意識ニ

大生命ヲ實  
現スル爲之  
ヲ客觀界ニ  
超越セシメ  
タルノミ

「イエス」ハ  
學者ニ非  
ズ、信仰上  
ノ王ヲ以テ  
自任ス。個  
人ノ道具ニ  
ハ非ズ、故  
テ一人トシ  
テ拘束セラ  
ルコトアラ  
ズ。創設者ト  
シテハ、神  
トハ同一ニ  
シテ、其ノ  
ニ矛盾ナシ  
トイハザル  
ベカラズ、  
愛ニヨリテ  
創設スレバ  
ナリ

ヨリ表現セラレドモ、其ノ深處ニ於テハ二アルコトナシ。而シテ理法トイフ  
モ亦歸スルトコロ大生命ノ表現タル意識ヲ通シテ意識トシテ存スルモノニ外  
ナラズ。外物トイフモ亦歸スル所大生命ノ表現タル意識ヲ通シテ意識トシテ  
存スルノミ。是レ唯一絕對獨占的ノ原働者ヲ是認シ得ベキ唯一ノ根柢ナリ。

形式ハ素ヨリ異ナルモ、宗教ニハ必ず一ノ形式アリ。其ノ形式ニヨリテ教フルヲ得セシム。  
精神ハ同一ナルモ、其ノ形式ニ於テハ必ずシモ同一ナラズ。彼我萬人打テ捕ヒ一心同體トシ  
テ信仰ノ練習ヲ爲サシムルガ宗教ナリ。或形ニテ鍛練スルヲ要ス。自分一個ニハ不入用ニ  
テモ老弱男女貴賤都鄙歩調ヲ揃ヘルニハ必要ナリ。鹽砂粉等ヲ以テ鍛ヘ磨ク所ノ形式ヲ要  
ス。而シテ萬人ガ此ノ活精神ヲ得レバ次第ニ其ノ形式ヲ改メ又棄ツベシ。玉ヲ磨キテ何時  
マデモ粉ノ附キオハ宜シカラズ。  
大生命ヲ萬人ニ超越セシメテ考ヘ、神ガ人間ヲ創設シ、萬物ヲ創設セシモノトイフハ、無理ナ  
シ。唯一ノ普遍ナリ之ヲ外ニ出セバソウナル。唯獨斷教トイフハ形式ニツキテイフノミ。  
形式的ニ其ノ獨斷ナル教理ヲ主張シテ行ク故學問ノ根柢トシテハ基督教ハ困ル。耶穌教ヲ  
土臺ニシテ物理化學ノ研究ハ出來ヌ。唯其ノ精神ニ入りテ根柢トシテ見レバ何ニテモ解キ  
得ベシ。獨斷的教理ハ信仰練習ノ方便ナリ道具ナリ。此ノ精神ヲ活カセバ即チ足ル。(宣教  
師等ハ此ノ方便ノ方ヲ精神ヨリモ大切ニ思フテ居ル)

第四 「イエス」ノ神ハ廣ク人間ヲ愛スルコトニ重キ神ナリ。

「イエス」ノ神ハ道理ヲ重ンジ正義ヲ主義トスル神タルノミナラズ、其ノ最高ノ  
徳トスルトコロハ愛ニ在リ。神ノ愛ハ既ニ猶太教ニ於テ唱ヘラレタル所ナレ  
ドモ「イエス」ヲ通シテハ少クモ三點ニ於テ其ノ新シキ生命ヲ得タリ。

一 「イエス」ハ神ノ愛ヲ主要ノ地位ニ置キ、神ノ父タル性質ヲ統括的ノ方面ニ  
高メタリ。

在來希臘ニ於テハ理ヲ尊ビ、例ヘバ「ストア」學派ニテハ愛ヲ説キ、羅馬ニ於テ  
ハ意思ヲ主トセシガ「イエス」ハ愛情ヲ中心トナスニ至レリ。理ハ差別アル各人  
各物ニ普遍ナルコトヲ性質トスルガ故ニ、是等ノ同體タル所以ヲ發揮スルニ缺  
クベカラザルモノナレドモ、冷靜ナル道理ハ其ノ思惟ノ主體其ノ對象タル客體  
トヲ分立セシムル傾向アリ。意思ハ活動ニツキ他ノ意思ヲ合成セシメ得、統括  
セシメ得テ能ク多數人ノ合一スル所以ヲ保障シ得レドモ、強制的ニシテ且活動  
ノ主體ト客體トヲ對立セシメ、其ノ間ノ矛盾ヲ生ゼシムル性質アリ。然ルニ愛  
情ヲ以テスレバ異ナル者モ同ジクシテ、且熱誠ナルガ故ニ能ク差別ヲ以テ相對  
立セザル「ノ位置ニ達スルコトヲ得ベク、回向ノ關係ハ愛ニヨリテ全キヲ得ルモ

Caritas  
「ラテン」  
語ノ愛  
Charita  
梵語ノ愛  
Charité  
Charity

利益ヲ以テ  
シレバ冷淡  
ニシテ計算  
的ナリ狭ク  
客觀化ス

相對立シテ  
他ノ爲ニ  
ルトイフ  
チラ脱シ  
チ人、人  
ナリ、人  
ナリ、人  
即

羅馬ノ愛己  
ハ神ノ愛  
トナル  
トナル  
トナル

ノトイフベシ。此ノ愛自身ニハ理由計算等ナクシテ夫自身ノ價值アルモノナ  
レドモ然モ尙愛ノミガ其ノ性質程度範圍ノ如何ヲ問ハズ常ニ最高キモノニ  
ハ非ズ。タダ理由ナク差別ヲ排シテ擴我トシテ一體タル所以ヲ發揮シ回向ノ  
關係ヲ確實ナラシムルノ點ニ於テノミ至高ノ價值アルモノナリ。曩ニ新ブ  
トイン學派ハ歸一同體表現ノ要ヲ以テ靜坐ニ在リトセシガ今ハ又表現ノ要ヲ  
以テ總ベテ愛ニ在リト覺信セラレタルナリ。

理窟ニテ愛ハ説キ得ズ各人ノ經驗ニテ推感スベシ。愛ハ低キ度ニテハ他人ノ爲ニスルコ  
トヨリ生ジ終ニハ爲ニトイフコトヲ離レ同體ト爲リテ生死スルコトナリ。此ノ神聖ナル愛  
ハ之ヲ推シ擴メザルベカラズ。推シ擴メテ普遍同體タル所以ヲ發揚シ此ノ根據ノ上ニ立ツ  
ガ表現人ナリ。主觀客觀ノ合一ノ域ニ立ツ者之ガ即チ表現人ナリ。

二 「イエス」ノ神ハ博愛ノ神ナリ。 彌陀ノ普 慈參照

猶太人ノ神ハ「イエス」ラエル民族ヲ偏愛シ其ノ私ヲ是認シツツアル神ナリ。「イエ  
ス」ノ神ハ人間タル「イスラエル」民族ヲ愛スル神ナリ。「イスラエル」人ヲ愛スルモ  
コレハ「イスラエル」人ヲ通シテ人間ヲ愛スルナリ。サレバ「イスラエル」人ノ不都  
合ナル私ヲ是認スル神ニ非ズ。反ツテ其ノ私ヲ棄テテ其ノ私ヲ擴張セムコト

普慈博愛

立憲國ハ總  
ベテノ絕對  
主義ヲ否定  
セル國ナリ

ヲ欲シツツアル神タルナリ。蓋シ愛ハ人ヲシテ其ノ同體タル所以ヲ發揚セシ  
ムルモノナレドモ博愛ニ非ズシテ偏愛ナルトキ又普慈ニ非ズシテ差別ノ愛ナ  
ルトキハ他ニ對シテ反ツテ之ヲ冷遇スルコトトナリ且徒ラニ差別ヲ長ゼシム  
ルモノナリ。故ニ偏愛ハ即チ私愛ナリ。此ノ點ヲ悟リテ一體ヲ發揮スルニ重  
要ナル愛ノ專制ヲ打破シテ汎ク之ヲ分與セムト計リシハ「イエス」不滅ノ偉功ナ  
リ。積極的ニ隣人ヲ愛スル民族ヲ愛シ人類 曩ニ猶太教モ超越神ヲ認メ世俗ノ  
權力及ビ認定法ヲ民族的ナラシメツツアリシガ尙制度上權力ノ專制ヲ打破ス  
ルニハ足ラザリシナリ。サレバ歐羅巴ニ於ケル專制打破ノ第一聲トモイフベ  
キモノハ「イエス」ガ唱導シ實行シタル博愛ノ確立ニヨル愛情專制ノ打破ナリト  
ス。

博愛モ博愛ノミアルニ非ズ。普通ガ特殊ト相待ツガ如ク博愛モ差別愛ト離レテ存スルモ  
ノニ非ズ。差別ノミニ執着セバ愛ノ專制トナル。立憲國ハ國家ノ專制ヲ破リ總ベテノ方面  
ニ互リ專制ヲセムトイフ性質ヲ發揮シタルモノナリ。此ノ時ハ同體ノ根柢タル愛情ノ專制  
ヲ破リ博愛ノ基礎ノ上ニ愛ヲ分擔ス。博愛ヲ分擔スルノ愛ガ差別的ニ見ユルノミ。此ノ根  
據タル博愛ヲ知ルト知ラヌトハ大差アリ。佛ノ普慈モ之ト同一ニテ極重惡人。無他方便。



是レ哲學的  
ニ精神ヲ  
ベタルナリ  
基督ノ教  
此點ヲ最  
モ諷刺ナリ

稱スル「イエス」ノ献身の博愛ニヨリテ之ヲ證明スルコトヲ得ベシ。故ニ此ノ神ハ先ヅ聖子「キリスト」ヲ降シテ人間ノ救済ヲ實行セシメ、尙進ンデ各人ニ神ト同ジキ本質ヲ與ヘムト欲シツアル神ナリ。但シ各個人ガ現ニ即チ神ナリト唱ハラレタルコトナク「イエス」スラ即チ神トセララルコトニツキテハ、爭論ノ中心點ト爲リシコトアリシナリ。併シ學理上ハ「イエス」ガ表現人トシテ即チ神タルコトハ勿論彼ニ倣フテ向上ヲ實現シツツアル者ハ神ノ表現人トシテ即チ神タル所以ヲ發揚シツツアル者トイハザルベカラズ。

### 第三目 「イエス」ノ律法ニ對スル地位

「イエス」モ亦猶太教ニ依リテ、猶太教ヲ發揚セムトセシ者ナリ。故ニ「モーゼ」ノ律法ヲ尊重シ、之ヲ以テ神意ト爲スコトモ亦猶太教徒ト異ナラズ。彼自ラガ神ヨリ受ケタル使命モ此ノ律法ヲ完成スルコトニ在リト信ジタリ。馬太五ノ一七ノ一 併シ此ノ完成ハ彼ノ活キタル精神ヲ通シテ爲サムト企テシモノニシテ其ノ形式ヲ唯形式的ニ是認セシモノニ非ズ。律法ノ學者及ビ「パリサイ」Pharisee

認定法ノ解  
釋ニツキテ  
モ此ノ精神  
ハ大切ナリ

「モーゼ」ノ認メツツアル律法ハ、彼ノ律法ト稱スルモノニ非ズ。學者及ビ「パリサイ」ハ形式的對立的差別的ニ神ト人、律法ト人ノ行爲トノ關係ヲ研究シ、意味ナキ形式ニ拘泥シ、正義ノミヲ主義トシテ律法ノ内容ヲ解釋セリ。「イエス」ハ此ノ種類ノ研究及ビ主義ニ依リテハ、神意タル律法ヲ見ル能ハザルモノト信ジ、信心ヲ修養シテ歸一的無差別的ニ神ト人ト律法ト人ノ行爲トノ關係ヲ研究シ、純然タル形式ヲ捨テテ精神ニ立チ返リ、博愛ヲ主トシ、正義ヲ從トシテ律法ノ内容ヲ改革シ、斯クシテ知ラルル律法、コソ眞ノ神意タル律法ナリトセリ。

サレバ「イエス」ニ從ヘバ、律法ハ各人ノ深キ信心ニ基ヅキ、神ト合一シ神ノ子タル「イエス」ヲ通シ、又ハ自ラ神ノ子トシテ其ノ存在ヲ認メ得ルモノナリ。律法ハ各人ノ深キ信心ヲ通サズシテハ、決シテ其ノ中ニ現ハレ得ルモノニ非ズ。各人格者ノ最モ眞面目ナル根柢最後ノ活精神ヲ經テ現ハレツツアルモノナリ。サレバ形式ニ價アルニ非ズ。形式ハ唯此ノ精神ノ現ハル手段ニ外ナラズ。形式ニ依リテ精神ヲ生ズルニ非ズ、活キタル精神ノ現ハルニハ種種ノ形式ヲ藉ルコトヲ要シ、此ノ限度ニ於テ形式ヲ尊重スルコトヲ要スルノミ。而シテ神

著シキ自由  
離解ヲ禁ズ  
「イエス」ガ  
普通意思ト  
言明セシニ  
非ズテ居リ  
得シテ居リ

意タル律法ノ現ハルルニ必要ナル根本的信仰ハ萬人ノ歸一スベキモノ少クモ「イエス」ノ活キタル信仰ヲ通シテ歸一スベキモノナルガ故ニ之ニ基ツキ存スル律法モ亦各人歸一ノ信仰ヲ根本トシテ解釋セラレザルベカラザルコトトナリ對立的計算的ナル正義ハ從ニシテ歸一的ナル博愛ガ主眼タルナリ。「イエス」ガ宗教的律法ヲ現世ニ於ケル道德的ノモノト調和セシメタルノミナラズ特ニ神ニ於テ普遍意思ノ主體ヲ見律法ニ於テ普遍的規律意思ノ性質ヲ感得シ各人ノ普遍同體ヲ根據トシツツ神意ヲ知ラムトシタルハ正義秩序ノ愛ヲ主眼トセズ「一」ヲ解釋スルヲ要ス。路加一五章ノ「三」ノ「ミ」ニテモ爾後二千年間ノ形式的神學者ニ超エタル根本的普遍的精神ヲ有セシコトヲ證明スルモノナリ。非ズ彼ノ人格ノ感得ノ大ナルコトヲ證明スルモノナリ。

猶太教ハ飽クマデ神ト人ト對立シ人間モ相互ニ絕對ニ對立スルモノトセリ。故ニ重キモノハ正義ナリキ。是レ對立的ノ精神ニテ解釋セシ結果ナリ。故ニ神ノ罰モ幸福モノノ報酬ト見タリ。嚴格ニ人ノ眼ヲ潰セバ眼ヲ潰サルナリ計算的ノ教ナリキ。「イエス」ハ何故律法ガ神ノ意思カトイヘバ吾人萬人ニ共通ナル深ミノ信仰心ニテ解釋シ得ル故神ノ意思ニテ唯「一」ノ存在ヲナス。「イエス」ニヨリ「イエス」ヲ通ジテ感得サル。其ノ普遍的根本的的信仰ニ基ツク

大神道ノ偉  
大健全ナ  
大精神ヲ  
省スベシ  
古神道ノ  
仰ニヨリ  
シヲ總攬  
スベシ

行動及其結  
果ヲ見ズ人  
格ヲ見ズ人  
身ヲ見ズ人  
近ガ神ニ接  
ス

故ニ普遍的規律意思ナリ。普通規律意思トシテ神ノ意思ナリ。此ノ意思ニ依リテ各人ハ行動ヲ規律セザルベカラズ。神ノ意思ハ普通意思ナリ神ノ心ハ普遍的ノ心ナリ。神ト人トハ對立セルガ又歸一シテ存在ス。各人ハ異ナレドモ本來ハ異ナレドモ非ズ。此ノ根柢ノ上ニ法ガ活キテオル故正義計リニテハ不足ナリ。同體タル愛ヲ表現セザルベカラズトセシハ批難ノ點ナシ。唯形式ニ於テ批難ノ點アルノミ。近世ノ法律學者ガ法律論トシテ彼是イフガ「イエス」ノ心ニ達シテ居ラズ其ノ上ニハ出ナイ。法典ノ文章句ノ形式ニ執ハレテ根本ニ入用ナル活キタル普遍的信仰モ感得モ缺ケタリ。サレバ「イエス」ノ心ヲ研究スルハ最新シキ法律論ヲ生ジ出ダスベキ所以ナリ。「イエス」ヲ活精神ハ此ノ意味ニテ第二十世紀ニ於テモ復活スベキモノデアル。

律法ハ神意ナリ。少クモ「イエス」ヲ信賴スル各人ニ普遍ナル根本意識ヲ通シテ各人ノ普遍意思中ニ存スル各人ノ生活活動ノ規律力ナリ。此ノ規律力タル神意即チ規律普遍意思ニ根據シテ爲ス各人個個ノ行動ハ各人ヲシテ神ノ子タルヲ得セシムレドモ之ニ違反セル行動ハ各人ヲシテ神ヨリ遠離セシム。律法ノ學者及ビ「バライザイ」ハ各人ガ個個ノ場合ニ律法ヲ守ルト否トニ從ヒ利益不利益ヲ説キタレドモ「イエス」ハ此ノ觀念ヲ捨テ神意ヲ守ルハ即チ悟ニシテ神ニ近ヅキ得ル行動ナリ。神意ニ反スルハ迷ニシテ神ニ遠ザカルノ行動ナリトセリ。



其ノ用キル所ノ説明ハ、尙神ノ賞罰ノ形式ニ依リタル場合アレドモ、歸スルトコロハ以上ノ意味ニ外ナラズ。故ニ彼ノ深ミニ於テハ、宗教界ニ於テ所謂權利義務ニ當ルモノハ、唯特定ノ場合ニ於ケル悟タルノ結果ニ歸スルノミ。權利義務ノ別ナク義務ヲ行フコトハ即チ權利ニシテ、權利ヲ行フコトハ即チ義務ナリ。共ニ個個ノ場合ニ於ケル悟ノ心ナリ。悟ノ心トハ神意ヲ我ガ意思トシテ行ハムトスル意思ヲイフ。而シテ此ノ悟ヲ實行スレバ即チ神人ノ合一ヲ成就シ得ベク、實行セザレバ此ノ域ニ達シ得ザルモノナリ。

「表現人ノ權利義務」ハ「獨立人ノ權利義務」ニ比較セバ常ニ合一セリ。唯合一ノ範圍内ニ於テハ場合ニヨリ之ヲ區別シ得ルコトアルノミ。又表現人ニツキテハ義務トイヒ責任トイフモ、唯其ノ結果タルコトト原因タルコトトノ差アルノミ。

要スルニ「イエス」ハ「計算の利益の對立的ナル權利義務ノ關係ヲ改メ、神ニ歸一スル心持ヲ以テ爲ス所ノ生活ノ發揚ヲ旨トスル者ナリ。此ノ點ニツキテモ彼ノ死後二千年間、法學者ハ決シテ「イエス」以上ニ出ヅルコト能ハザリシモノナリ、而シテ永ク歐羅巴ヲ支配シ、ツアル羅馬系ノ法律思想ノ對立的、差別的、獨立的

羅馬法ノ大イ  
精神トイ  
得トノ對照

ナルトコロト、其ハ法理ノ精神ヲ異ニスルハ、趣味アル對照タルナリ。「佛教  
哲理權利義務論參照」

猶太人ノ律法ハ又人生ノ行動ヲ規律ス。法律生活並ビニ宗教的生活ヲ混ゼテ規律セル故、權利義務ヲ其ノ中ニ論ジタルナリ。學者トハ律法ノ學者即チ神學者即チ法學者ナリキ。タダ此ノ學者ヲ中心トシテ律法ヲ研究セシ「パリザイ」アリ、羅馬法ノ權利義務ノ思想ヲ以テ解釋セリ。對立的利益の意ニテ解釋セリ。故ニ「イエス」ハ全然之ニ反對セリ。神ニ對スル權利義務ハ律法ヨリ生ズルモノニ非ズ。律法ニ從ツテ行動スルハ神ノ信仰心ガ主腦ニシテ、其ノ場合ノ個人ノ行動スル意思ハ悟ナリ。此ノ個人ノ意思ハ、個個特定ノ行動ニツキキ神ノ意思トシテ有スル各人ノ意思ナリ。神ハ常ニ外ニ計リ居ラズ（内ニ存スルト「イエス」ハ言明ハセマガ）常ニ神人合一ニ本意アル故、各人ガ其ノ深キ意思ニ基ツキテ行動スルコトハ、神ノ意思ヲ表現セル個個特定ノ意思ナリ。之ガ即チ各人ノ權利義務ニ當ル。其ノ頃ノ計算的ノ考ヲ排シテ少クモ「イエス」ヲ信ジ、「イエス」ヲ信仰ヲ通シテ各人ガ歸一スル基礎ノ上ニ有スル意思ナリトセリ。故ニ各人ガ神其ノ儘ナリト言ハザルニシテモ、神人合一ガ重大ナル點ナリ。

### 第四目 「イエス」ノ神ノ國

猶太教ノ神ノ國ハ形式的ニ外部ニ存在スル國ナリ。神命ニ從フテ「メシヤ」Messiasノ支配スル國ナリ。「メシヤ」ハ「ダヴキデ」系ニシテ、尙「イスラエル」ノ王トシテ、

表現ノ哲  
以テスレ  
此ノ邊ガ  
明此ノ説  
得ヲルナ  
リ

「イスラエル」ノ覇權ヲ設定シツツアルモノナリ。「イエス」モ全ク此ノ形式ヲ排斥セズ。但シ神ノ國ヲ以テ外部ニ存スルモノト爲セシト共ニ又神ノ國ヲ以テ己心ノ内ニ存在スルモノト爲セリ。此ノ二見解即チ神國ヲ外部的ノモノトスルト内部的ノモノトスルト相反對スルガ如ク見ユレドモ「イエス」ニ取リテハ反對モセズ又矛盾モセザルナリ。

第一 「イエス」ノ神ノ國ハ内部的ノモノナリ。

「イエス」ノ神ハ元來「イエス」ノ人格ヲ通シ其ノ中ニ現ハレツツアル神ナリ。「イエス」ノ信賴者信仰者ヲ通シ其ノ中ニ見ラレ得ル神ナリ。換言スレバ「イエス」及ビ其ノ信徒ノ最モ統括的ナル活キタル根本意識中ニ活躍シツツアルモノニシテ尙是等ノ各個ニ偏在セズ一切人ニ超越スル普遍的な大生命ナリ。此ノ人格ノ深ミニ現ハル神ト各人以外ニ是等ヲ越エテ存スル大生命トハ決シテ別物ナルニ非ズ二者ニ非ズシテ唯一ナリ。

斯クノ如キ唯一ニシテ兩方面ヲ有スル神ハ各人ノ内部ニ在リテハ各人ノ最深ナル信仰誠意ヲ通シテ愛ノ力ヲ以テ其ノ人ノ内部ノ一切ノ心ノ作用ヲ支配

シ○統括○ス。此ノ場合ニ此ノ根本意識ニヨル他ノ心ノ作用ガ圓滿正當ナル支配ヲ受クルハ即チ内部ニ於テ神國ヲ實現シツツアルモノナリ。故ニ「イエス」自身モ己ノ内心ガ神ノ國ノ始マリニシテ神ノ國ハ既ニ「イエス」ニ於テ成就セラレタルコトヲ信ジタリ。管ニ「イエス」一人ノミナラズ苟モ「イエス」ニ信賴シ彼ニ會通スレバ「イエス」ノ深キ心持中ニ現ハレタル神ハ其ノ儘各人ノ深キ誠心ニ見ハルベク此ノ眞面目ナル根本意識ニヨリ其ノ偶然ナル一切ノ心ノ作用ヲ支配シ得レバ神ノ國ハ最早各人ノ内部ニ到來セルモノナリ。是レ「イエス」ノ信仰ニシテ各人ニ對スル教ナリ。

「イエス」ノ此ノ覺信ハ學理上モ亦最モ根本的ノモノニシテ決シテ迷信ト目スベキモノニ非ズ。現今ノ立憲國ノ如キモ其ノ一面ハ各個人ノ内部ニ實現セラレツツアルモノニシテ是ニヨツテ其ノ他面タル外部ノ立憲國ガ存在シ得ルナリ。各人ガ其ノ深キ誠心健全ニシテ活キタル普遍的信仰ニ基キ愛及ビ正義ノ力ニヨリ其ノ内心ノ一切ノ作用ヲ支配スルコトニヨリ各人ニツキ實現セラレツツアル普遍的な生命ガ内部ノ立憲國ナリ。立憲國ノ各員ハ夫レ夫レ其ノ内部



設スル模型理想ヲ其ノ内部ニ成就スルコトガ急務デアアル。換言スレバ各個人ハ其ノ表現人タル性質ヲ充分ニ發揚セネバナラヌ。内部ノ神國ヲ成就スルトイフコトハ即チ各人ガ表現人タル所以ヲ成就スルコトニ外ナラヌ。(佛敎哲理六百四十頁以下六百五十一頁ニ至ル參照)

立憲國ニ就キテ説明スルモ亦其ノ通りデアアル。最モ手近キ形式ヲ見レバ立憲國ニハ憲法ガ在ツテ總攬者ノ下ニ政府ト議會ト裁判所トガ相對立シテ法律ノ制定運用ヲ掌ツテ居リ又財務會計ニ關シテハ政府ト議會ト會計検査院トガ相對峙シテ居ル。ケレドモ是等ハ徒ラニ各個人ノ外部ニノミ存スル事柄デモナク又外部ニ於テノミ效用ヲナスモノデモナイ。是等ノ外部ノ形式ハ各個人内部ノ理性ヤ需要ヤ自由行動ノ力ヤ其ノ他各般ノ心ノ作用ノ關係ヲ形式的ニ結成セシメタモノニ外ナラヌノデ斯クシテ定ツタ外部ノ關係ハ其ノ儘萬人ニ一樣ナル其ノ内心ノ關係トナツテ存在シ此ノ内心ヲ通シテ效用ヲ實現スルノデアアル。其ノ他國家ニ存スル憲法民法商法等ノ認定法モ外部ニ存スルノミデナク各人ガ此ノ種ノ普遍意思ヲ

一切ノ認定  
法ハ各人  
意思トシテ  
於テ内部  
於テ内部  
於テ内部

自己ノ内部ニ現ハシ之ヲ前提トシテ各般ノ自由行動ノ意思ヲ定ムル所ニ妙用ガ在ル。憲法以下各種ノ法律命令ハ社會ノ外部ニ於テ強カラ假リテ其ノ効能ヲ奏スルヨリモ反ツテ各自ノ内部ニ於テ其ノ効力ヲ生ジ各自ガ外部の形式的ニ争フコトナク矛盾ヲ生ゼシメズニ公私ノ生活ヲ營ミ圓滿ニ融通スル結果ヲ來サシムルコトヲ根本的ノ性質トスル。此ノ種ノ認定法ノ外部の強制的ナルハ其ノ大切ナル一方面デアアルガ其ノ理想トスル所デハナイ。繰返シテイヘバ認定法ヤ制度ノ効力ハ各人ノ内部ヲ通シテ調和セル大生活ヲ現出セシムル所ニ在ルノデ必ズヤ認無カラシメンカナドトイフコトモ畢竟此ノ邊ノ主旨ニ歸スルコトト思フ。  
「イエス」ハ自己ノ内部ニ神ノ國ノ現存スルヲ感ジ何人モ其ノ心中ノ惡魔ヲ逐ヒ出セバ神ノ國ヲ現ゼシメ得ルコトヲ信ジタリ。神ノ國ハ外部ニノミ存スルニ非ザレドモ無數ノ人人ニツキテ一異リタル内部ノ神國ガ存在シ相對立シテ矛盾反對シツツアルヲ許サズ。斯クテハ神ノ國ニ非ズシテ鬼ノ國デアアル。千萬人ガ夫レ夫レ勝手ノ國ヲ有スルコトナク各其ノ内